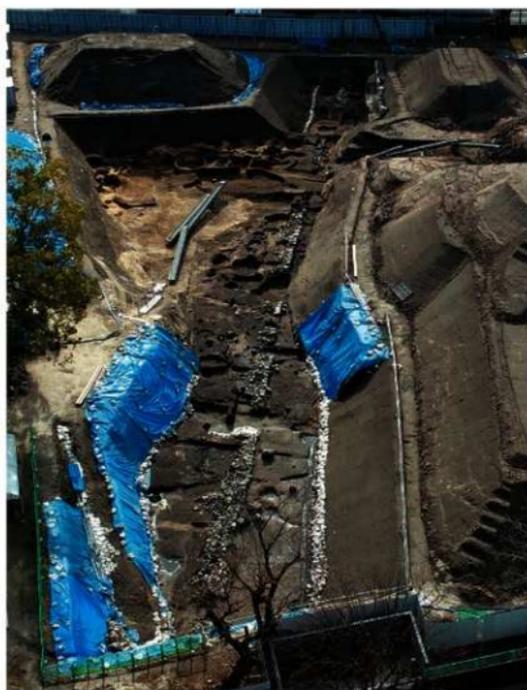


福岡市埋蔵文化財年報 VOL.35

—令和2（2020）年度版—



2021

福岡市教育委員会

序

福岡市では、文化財保護法の趣旨に基づき、埋蔵文化財の適切な保存と活用を図ることを目的として、公共及び民間の各種開発事業の事前審査、記録保存のための緊急調査、また重要遺跡確認調査等を実施しております。

本書は、令和2年度における埋蔵文化財保護行政の概要を報告するものです。開発事業に起因する事前審査件数は大幅な増加傾向をみせており、これに伴う緊急調査件数は平成25年度より微増し続けています。今後とも埋蔵文化財保護業務については適正で迅速な対応を進めたいと思います。

本書が文化財保護に対するご理解の一助となり、また学術資料として活用いただければ幸いです。

令和4年3月24日

福岡市教育委員会
教育長 星子 明夫

例 言

- ・本書は、埋蔵文化財課、史跡整備活用課が令和2年度に実施した各種開発事業に伴う事前審査と発掘調査の概要及び本報告について収録したものである。
- ・本書に記載ある令和2年度調査のうち、調査番号2005、2009、2010、2014、2021、2022、2027、2041、2047はこの年報をもって本報告とする。また、令和元年度調査のうち、1963、1966、1969についても年報において本報告を行う。
- ・Vの各調査の概要及び調査報告は各調査担当者が分担執筆した。
- ・上記以外の執筆は田上勇一郎が、編集は田上と山本晃平が担当した。

表紙：博多遺跡群 221 次調査発見の石積み遺構

目 次

I 令和2年度文化財活用部の組織と分掌事務	2
II 開発事前審査	3
III 発掘調査	5
IV 公開活動	5
V 令和2年度発掘調査概要および報告	6
報告書抄録	80

1 令和2年度文化財活用部の組織と分掌事務

文化財活用部の組織と分掌事務

文化財活用部 50

文化財活用課 10

管理調整係(事3、文2)	部の総括、予算・決算、庶務・経理、文化財施設の管理
調査普及係(文1、学1)	文化財保護審議委員会、文化財の調査、普及事業
歴史資源活用係(事1、文1)	歴史文化基本構想の策定、文化財の活用推進

史跡整備活用課 8

福岡城跡整備係(事1、文3)	福岡城跡の調査・整備・活用、課の庶務、福岡みんなの城基金に関すること
鴻巣館跡整備係(文1)	鴻巣館跡の調査・整備・活用
史跡整備活用係(文1、事1)	史跡の整備・活用

埋蔵文化財課 24

事前審査係(文4)	公共及び民間開発事業に係る埋蔵文化財の事前審査
主任文化財主事(文1)	
調査第1係(文5)	課の庶務・主に東部地区の埋蔵文化財の発掘調査及び保存
主任文化財主事(文4)	
調査第2係(文6)	国庫補助事業総括・主に西部地区に係る埋蔵文化財の発掘調査及び保存
主任文化財主事(文3)	

埋蔵文化財センター 7

運営係(事1、文3)	施設の管理運営、埋蔵文化財の収蔵・保管・展示等、教育普及
保存分析係(文2)	埋蔵文化財の保存・分析
事：事務職 文：文化財専門職 学：化学芸職	

埋蔵文化財課の職員構成(文化財専門職)

埋蔵文化財課長	菅波正人	調査第1係長	吉武学
事前審査係長	木田浩二郎	係員	久住猛雄 木下博文 今井隆博
係員	松崎友理(～令和2年9月)		神啓崇(～令和2年9月)
	神啓崇(令和2年10月～)	主任文化財主事	佐藤一郎 池田祐司 屋山洋 常松幹雄
	山本晃平 三浦悠葵	嘱託員	中國得祥
主任文化財主事	田上勇一郎	調査第2係長	藏富士寛
		係員	清金良太 中尾祐太 三浦萌 岩隈拓人 荒牧宏行
		主任文化財主事	赤坂亨 阿部泰之 大庭康時
		熊本市派遣	阿部泰之(下半期)

II 開発事前審査

1. 概要

本市では、土木工事等の各種開発事業に係る埋蔵文化財の取り扱いについて、開発事業計画地における埋蔵文化財の有無を確認した上で、保存に係わる協議等を行っている。

公共事業については、関係機関・部局に次年度の事業計画の照会を行い、埋蔵文化財の保存上問題になると判断される事業についてはその取り扱いについて協議を行っている。

民間の開発事業については、都市計画法に基づく1,000㎡以上の開発事業、建築基準法に基づく建築事業等を対象として事前協議を求めている。また建築等の計画策定段階での照会にも窓口やメール、ファックスで応じ、埋蔵文化財の保存上の措置について必要な指示を行っている。平成24年8月からは本市ホームページにて、包蔵地外町丁名リストの公開を開始し、利用者の照会の便宜を図っている。

2. 令和2年度の事前審査

令和2年度の事前審査件数は、表1のとおりである。福岡市域の開発事業を反映するように増加傾向となる。平成22年からは年間2500件前後で高止まり状態となっていたが、令和2年度は公共事業・汚水樹の審査照会の減少と新型コロナウイルス蔓延により、民間事業の申請が減少した。

表1 平成16～令和2年度事前審査件数推移

事業	内訳	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
公共	事業開発審査件数	662	668	665	769	862	1,143	1,191	1,181	1,181	1,220	969	1,381	1,381	1,280	1,322	1,443	729
	申請審査件数	112	113	133	161	202	228	195	191	184	135	290	155	164	137	115	139	125
	審査件数計	774	781	798	930	1,064	1,371	1,386	1,372	1,365	1,355	1,279	1,536	1,545	1,417	1,437	1,582	854
民間	窓口照会件数	5,842	6,126	8,309	7,226	6,144	5,555	6,225	6,791	7,195	6,491	12,301	12,356	14,349	14,773	16,687	16,520	15,488
	PAO照会件数	1,499	2,296	3,354	3,990	3,537	3,729	4,584	5,716	7,170	7,999	8,648	9,317	9,936	9,904	10,524	10,749	10,272
	照会件数計	7,341	8,422	11,663	11,216	9,681	9,284	10,809	12,507	14,365	14,490	20,949	21,673	24,285	24,677	27,211	27,269	25,760
	申請(審査)件数	1,207	1,257	1,090	1,011	1,000	924	1,184	1,176	1,261	1,339	1,140	1,147	1,123	1,134	1,265	1,348	1,118
	公共・民間申請審査件数計	1,319	1,370	1,223	1,172	1,202	1,152	1,379	1,367	1,445	1,474	1,430	1,302	1,287	1,271	1,380	1,487	1,243
公共審査件数計	1,981	2,038	1,888	1,941	2,064	2,295	2,570	2,548	2,626	2,894	2,419	2,683	2,668	2,551	2,702	2,930	1,972	
民間調査実施件数	365	419	327	384	364	345	371	371	379	443	318	286	267	254	353	322	263	

申請内容(表1・2)

公共事業に伴う依頼は125件となり、昨年度からわずかに減少している。事業者別では、国機関19件、福岡県3件、福岡市103件となる。事業別に見ると水道・電気等55件、道路21件、空港関係16件、学校関係11件、公園関係5件、河川関係4件、市営住宅の建て替え事業2件、その他の開発・建物は11件である。このうち公有財産の売却等の土地調査にかかわる事前審査依頼は2件であった。なお事業照会件数は729件で、昨年度から半減した。事業別の内訳は、上下水道336件、道路168件、学校146件、公園20件、住宅14軒、空港施設関連19件、河川5件、電気4件、その他の建物14軒、その他の開発3件であった。民間事業の届出件数は1,118件で昨年より減少している。届出内容は、事業別では個人住宅356件、戸建住宅215件、共同住宅161件、宅地造成38件、個人住宅兼工場または店舗3件など住宅関連事業をあわせると773件となる。土地売買に先立つ事前の調査依頼は50件であった。専用住宅・戸建住宅の件数は前年より減少した。そのほか、道路1件、空港関係1件、学校関係19件、工場8件、店舗30件、その他建物100件、土地区画整理1件、ガス・電気・水道等104件、農業関係6件、その他開発25件である。

公共・民間の申請件数を合計して区別に見ると、東区113件、博多区279件、早良区234件、西区217件、南区229件、中央区39件、城南区132件となる。前年より西区以外は減少しており、博多区・早良区は大幅に減少している。

指導内容(表2)

公共、民間各事業の事前審査の結果、事業者に指導した内容は表2のとおりである。次年度への継続、取り下げを除くと審査件数(申請件数)は1,224件で、前年より200件程度減少した。総括的に見ると書類審査での回答998件、踏査4件、試掘222件である。審査結果は開発同意90件、慎重工事1,001件、工事立会94件、発掘調査

31件、要協議（設計未定、売却予定で遺跡ありなど）8件である。

窓口等照会（表1）

民間業者等による窓口での「埋蔵文化財の有無に係わる照会」等は15,488件、ファックスでの照会は10,272件、あわせて25,760件で、新型コロナウイルス蔓延の影響で令和元年度実績27,269件より減少している。平成24年8月より本市ホームページにて、包蔵地外町丁目リストの公開を開始し、利用者の照会への便宜と照会件数減を図っているが、窓口件数は大きく増加している。ファックス照会件数は22年度以降毎年増加しているが、30年度から大きく増加し10,000件を超えた。ホームページ「福岡市の文化財」では、「福岡市埋蔵文化財包蔵地分布図（Web版）」を整備・公開しており、窓口のみでしか閲覧できなかった埋蔵文化財包蔵地分布図が遠隔地からも確認できるようになった。

試掘調査・確認調査（表3）

包蔵地内で行われる確認調査、包蔵地隣接地・包蔵地外で行われる試掘調査（以下試掘調査と総称する）は令和2年度で263件実施した。区別の内訳として東区20件、博多区91件、中央区11件、南区31件、城南区19件、早良区50件、西区41件となる。対象とした遺跡数は98遺跡である。10件以上試掘した遺跡としては博多遺跡群

表2 令和2年度事前審査内訳

区名	事業	審査種別（書類審査・現地踏査・試掘調査）でみた判断指示の結果													区別審査件数					
		開発同意			慎重工事			工事立会			発掘調査			協議			審査継続	取り下げ	公民別計	区計
		書類	踏査	試掘	書類	踏査	試掘	書類	踏査	試掘	書類	踏査	試掘	書類	踏査	試掘				
東	公共				7			3											10	113
	民間	17			60	11		8		1 2			1			1 2			103	
博多	公共	3			43	5	6				1	1						2	61	279
	民間	4	1	2	127	41	13		10	1	11	1			4	1 2			218	
中央	公共				6	1													7	39
	民間	3			17	8	3		1										32	
南	公共				5	1	5												11	229
	民間	13			161	28	9		2				3					2	218	
城南	公共				3														3	132
	民間	7			98	11	5		1			3						2 2	129	
早良	公共	3	2		10		2												17	234
	民間	12			153	32	5		5 3			3						3 1	217	
西	公共	1		1	7		7												16	217
	民間	19		2	140	1 25	5		3				2					2 1 1	201	
小計	公共	7	2	1	81	0 7	23 0 0		1 0 1	0 0 0		0 0 0			2 0				125	1243
	民間	75	1	4	756	1 156	48 0 23		6 0 23	1 0 7		11 6							1118	
合計		82	3	5	837	1 163	71 0 23		7 0 24	1 0 7		13 6						1243		

表3 令和2年度確認調査・試掘調査一覧

区	東	博多	中央	南	城南	早良	西	計
件数	20	91	11	31	19	50	41	263
補助 現物	11 9	64 27	9 2	24 7	15 4	32 18	25 16	180 83
包蔵地内	19	84	5	26	15	46	32	227
包蔵地隣接地	1	6	6	5	4	4	8	34
包蔵地外	0	1	0	0	0	0	1	2

14件、箱崎遺跡11件、比恵・那珂遺跡群22件、有田遺跡群13件となっている。包蔵地隣接地および包蔵地外での試掘調査は36件であった。確認・試掘調査263件のうち補助対象は180件、現物重機等による調査は83件となる。

Ⅲ 発掘調査

1. 令和2年度の発掘調査（表4・5）

令和2年度の発掘調査件数は、表4に示したように、元年度からの継続事業14件、令和2年度新規事業40件の計54件で、このうち4件は令和3年度に継続である。新規調査40件は文化財保護法第93、94条に基づく記録保存のための発掘調査39件のほか、史跡整備に伴う調査1件を含んでいる。

40件の発掘調査総面積は18,333㎡で、前年度と比べ調査件数は減少し、これに伴い調査面積はやや減少となった。公民別では公共事業が6,762㎡、民間事業が11,571㎡であり、民間が全体の63%を占めている。公共事業総面積が前年度比で250%と倍加し、民間事業については約61%現象している（平成24年度から、国立大学法人関係の調査は民間事業扱いとしている）。今年度についても前年度に続いて園場整備事業に伴う発掘調査は実施していない。

個々の発掘調査の面積としては、100㎡以下が10件、101～300㎡が19件、301～500㎡が4件、501～1,000㎡が4件、1,001～10,000㎡が3件となり、全体的に減少している。300㎡以下の小規模調査は29件と、前年度の51件から件数・比率ともに減少した。1件あたりの平均調査面積は458㎡、公共事業で3,381㎡、民間事業では305㎡である。区ごとでは東区4件、博多区20件、中央区2件、南区7件、城南区1件、早良区6件、西区0件となり、博多区に調査件数が集中する傾向が昨年度に引き続き顕著である。

各区の面積では、東区6,957㎡、博多区7,075㎡、中央117㎡、南区2,621㎡、城南区400㎡、早良区1,162㎡、西区0㎡である。博多区は調査件数では他区を大きく上回る状況にあるが、これは近年の市内の宿泊施設不足問題や宅地の再開発分譲事業等に起因するもので、調査件数全体の増加に直接関連している。なお博多遺跡群、箱崎遺跡などでは複数の遺構面を調査するため、実際の発掘面積は増加する。

表4 令和2年度 発掘調査区別調査件数・面積（学術調査を除いた前年度継続分12件・学術調査9件を除く）

令和2年度	東	博多	中央	南	城南	早良	西	全市
公共調査	2	0	0	0	0	0	0	2
民間調査（民受+令達+補助）	2	20	2	7	1	6	0	38
計	4	20	2	7	1	6	0	40
調査面積総計（㎡）	6,957	7,075	117	2,621	400	1,162	0	18,333
平均調査面積/1件	1,739	354	58	374	400	194	0	458

参考 学術調査 9件 17,300㎡
学術調査を除いた継続12件 10,270.57㎡

表5 発掘調査件数の推移（ ）前年度からの継続件数、なお学術調査2件（H30）、5件（R1）、7件（R2）を除く

事業	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	R2年度
民間	調査件数 21 (6)	30 (0)	27 (1)	22 (2)	42 (4)	50 (5)	47 (5)	48 (7)	38 (5)	41 (4)	70 (6)	50 (12)
調査面積 (㎡)	11,190	15,649	6,175	15,333	20,293	15,786	10,687	12,807	16,498	17,534	24,111	28,603
園場整備	調査件数 4 (0)	4 (2)	1 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
調査面積 (㎡)	0	9,775	1,984	0	0	0	0	0	0	0	0	0
公共	調査件数 16 (3)	16 (3)	23 (3)	19 (2)	5 (1)	6 (1)	8 (2)	2	0	3 (2)	1 (0)	1 (0)
調査面積 (㎡)	33,099	22,856	14,322	14,440	3,315	1,996	6,842	1,728	2,909	1,335	2,712	6,762
合計	調査件数 41 (9)	50 (5)	51 (7)	41 (4)	47 (5)	56 (6)	55 (7)	50 (7)	41 (7)	42 (4)	71 (6)	52 (12)
調査面積 (㎡)	44,289	48,280	22,481	29,773	23,608	17,782	17,529	14,535	19,407	18,870	26,823	35,365

※調査件数・面積は前年度からの継続件数も含むが、大学による学術調査14件は含まない

Ⅳ 公開活動

市民への公開を目的として、記者発表や現地説明会、体験学習および福岡市埋蔵文化財調査報告書の刊行等がある。令和2年度は9月5日に早良区野芥遺跡第19次調査にて近隣住民の皆様に対する現地説明会を実施した。また市内小中学校の職場体験の一環として発掘調査や整理作業への参加を受け入れているが、令和2年度は、新型コロナウイルス蔓延のため実施していない。

公開・活用に資するための埋蔵文化財報告書・年報は、表8のとおり計34冊が刊行された。

V 令和2年度発掘調査概要・報告

調査概要・報告は表7の調査番号順に掲載し、位置番号は右ページの調査一覧表と一致する。また、各報文の図[1. 調査地点の位置]の()内は、左から福岡市都市計画図区幅番号・区幅名称・遺跡番号・縮尺である。



表6 令和2年度発掘調査遺跡一覧表

1. 名子遺跡	6. 比恵遺跡群	11. 麦野B遺跡	16. 大平寺古墳群	21. 藤崎遺跡
2. 箱崎遺跡	7. 那珂遺跡群	12. 麦野C遺跡	17. 史跡福岡城跡	22. 有田遺跡群
3. 博多遺跡群	8. 山王遺跡	13. 井尻B遺跡	18. 鳥飼遺跡	23. 原遺跡
4. 吉塚遺跡	9. 高畑遺跡	14. 弥水原遺跡	19. 別府遺跡	24. 野芥遺跡
5. 久保園遺跡	10. 麦野A遺跡	15. 中村町遺跡	20. 西新町遺跡	25. 東入部遺跡

表7 令和2年度発掘調査一覧

番号	調査番号	種別	遺跡名	次期	種別	調査内容	区	所在地	調査期間	発掘日	終了日	地所	主産	
1805	27-1-122	遺跡	博多遺跡群	221 HK2	埋蔵品調査	博多	上川原町6-38	1946	H30-4-25	継続中	48	0121		
1803		字庫	福岡遺跡群	99 HK2	字庫研究 (記録保存)	博多	福岡6丁目10-1 福岡市中央区	1170	R1.8.18	R2.4.1	34	2639		
1904		遺跡 (発掘)	福岡遺跡群	78 FKU	発掘調査	中央	城内1番1, 1番4	296.5	R1.12.1	継続中	60	0193		
1958	2019-2-99	発掘	博多遺跡群	238 HK7	発掘調査	博多	志摩町19番1, 19番2, 197番1	141.4	R2.1.15	R2.4.24	49	0121		
1959		遺跡 (発掘)	福岡遺跡群	89 HK7	埋蔵品調査	中央	城内1番1, 1番4	410.7	R2.1.10	継続中	60	0193		
1960	2019-2-482	発掘	博多遺跡群	230 HK7	発掘調査	博多	志摩町19番1, 19番2, 197番1, 197番2, 197番3, 197番4, 197番5, 197番6, 197番7, 197番8, 197番9, 197番10, 197番11, 197番12, 197番13, 197番14, 197番15, 197番16, 197番17, 197番18, 197番19, 197番20, 197番21, 197番22, 197番23, 197番24, 197番25, 197番26, 197番27, 197番28, 197番29, 197番30, 197番31, 197番32, 197番33, 197番34, 197番35, 197番36, 197番37, 197番38, 197番39, 197番40, 197番41, 197番42, 197番43, 197番44, 197番45, 197番46, 197番47, 197番48, 197番49, 197番50, 197番51, 197番52, 197番53, 197番54, 197番55, 197番56, 197番57, 197番58, 197番59, 197番60, 197番61, 197番62, 197番63, 197番64, 197番65, 197番66, 197番67, 197番68, 197番69, 197番70, 197番71, 197番72, 197番73, 197番74, 197番75, 197番76, 197番77, 197番78, 197番79, 197番80, 197番81, 197番82, 197番83, 197番84, 197番85, 197番86, 197番87, 197番88, 197番89, 197番90, 197番91, 197番92, 197番93, 197番94, 197番95, 197番96, 197番97, 197番98, 197番99, 197番100	1012.47	R2.1.17	R2.3.23	R2.3.23	49	0121	
1961	2019-2-613	発掘	赤子遺跡群	5 NAO	調査	博多	A17170118(赤子), 1801, 1802, 1803, 1804, 1805, 1806, 1807, 1808, 1809, 1810, 1811, 1812, 1813, 1814, 1815, 1816, 1817, 1818, 1819, 1820, 1821, 1822, 1823, 1824, 1825, 1826, 1827, 1828, 1829, 1830, 1831, 1832, 1833, 1834, 1835, 1836, 1837, 1838, 1839, 1840, 1841, 1842, 1843, 1844, 1845, 1846, 1847, 1848, 1849, 1850, 1851, 1852, 1853, 1854, 1855, 1856, 1857, 1858, 1859, 1860, 1861, 1862, 1863, 1864, 1865, 1866, 1867, 1868, 1869, 1870, 1871, 1872, 1873, 1874, 1875, 1876, 1877, 1878, 1879, 1880, 1881, 1882, 1883, 1884, 1885, 1886, 1887, 1888, 1889, 1890, 1891, 1892, 1893, 1894, 1895, 1896, 1897, 1898, 1899, 1900, 1901, 1902, 1903, 1904, 1905, 1906, 1907, 1908, 1909, 1910, 1911, 1912, 1913, 1914, 1915, 1916, 1917, 1918, 1919, 1920, 1921, 1922, 1923, 1924, 1925, 1926, 1927, 1928, 1929, 1930, 1931, 1932, 1933, 1934, 1935, 1936, 1937, 1938, 1939, 1940, 1941, 1942, 1943, 1944, 1945, 1946, 1947, 1948, 1949, 1950, 1951, 1952, 1953, 1954, 1955, 1956, 1957, 1958, 1959, 1960, 1961, 1962, 1963, 1964, 1965, 1966, 1967, 1968, 1969, 1970, 1971, 1972, 1973, 1974, 1975, 1976, 1977, 1978, 1979, 1980, 1981, 1982, 1983, 1984, 1985, 1986, 1987, 1988, 1989, 1990, 1991, 1992, 1993, 1994, 1995, 1996, 1997, 1998, 1999, 2000, 2001, 2002, 2003, 2004, 2005, 2006, 2007, 2008, 2009, 2010, 2011, 2012, 2013, 2014, 2015, 2016, 2017, 2018, 2019, 2020, 2021, 2022, 2023, 2024, 2025, 2026, 2027, 2028, 2029, 2030, 2031, 2032, 2033, 2034, 2035, 2036, 2037, 2038, 2039, 2040, 2041, 2042, 2043, 2044, 2045, 2046, 2047, 2048, 2049, 2050, 2051, 2052, 2053, 2054, 2055, 2056, 2057, 2058, 2059, 2060, 2061, 2062, 2063, 2064, 2065, 2066, 2067, 2068, 2069, 2070, 2071, 2072, 2073, 2074, 2075, 2076, 2077, 2078, 2079, 2080, 2081, 2082, 2083, 2084, 2085, 2086, 2087, 2088, 2089, 2090, 2091, 2092, 2093, 2094, 2095, 2096, 2097, 2098, 2099, 2100, 2101, 2102, 2103, 2104, 2105, 2106, 2107, 2108, 2109, 2110, 2111, 2112, 2113, 2114, 2115, 2116, 2117, 2118, 2119, 2120, 2121, 2122, 2123, 2124, 2125, 2126, 2127, 2128, 2129, 2130, 2131, 2132, 2133, 2134, 2135, 2136, 2137, 2138, 2139, 2140, 2141, 2142, 2143, 2144, 2145, 2146, 2147, 2148, 2149, 2150, 2151, 2152, 2153, 2154, 2155, 2156, 2157, 2158, 2159, 2160, 2161, 2162, 2163, 2164, 2165, 2166, 2167, 2168, 2169, 2170, 2171, 2172, 2173, 2174, 2175, 2176, 2177, 2178, 2179, 2180, 2181, 2182, 2183, 2184, 2185, 2186, 2187, 2188, 2189, 2190, 2191, 2192, 2193, 2194, 2195, 2196, 2197, 2198, 2199, 2200, 2201, 2202, 2203, 2204, 2205, 2206, 2207, 2208, 2209, 2210, 2211, 2212, 2213, 2214, 2215, 2216, 2217, 2218, 2219, 2220, 2221, 2222, 2223, 2224, 2225, 2226, 2227, 2228, 2229, 2230, 2231, 2232, 2233, 2234, 2235, 2236, 2237, 2238, 2239, 2240, 2241, 2242, 2243, 2244, 2245, 2246, 2247, 2248, 2249, 2250, 2251, 2252, 2253, 2254, 2255, 2256, 2257, 2258, 2259, 2260, 2261, 2262, 2263, 2264, 2265, 2266, 2267, 2268, 2269, 2270, 2271, 2272, 2273, 2274, 2275, 2276, 2277, 2278, 2279, 2280, 2281, 2282, 2283, 2284, 2285, 2286, 2287, 2288, 2289, 2290, 2291, 2292, 2293, 2294, 2295, 2296, 2297, 2298, 2299, 2300, 2301, 2302, 2303, 2304, 2305, 2306, 2307, 2308, 2309, 2310, 2311, 2312, 2313, 2314, 2315, 2316, 2317, 2318, 2319, 2320, 2321, 2322, 2323, 2324, 2325, 2326, 2327, 2328, 2329, 2330, 2331, 2332, 2333, 2334, 2335, 2336, 2337, 2338, 2339, 2340, 2341, 2342, 2343, 2344, 2345, 2346, 2347, 2348, 2349, 2350, 2351, 2352, 2353, 2354, 2355, 2356, 2357, 2358, 2359, 2360, 2361, 2362, 2363, 2364, 2365, 2366, 2367, 2368, 2369, 2370, 2371, 2372, 2373, 2374, 2375, 2376, 2377, 2378, 2379, 2380, 2381, 2382, 2383, 2384, 2385, 2386, 2387, 2388, 2389, 2390, 2391, 2392, 2393, 2394, 2395, 2396, 2397, 2398, 2399, 2400, 2401, 2402, 2403, 2404, 2405, 2406, 2407, 2408, 2409, 2410, 2411, 2412, 2413, 2414, 2415, 2416, 2417, 2418, 2419, 2420, 2421, 2422, 2423, 2424, 2425, 2426, 2427, 2428, 2429, 2430, 2431, 2432, 2433, 2434, 2435, 2436, 2437, 2438, 2439, 2440, 2441, 2442, 2443, 2444, 2445, 2446, 2447, 2448, 2449, 2450, 2451, 2452, 2453, 2454, 2455, 2456, 2457, 2458, 2459, 2460, 2461, 2462, 2463, 2464, 2465, 2466, 2467, 2468, 2469, 2470, 2471, 2472, 2473, 2474, 2475, 2476, 2477, 2478, 2479, 2480, 2481, 2482, 2483, 2484, 2485, 2486, 2487, 2488, 2489, 2490, 2491, 2492, 2493, 2494, 2495, 2496, 2497, 2498, 2499, 2500, 2501, 2502, 2503, 2504, 2505, 2506, 2507, 2508, 2509, 2510, 2511, 2512, 2513, 2514, 2515, 2516, 2517, 2518, 2519, 2520, 2521, 2522, 2523, 2524, 2525, 2526, 2527, 2528, 2529, 2530, 2531, 2532, 2533, 2534, 2535, 2536, 2537, 2538, 2539, 2540, 2541, 2542, 2543, 2544, 2545, 2546, 2547, 2548, 2549, 2550, 2551, 2552, 2553, 2554, 2555, 2556, 2557, 2558, 2559, 2560, 2561, 2562, 2563, 2564, 2565, 2566, 2567, 2568, 2569, 2570, 2571, 2572, 2573, 2574, 2575, 2576, 2577, 2578, 2579, 2580, 2581, 2582, 2583, 2584, 2585, 2586, 2587, 2588, 2589, 2590, 2591, 2592, 2593, 2594, 2595, 2596, 2597, 2598, 2599, 2600, 2601, 2602, 2603, 2604, 2605, 2606, 2607, 2608, 2609, 2610, 2611, 2612, 2613, 2614, 2615, 2616, 2617, 2618, 2619, 2620, 2621, 2622, 2623, 2624, 2625, 2626, 2627, 2628, 2629, 2630, 2631, 2632, 2633, 2634, 2635, 2636, 2637, 2638, 2639, 2640, 2641, 2642, 2643, 2644, 2645, 2646, 2647, 2648, 2649, 2650, 2651, 2652, 2653, 2654, 2655, 2656, 2657, 2658, 2659, 2660, 2661, 2662, 2663, 2664, 2665, 2666, 2667, 2668, 2669, 2670, 2671, 2672, 2673, 2674, 2675, 2676, 2677, 2678, 2679, 2680, 2681, 2682, 2683, 2684, 2685, 2686, 2687, 2688, 2689, 2690, 2691, 2692, 2693, 2694, 2695, 2696, 2697, 2698, 2699, 2700, 2701, 2702, 2703, 2704, 2705, 2706, 2707, 2708, 2709, 2710, 2711, 2712, 2713, 2714, 2715, 2716, 2717, 2718, 2719, 2720, 2721, 2722, 2723, 2724, 2725, 2726, 2727, 2728, 2729, 2730, 2731, 2732, 2733, 2734, 2735, 2736, 2737, 2738, 2739, 2740, 2741, 2742, 2743, 2744, 2745, 2746, 2747, 2748, 2749, 2750, 2751, 2752, 2753, 2754, 2755, 2756, 2757, 2758, 2759, 2760, 2761, 2762, 2763, 2764, 2765, 2766, 2767, 2768, 2769, 2770, 2771, 2772, 2773, 2774, 2775, 2776, 2777, 2778, 2779, 2780, 2781, 2782, 2783, 2784, 2785, 2786, 2787, 2788, 2789, 2790, 2791, 2792, 2793, 2794, 2795, 2796, 2797, 2798, 2799, 2800, 2801, 2802, 2803, 2804, 2805, 2806, 2807, 2808, 2809, 2810, 2811, 2812, 2813, 2814, 2815, 2816, 2817, 2818, 2819, 2820, 2821, 2822, 2823, 2824, 2825, 2826, 2827, 2828, 2829, 2830, 2831, 2832, 2833, 2834, 2835, 2836, 2837, 2838, 2839, 2840, 2841, 2842, 2843, 2844, 2845, 2846, 2847, 2848, 2849, 2850, 2851, 2852, 2853, 2854, 2855, 2856, 2857, 2858, 2859, 2860, 2861, 2862, 2863, 2864, 2865, 2866, 2867, 2868, 2869, 2870, 2871, 2872, 2873, 2874, 2875, 2876, 2877, 2878, 2879, 2880, 2881, 2882, 2883, 2884, 2885, 2886, 2887, 2888, 2889, 2890, 2891, 2892, 2893, 2894, 2895, 2896, 2897, 2898, 2899, 2900, 2901, 2902, 2903, 2904, 2905, 2906, 2907, 2908, 2909, 2910, 2911, 2912, 2913, 2914, 2915, 2916, 2917, 2918, 2919, 2920, 2921, 2922, 2923, 2924, 2925, 2926, 2927, 2928, 2929, 2930, 2931, 2932, 2933, 2934, 2935, 2936, 2937, 2938, 2939, 2940, 2941, 2942, 2943, 2944, 2945, 2946, 2947, 2948, 2949, 2950, 2951, 2952, 2953, 2954, 2955, 2956, 2957, 2958, 2959, 2960, 2961, 2962, 2963, 2964, 2965, 2966, 2967, 2968, 2969, 2970, 2971, 2972, 2973, 2974, 2975, 2976, 2977, 2978, 2979, 2980, 2981, 2982, 2983, 2984, 2985, 2986, 2987, 2988, 2989, 2990, 2991, 2992, 2993, 2994, 2995, 2996, 2997, 2998, 2999, 3000, 3001, 3002, 3003, 3004, 3005, 3006, 3007, 3008, 3009, 3010, 3011, 3012, 3013, 3014, 3015, 3016, 3017, 3018, 3019, 3020, 3021, 3022, 3023, 3024, 3025, 3026, 3027, 3028, 3029, 3030, 3031, 3032, 3033, 3034, 3035, 3036, 3037, 3038, 3039, 3040, 3041, 3042, 3043, 3044, 3045, 3046, 3047, 3048, 3049, 3050, 3051, 3052, 3053, 3054, 3055, 3056, 3057, 3058, 3059, 3060, 3061, 3062, 3063, 3064, 3065, 3066, 3067, 3068, 3069, 3070, 3071, 3072, 3073, 3074, 3075, 3076, 3077, 3078, 3079, 3080, 3081, 3082, 3083, 3084, 3085, 3086, 3087, 3088, 3089, 3090, 3091, 3092, 3093, 3094, 3095, 3096, 3097, 3098, 3099, 3100, 3101, 3102, 3103, 3104, 3105, 3106, 3107, 3108, 3109, 3110, 3111, 3112, 3113, 3114, 3115, 3116, 3117, 3118, 3119, 3120, 3121, 3122, 3123, 3124, 3125, 3126, 3127, 3128, 3129, 3130, 3131, 3132, 3133, 3134, 3135, 3136, 3137, 3138, 3139, 3140, 3141, 3142, 3143, 3144, 3145, 3146, 3147, 3148, 3149, 3150, 3151, 3152, 3153, 3154, 3155, 3156, 3157, 3158, 3159, 3160, 3161, 3162, 3163, 3164, 3165, 3166, 3167, 3168, 3169, 3170, 3171, 3172, 3173, 3174, 3175, 3176, 3177, 3178, 3179, 3180, 3181, 3182, 3183, 3184, 3185, 3186, 3187, 3188, 3189, 3190, 3191, 3192, 3193, 3194, 3195, 3196, 3197, 3198, 3199, 3200, 3201, 3202, 3203, 3204, 3205, 3206, 3207, 3208, 3209, 3210, 3211, 3212, 3213, 3214, 3215, 3216, 3217, 3218, 3219, 3220, 3221, 3222, 3223, 3224, 3225, 3226, 3227, 3228, 3229, 3230, 3231, 3232, 3233, 3234, 3235, 3236, 3237, 3238, 3239, 3240, 3241, 3242, 3243, 3244, 3245, 3246, 3247, 3248, 3249, 3250, 3251, 3252, 3253, 3254, 3255, 3256, 3257, 3258, 3259, 3260, 3261, 3262, 3263, 3264, 3265, 3266, 3267, 3268, 3269, 3270, 3271, 3272, 3273, 3274, 3275, 3276, 3277, 3278, 3279, 3280, 3281, 3282, 3283, 3284, 3285, 3286, 3287, 3288, 3289, 3290, 3291, 3292, 3293, 3294, 3295, 3296, 3297, 3298, 3299, 3300, 3301, 3302, 3303, 3304, 3305, 3306, 3307, 3308, 3309, 3310, 3311, 3312, 3313, 3314, 3315, 3316, 3317, 3318, 3319, 3320, 3321, 3322, 3323, 3324, 3325, 3326, 3327, 3328, 3329, 3330, 3331, 3332, 3333, 3334, 3335, 3336, 3337, 3338, 3339, 3340, 3341, 3342, 3343, 3344, 3345, 3346, 3347, 3348, 3349, 3350, 3351, 3352, 3353, 3354, 3355, 3356, 3357, 3358, 3359, 3360, 3361, 3362, 3363, 3364, 3365, 3366, 3367, 3368, 3369, 3370, 3371, 3372, 3373, 3374, 3375, 3376, 3377, 3378, 3379, 3380, 3381, 3382, 3383, 3384, 3385, 3386, 3387, 3388, 3389, 3390, 3391, 3392, 3393, 3394, 3395, 3396, 3397, 3398, 3399, 3400, 3401, 3402, 3403, 3404, 3405, 3406, 3407, 3408, 3409, 3410, 3411, 3412, 3413, 3414, 3415, 3416, 3417, 3418, 3419, 3420, 3421, 3422, 3423, 3424, 3425, 3426, 3427, 3428, 3429, 3430, 3431, 3432, 3433, 3434, 3435, 3436, 3437, 3438, 3439, 3440, 3441, 3442, 3443, 3444, 3445, 3446, 3447, 3448, 3449, 3450, 3451, 3452, 3453, 3454, 3455, 3456, 3457, 3458, 3459, 3460, 3461, 3462, 3463, 3464, 3465, 3466, 3467, 3468, 3469, 3470, 3471, 3472, 3473, 3474, 3475, 3476, 3477, 3478, 3479, 3480, 3481, 3482, 3483, 3484, 3485, 3486, 3487, 3488, 3489, 3490, 3491, 3492, 3493, 3494, 3495, 3496, 3497, 3498, 3499, 3500, 3501, 3502, 3503, 3504, 3505, 3506, 3507, 3508, 3509, 3510, 3511, 3512, 3513, 3514, 3515, 3516, 3517, 3518, 3519, 3520, 3521, 3522, 3523, 3524, 3525, 3526, 3527, 3528, 3529, 3530, 3531, 3532, 3533, 353							

表8 令和2年度刊行報告書一覧

集	書名	副書名	収録調査番号
1405	博多170	博多遺跡群第203次調査報告	1427
1406	青葉遺跡1	青葉遺跡第1次調査報告	1811
1407	有田・小田部60	有田遺跡群第270次調査報告	1944
1408	香椎A遺跡5	香椎A遺跡第8次調査報告	1832
1409	顯孝寺遺跡1	顯孝寺遺跡第1次調査の報告	1537
1410	高節遺跡1	高節遺跡第2次調査報告	1910
1411	田村19	田村遺跡第27次調査の報告	1809
1412	那珂83	那珂遺跡群第172次調査の報告	1736
1413	中ノ原遺跡2	第6次調査	1932
1414	博多171	博多遺跡群第216次調査報告	1723
1415	博多172	博多遺跡群第220次調査報告	1804
1416	博多173	博多遺跡群第222次調査報告	1821
1417	博多174	博多遺跡群第223次調査報告	1823
1418	博多175	博多遺跡群第227次調査報告	1904
1419	博多176	博多遺跡群第229次調査の報告	1909
1420	博多177	博多遺跡群第230次調査報告	1911
1421	博多178	博多遺跡群第232次調査の報告	1920
1422	博多179	博多遺跡群第233次調査報告	1935
1423	博多180	博多遺跡群第237次発掘調査報告	1954
1424	箱崎59	箱崎遺跡第90次調査報告	1825
1425	箱崎60	箱崎遺跡第95次調査報告	1842
1426	箱崎61	箱崎遺跡第97次調査報告	1917
1427	箱崎62	箱崎遺跡第100次調査報告	1925
1428	箱崎63	箱崎遺跡第101次調査報告	1939
1429	原遺跡22	原遺跡第36次調査報告	1930
1430	比恵89	第152次調査報告	1818
1431	東那珂遺跡6	第8次調査報告	1901
1432	福岡城下町遺跡2	第4次調査報告	1913
1433	三宅遺跡群1	第7次調査報告	1931
1434	妻野A遺跡11	第28次調査報告	1926
1435	妻野C遺跡10	第17次調査	1941
1436	吉塚12	吉塚遺跡第18次調査報告	1907
1437	中南部12	比恵遺跡群第138次・149次・那珂遺跡群第158次調査の報告	1513・1529・1643
埋蔵文化財年報VOL.34 令和元(2019)年度版		宝台遺跡第4次調査	1908
		妻野A遺跡第27次調査	1916
		有田遺跡群第269次調査	1918
		飯倉A遺跡第4次調査	1919
		重留B遺跡第1次調査	1921
		那珂遺跡群第176次調査	1929
		妻野A遺跡第29次調査	1936
		福岡城跡第79次調査	1946
		比恵遺跡群第156次調査	1956
		五十川遺跡第23次調査	1968
		仲島遺跡第6次調査	1833
	次郎丸高石遺跡第7次調査	1843	

表9 令和2年度包蔵地等改訂一覧

番号	遺跡名称	変更事項
1	重留B遺跡	包蔵地の新設・新規登録遺跡
2	鳥越古墳群B群	包蔵地・隣接地の解除
3	鳥越古墳群F群	隣接地の解除
4	飯倉G遺跡	包蔵地の一部を解除し、隣接地の一部を解除する
5	飯倉H遺跡	包蔵地の一部を解除し、隣接地の一部を解除する
6	若久B遺跡	隣接地の一部解除
7	吉塚遺跡	包蔵地の一部を拡大し、隣接地を新設・修正する
8	東古川遺跡	包蔵地・隣接地の新設・新規登録遺跡
9	田島A遺跡	包蔵地の一部を拡大し、隣接地を新設・修正する
10	雑餉隈遺跡	包蔵地の一部を拡大し、隣接地を新設・修正する
11	中ノ原遺跡	包蔵地の一部を解除し、隣接地の一部を解除する
12	山王遺跡	隣接地の一部解除

2001 箱崎遺跡 107次 (HKZ-107)

所在地	東区箱崎6丁目10-1(農学部三号館・二号館2次)
調査原因	学術研究(記録保存・HKZ2001・2002)
調査期間	2020.4.6～2020.6.30
調査面積	2,100㎡
担当者	九州大学埋蔵文化財調査室
処置	記録保存

調査の概要

防塁ラインの把握を目的とした調査である。九州大学箱崎キャンパス内からどのように地蔵松原史跡指定地に到達するかを把握するために、農学部境界崩附近に調査区を設定した。攪乱を除去して遺構検出を試みたが、遺構は確認できず、石積みを構成する砂岩・礫岩片も採集できなかった。

また、箱崎キャンパス農学部二号館の南側にも調査区を設定した。元寇防塁の石材と同様の石が2点出土したが、いずれも近代の攪乱層からの出土であった。石片が見つかった場所の博多湾側から溝状遺構を検出し、元寇防塁に伴う溝の可能性が高いと判断した。これまでの調査から、箱崎キャンパス内の元寇防塁は、博多湾側から陸側にかけて、石積み→溝状遺構と配置されていることが明らかである。このことより、溝状遺構の陸側からの石出土は不自然であり、後世の攪乱により動かされたものであるという結論に達した。



1. 調査地点の位置 (33 貝塚 2639 S=8,000)



2. HKZ2002 発掘区全景 (北から)

2002 東入部遺跡 13次 (HGI-13)

所在地	早良区東入部2丁目346番2
調査原因	宅地造成
調査期間	2020.4.13～2020.5.20
調査面積	121.1㎡
担当者	三浦萌
処置	記録保存

調査の概要

東入部遺跡は早良平野の奥に位置する沖積地上の縄文から中世にかけの複合遺跡である。周辺に重留遺跡、岩本遺跡などが存在する。また当調査区の東斜面には荒平古墳群E群が存在する。

当調査区は東入部遺跡の東端に位置している。今回の調査では2間×2間の掘立柱建物跡が1棟、6世紀前半以降の竪穴式建物跡が1基、そのほかに土坑とピットを多数検出している。掘立柱建物を構成する柱穴は約0.8～1m×0.8～1mの隅丸方形をとっており、第4次調査において発見されたものと類似している。第4次調査において郡衙もしくは製鉄関連の官衙工場の存在が示唆されていることから、当調査区で発見された掘立柱建物もそれに関連する遺構である可能性が高いといえる。



1. 調査地点の位置 (85 入部 0343 S=1/8,000)



2. 1区全景 (西から)

2003 那珂遺跡群 180次 (NAK-180)

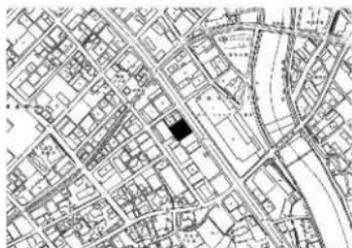
所在地 博多区東光寺町1丁目14番、17番
 調査原因 共同住宅建設
 調査期間 2020.4.8～2020.6.26
 調査面積 295㎡
 担当者 清金良太
 処置 記録保存

調査の概要

対象地是那珂遺跡群の北東側に位置している。周辺では102、114、177次調査が行われており、南側で行われた177次調査では竪穴住居、掘立柱建物、甕棺などが発掘されている。

対象地も須玖～立岩新段階の甕棺が17基（成人棺11基、小児棺6基）検出された。甕棺の分布は北側の114次調査では0基であり、180次の分布でも南側では重なるように分布しているが北側ではまばらに確認できるととどまっている。さらに土坑墓、木棺墓もそれぞれ1基検出されており、木棺墓からは勾玉2、管玉、白玉3が検出されている。また時期は未確定であるが、1辺約12mの墳丘墓も確認された。

調査区を東西方向に走る溝は江戸時代初期のもので、下層から陶磁器と共に大量の甕棺片が確認された。これは調査区周辺に弥生時代の甕棺墓が広がっていたと想定できる。



1. 調査地点の位置 (37 東光寺 0085 S=1/8,000)



2. 調査区全景 (南から)

2004 那珂遺跡群 181次 (NAK-181)

所在地 博多区那珂2丁目18-1
 調査原因 学校施設
 調査期間 2020.4.13～2020.6.22
 調査面積 394㎡
 担当者 今井隆博
 処置 記録保存

調査の概要

那珂遺跡群是那珂川と御空川の間に形成された洪積台地上に立地する。今回の地点是那珂遺跡群の南側中央部分にあたる。現在の道路を挟んだ北側には44次調査地点があり、古墳の周溝や中世の土壇墓、中世後半の溝が確認されている。

検出した遺構は溝・土坑・ピットである。調査区南半分には、中学校敷地に並行する幅4m、深さ2m以上の大溝が延びる。昭和初期の地図では同方向の道路と水路が示されており、溝はこの水路にあたると思われる。埋土には近現代の遺物が含まれるが、溝の掘削時期がどこまで遡るかは不明である。

本地点は削平のためか、周辺で検出されている弥生・古墳・中世の遺構はほとんど見られなかった。出土遺物は土師器、須恵器、陶磁器、瓦等でコンテナケース2箱分である。



1. 調査地点の位置 (38 塩原 0085 S=1/4,000)



2. I区全景 (西から)

2005 弥永原遺跡第17次 (YNB-17)

所在地	南区日佐3丁目88番2
調査原因	戸建住宅新築
調査期間	2020.4.9 ~ 2020.4.28
調査面積	51㎡
担当者	赤坂亨
処置	記録保存

調査の概要

平成30年7月31日付で上記地における埋蔵文化財の有無についての照会を受理した(事前審査番号30-2-409)。これを受けて埋蔵文化財課事前審査係は申請地が周辺の埋蔵文化財包蔵地である弥永原遺跡に含まれていることから、平成30年9月14日に確認調査を行った。確認調査では現地地表30cmで古墳時代の遺構が検出された。その後、上記地にて令和元年10月1日付で上記地における埋蔵文化財の有無についての照会を再受理した(事前審査番号2019-2-712)。前回の確認調査の結果を踏まえ、遺構の保全等に関して申請者と協議を行ったが、工事による埋蔵文化財への影響が回避できないため、基礎工事が行われる範囲について記録保存のための発掘調査を実施した。

調査の方法

基礎工事により遺跡が影響を受ける範囲に限って発掘調査を行った。表土掘削・埋戻しは小型重機で行った。掘削内廃土を敷地内に仮置きするため、調査区を1・2・3区に分けて掘削調査を行った。調査地南側の3区は遺構面までの深さ約70cmあり掘削土量が多く、周辺への土砂流出と壁面前壊を防ぐため、法面をやや緩くして掘削を行った結果、1・2区との境界に隙間が生じた。遺構の精査・掘削は発掘作業員3名によって行い、測量、作図、写真撮影は赤坂が行った。

調査の概要

弥永原遺跡は御笠川・那珂川により形成された丘陵上の春日市須玖〜下白水付近に位置している。遺跡は南北約2000m、東西500mほどの広さで、南端付近が最も高く標高30mを超え、北に向かって緩やかに下り、谷により東西の丘陵に分かれる。東丘陵では墓地在、西丘陵では集落が主に確認され、両者は性格の異なる一対の遺跡と考えられている。調査地は西丘陵の西側緩斜面に位置する。近隣調査として、南隣接地で5次調査が、北側約50mの地点で8次調査が行われ、弥生時代後期を中心とする時期の集落が発見されている。

今回の調査では竪穴建物2棟、ピット約10基を検出した。攪乱が多く、また南側は削平を受けているため、全体に遺構の残りは不良である。削平をうけたピット(P-4)の底面から弥生時代終末〜古墳時代初頭の甕が、竪穴建物跡に近接するピット(P-7)から弥生時代後期の小型甕が出土した。遺物はコンテナ1箱分(土器)である。

SC-1は北側にベッド状遺構を有する竪穴建物で、北側壁とその周辺の一部のみ残存していた。北壁の壁際溝は東側幅0.5m・西側幅0.2m、深さ0.1mを測る。ベッド状遺構は床面小溝で区画され主軸はN-66°-Wであり、竪穴建物の主軸もこの方向と推定する。柱穴はベッド状遺構内で1基確認され径0.6m深さ0.6mである。土層観察から貼り床ではなかった。壁面土層ではきれいに出来ないが、壁は垂直に近い角度で立ち上がる。

SC-2は南壁の一部が削平をうけたためわずかに残っていた。南壁方位がN-58°-WでありSC-1北壁と8°ず



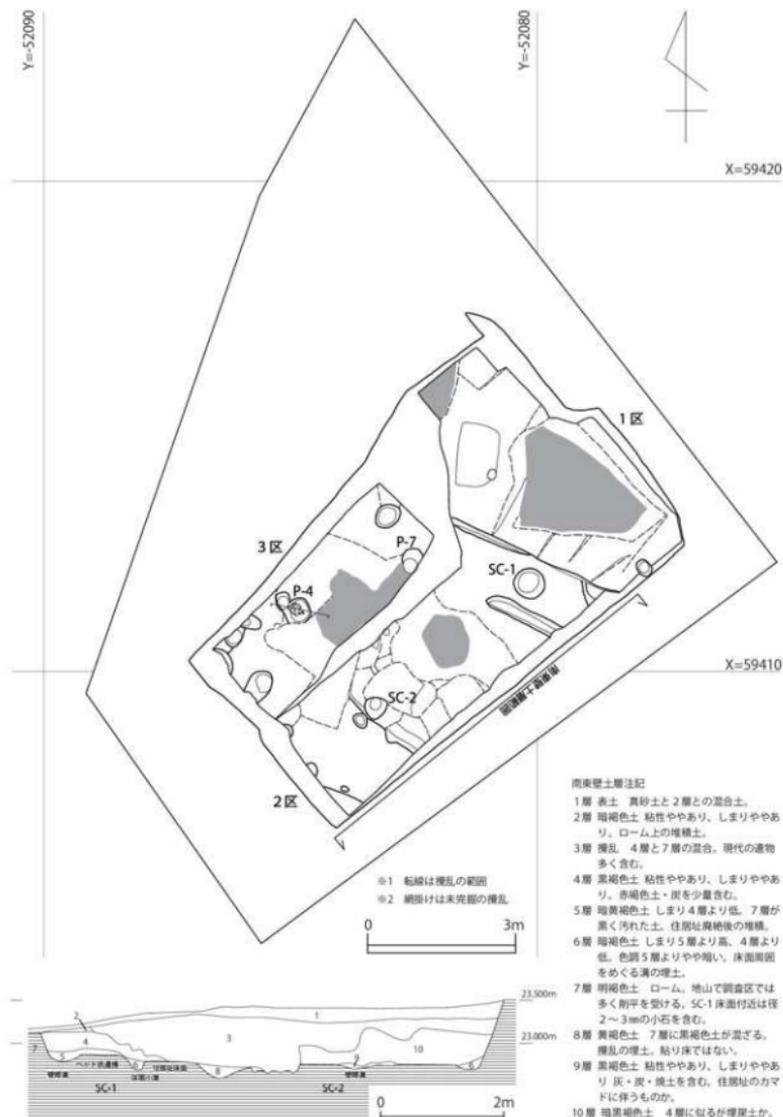
1. 調査地点の位置 (26 上日佐 0105 S-1/8,000)



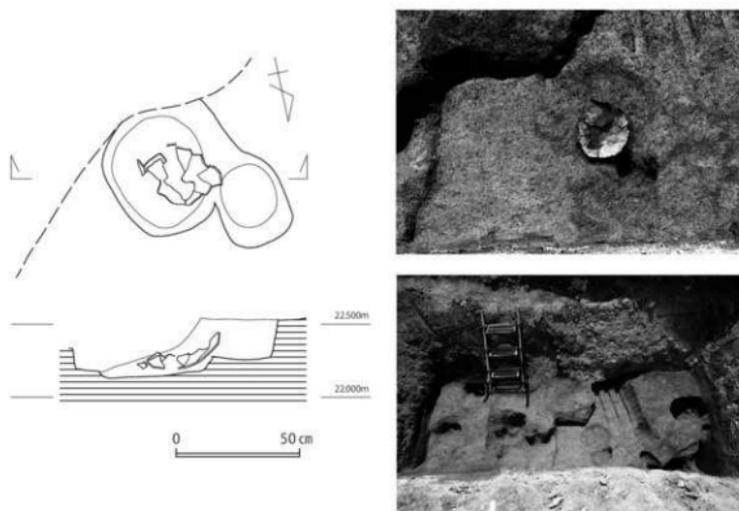
2. 1区調査区全景 (南西から)



3. 2区調査区全景 (北西から)



4. 調査区遺構実測図 (S = 1/100)、南東土層図 (S = 1/80)



5. 左:3区 P-4 遺構実測図 (S=1/20)、右上:3区 P-4 遺物出土状況 (北西から)、右下:3区調査区全景 (北西から)

れることと、土層断面で SC-1 より 10cm 低いため別の竪穴建物とした。南壁に沿って壁際溝が確認されたが、ベッド状遺構はない。壁際溝の一部で焼土をまばらに検出した。カマドの上部が削平されたものか。柱穴は不明である。

P-4 は上部を削平されたピットで底面から古墳時代初頭の甕が出土した。SC-1 との関係は不明である。P-7 は SC-1 外側の北西に接する位置で確認され、埋土内から弥生時代後期の小型甕が出土している。

まとめ

弥永原遺跡のうち、弥生時代後期を中心とする時期の集落が発見された西側緩斜面部分の調査を行ったが、時期がわかるものは少なかった。遺構密度は集落中心部より低くなるが 5・8 次調査と同内容の集落が調査地にも広がっていることが確認できた。

2006 那珂遺跡群 182次 (NAK-182)

所在地	博多区竹下4丁目108番、110番、99番の一部、那珂1丁目700番
調査原因	共同住宅建設
調査期間	2020.4.20～2020.9.30
調査面積	1,525㎡
担当者	中尾祐太
処置	記録保存

調査の概要

本調査地点は遺跡中央西端部に位置する。周辺では複数回の調査が実施されており、6世紀末から7世紀代に属する九州最古級の瓦が出土することから、一帯には寺院、官舎等が展開していたことが想定されていた。

本調査地点においても各遺構から上記の瓦が多量に出土した他、瓦を一括で廃棄した土坑を2基検出した。わずかに出土した土器から7世紀半ば～後半と考えられるが、瓦の中にはいわゆる「神ノ前タイプ」と呼称される最古段階のものも含んでいる。この土坑に近接して倉庫と考えられる総柱建物が発出されているが、柱掘方には瓦を含むことから、瓦廃棄後の建物と考えられ、周辺における中心的な性格が継続していたものと推定できる。このことは出土遺物にも表れており、10～11世紀の井戸からは邢窯系白磁碗が出土している。

その他、弥生時代後期の土坑からは小銅鐸が出土した。



1. 調査地点の位置 (37 東光寺町 0085 S=1/8,000)



2. 調査区1区全景 (北西から)

2007 吉塚遺跡 17次 (YSZ-17)

所在地	博多区堅粕4丁目345-1、345-2、345-3、388-2
調査原因	共同住宅建設
調査期間	2020.5.11～2020.6.10
調査面積	166.6㎡
担当者	木下博文
処置	記録保存

調査の概要

吉塚遺跡は、御笠川の東岸、博多湾岸に並ぶ砂丘群の一面に立地する弥生時代から中世の集落跡で、標高4mである。

今回の調査地点は遺跡中央部のやや南西寄りに位置し、西隣の区画では2・3・16次調査が実施されている。

遺構は現地表面から50cm下の黄褐色砂丘面で検出し、弥生時代中期前半～中葉の喪棺墓6基のほか、溝、井戸、土坑、近世の瓦組井戸を検出した。

出土遺物は弥生土器、須恵器、土師器などコンテナ24箱分である。

吉塚遺跡内における弥生時代の喪棺墓は、過去に確認調査で中期初頭の金海式喪棺が検出されている。本調査における検出は今回が初であり、同遺跡内における弥生時代の集落域と墓域の関係を知るうえで貴重な成果となった。



1. 調査地点の位置 (36 博多駅 0123 S=8,000)



2. 調査区北半全景 (南東から)

2008 博多遺跡群 240 次 (HKT-240)

所在地	博多区店屋町 62 番 3、62 番 4、63 番 2、64 番 1、64 番 2、64 番 3
調査原因	オフィスビル建設
調査期間	2020.5.13 ~ 2020.9.18
調査面積	214.5㎡
担当者	赤坂亨
処置	記録保存

調査の概要

博多遺跡群は御笠川・那珂川の河口部により形成された砂丘上に立地する遺跡で、調査地点は博多遺跡群のうち博多浜と息浜の砂丘が陸橋上に接続する部分の博多浜側の南東緩斜面上に位置する。調査区第 1 面は標高 3.6 m で近現代の遺構を検出した。第 2 面は標高 3.0 m 前後で中世後半である。最下層では砂丘面を確認し、調査区東側の砂丘が最も高く標高 2.8 m で、北西に向かって傾斜し、西側では標高 2.2 ~ 2.0 m。中世前半が大半で第 3 面とした。また、砂丘面の一部には奈良・平安時代の遺構および整地層を検出し第 4 面とした。標高 2.0 m 以下。遺構総数は井戸・土坑・溝 89 基、ピット 107 基。古代～近世の土器、須恵器、陶磁器、瓦、金属製品等がコンテナケース 75 箱分出土した。周辺調査と同様に、近世～近代の博多の町の遺構、中世の集落および町割りの痕跡、古代の集落の一部が広がっていたことが確認された。



1. 調査地点の位置 (49 天神 0121 S = 8,000)



2. 2区第3面全景 (北東から)

2011 箱崎遺跡 108 次 (HKZ-108)

所在地	東区箱崎 6 丁目 10-1
調査原因	都市計画道路建設
調査期間	2020.5.1 ~ 2020.7.7
調査面積	542㎡
担当者	阿部泰之
処置	記録保存

調査の概要

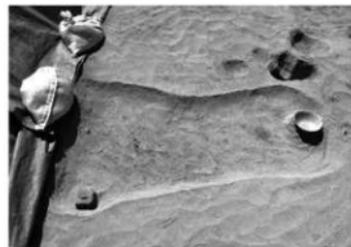
箱崎遺跡は福岡市の中央部、西に博多湾を臨み、東を宇美川に限られる砂嘴状の砂丘上に位置する。今回の調査地は遺跡の北部、九州大学旧箱崎キャンパス跡地の内部である。遺構面は現地表面下 -1.6 ~ -1.3 m、標高 1.4 ~ 2.0 m の明褐～灰白色砂上である。

今回の調査で検出した遺構は、井戸 6 基・土坑 2 基・柱穴・ピットである。井戸は 1 基が幕末～近代、それ以外は 15 世紀代と考えられる。土坑のうち 1 基は完形の龍泉窯系青磁碗や鉄釘が出土していることから木棺墓と考えられる。

今回の調査では鎌倉～室町期の井戸・土坑・柱穴を検出した。室町期の井戸は 5 基のうち 4 基が切り合っており、改修を繰り返しつつ使用されたことがわかる。土坑からは 12 世紀後半～13 世紀までの遺物が出土しており、調査地周辺に集落が拡大した時期を示すものと考えられる。



1. 調査地点の位置 (33 貝塚 2639 S = 8,000)



2. 2区木棺墓 (南から)

2009 中村町遺跡第9次調査 (NMM-9)

所在地	南区野間野間3丁目179番の一部
調査原因	宅地造成
調査期間	20200513～20200528
調査面積	90.65㎡
担当者	久住猛雄、中園将祥
処置	記録保存

調査の概要

1. 位置と環境

中村町遺跡は、片縄山から北に延びて警固丘陵に達する第三紀層を基盤とした丘陵上に立地している。この丘陵は地形的に、樋井川流域と那珂川流域を分けている。中村町9次調査地点は、丘陵上に広がる遺跡範囲の北半中央斜面に位置する (Fig.1・2)。調査地の東側55mには若久川が北流する。なお10次調査は調査当時の同一敷地内の南側にあたる。調査地は後世の造成を受け、西側道路面との間には約1.5mの段差があり、調査地側がかなり削平されている印象を受ける。現況の地表面は、9次調査区東側で標高8.85m前後、西側で9.0m前後である。

2. 調査の概要

調査は、予定される盛土造成が試掘調査により確認された遺構検出面から2m以上となるため、調査当時の同一敷地のうち北西約1/4の盛土造成予定範囲を対象として行われた。ただし実際には隣地境界との安全確保のため、敷地境界から若干引きを取った範囲を掘削して発掘調査を行った (Fig.3)。また引き続き実施した10次調査とは、遺構面における実質調査範囲の確保のため、やむを得ず調査区上端に若干の重複を生じている。調査区の座標は任意座標であるが、付近の国土座標基準点から国土座標 (世界測地系) を移動して調査区的位置を求めている。また標高は、国土座標基準点の標高を移動して用いている。遺構は現況地表下120cm前後の黄褐色粘質シルトないし砂層の上で検出した (Fig.4)。地表下100cm前後で最



Fig. 1. 調査地点の位置 (51 高宮 0167 S=8,000)



Fig. 2 中村町遺跡北半部の調査地点位置図 (S=1/4,000)



Ph. 1 中村町遺跡9次調査状況全景 (東から)

近の造成前の水田層があり、その下の遺構面は遺構の遺存状況から顕著な削平を受けていると考えられるので、この水田層は東側の若久川に沿って新田開発された痕跡であろう。遺構の遺存 (深さ) は全体に極めて浅い。検出遺

構は、溝状遺構3、土坑?1、その他柱穴の可能性のあるピットである。

3. 検出遺構 (Fig.5)

SD010は、調査区東縁中央で検出した長さ1.88m、幅20~28cm、深さ8cm以内の溝状遺構(断面はFig.6「f1-f2」「g1-g2」)。ほぼ南北方位。覆土は検出面上部の包含層(Fig.4の土層図参照)に近い。溝の南端はピット状になるが、東に屈曲するように見える。おそらく竪穴住居(竪穴建物)の壁周溝の残存である。出土遺物は無かった。SX002は、SD010の南西で検出した長さ1.16m、最大幅23cm、深さ6cm以内の溝状遺構で、底面が一部ピット状となる(断面はFig.6「f1-f2」「g1-g2」)。SD010と同様にほぼ南北方位である。これも推測だが、おそらく竪穴住居の壁周溝の残存であろう。覆土はSD001と同様である。出土遺物は無い。SX001は調査区西側中央で検出した、長さ2.05m、幅10~45cm、深さ数cm足らずの溝状遺構ないしその重複(断面はFig.6「b1-b2」「c1-c2」)。方位はN-65°-W。これも推測であるが、竪穴住居の壁周溝の残存と考える。遺物は土器細片があった。SK015は調査区中央Bトレンチ設定箇所上部で検出した土坑ないしピットで、覆土は上部包含層土層と砂の混合土。長軸75cm×短軸60cm、深さ20~27cm、



Fig.3 中村町9・10次調査敷地図・調査区全体図 (S=1/300)



Fig.4 中村町9次調査区北壁土層図およびトレンチ土層図 (S=1/40)

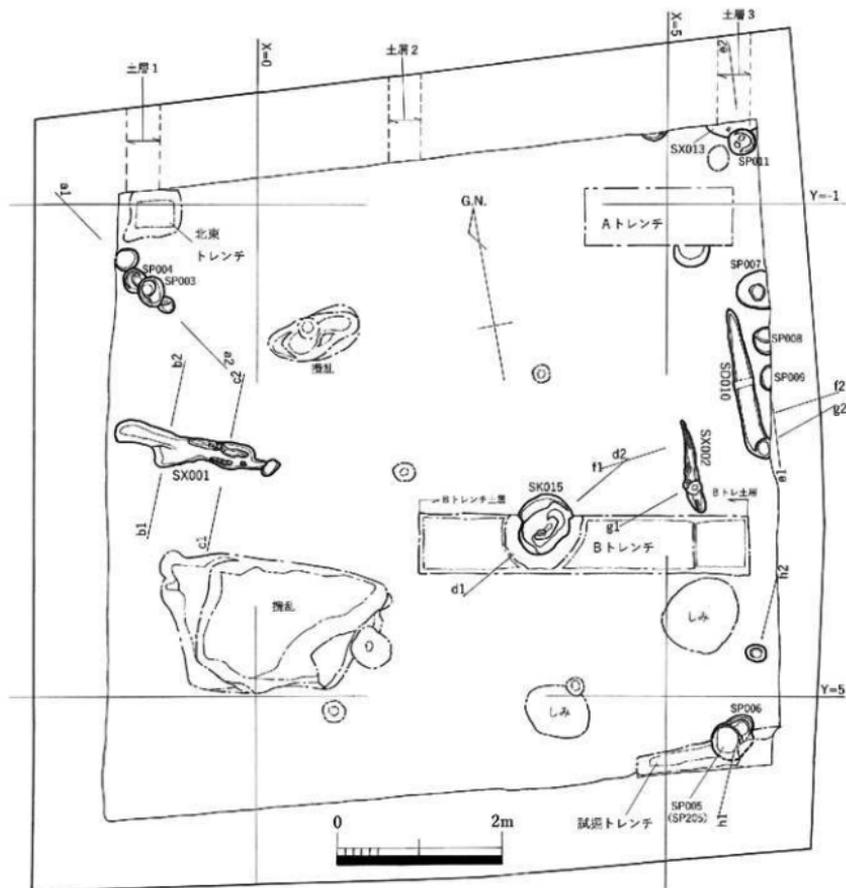
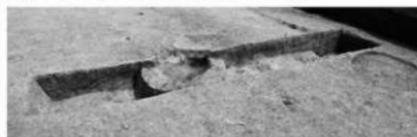
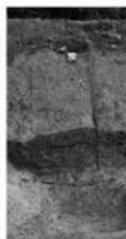


Fig.5 中村町9次調査区全体図 (S-1/60)

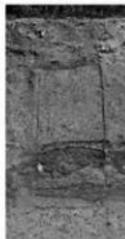


Ph.2 Bトレンチ北側土層状況(南から)

方位はN-60°-E(断面はFig.6「d1-d2」)。出土遺物は無く、時期不明。SP005は調査区南東隅で検出したが、10次調査側のSP205と同一(ただし10次調査時の掘削と微妙に合致しない)。覆土は暗褐色土で極暗褐色土を含む土層。径45cm×52cm前後、深さ50cmの柱穴である(断面はFig.6「h1-h2」)。堅穴住居の主柱穴などの可能性がある。北東側のSP006とは重複すると思えたが、あるいは同一柱穴で、SP005が「柱抜き痕」の可能性もある。



Ph.3 北側土層1



Ph.4 北側土層2



Ph.5 北側土層3

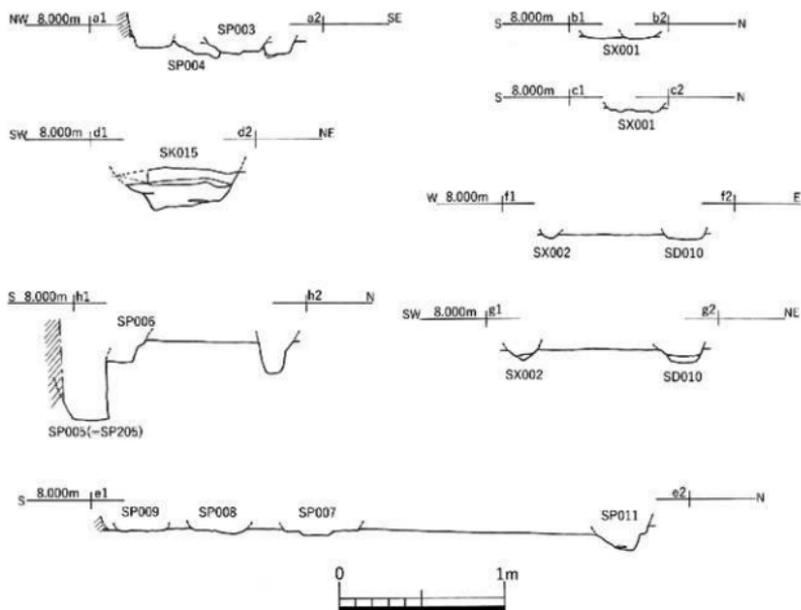


Fig.6 遺構断面図 (S=1/30) ※断面位置は Fig.5 参照



Ph.6 調査区南東側遺構掘削状況 (東から)



Ph.7 SP007~009, SP010, SK002 掘削状況 (西から)

4. 出土遺物

本調査では、総量にしてパンケース 1 箱未満の遺物が出土した。弥生土器および古墳時代後期から飛鳥時代と思われる土師器と須恵器があるが、いずれも小片である。図示できたものはわずかである (Fig.7)。1 は試掘トレンチ埋め戻し土から出土した須恵器大甕の胴部片で、外面タタキ、内面は当具痕。2 は土師器の甕の底部付近の破片である。ほぼ丸底で、内面は摩滅しているがおそらくヘラケズリ。いずれも古墳時代後期～飛鳥時代であろう。

5. まとめ

検出遺構のうちいくつかは竪穴住居の壁周溝の可能性がある。調査地点西側の丘陵頂部の 1 次調査では古墳時代後期から飛鳥時代の集落跡が検出されており、9 次調査でも前後する時期の集落跡の広がりを検出したとみられる。

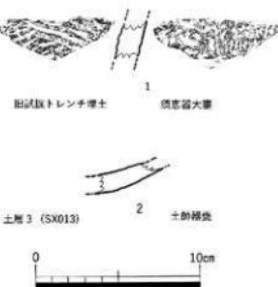


Fig.7 中村町 9 次調査出土遺物 (S=1/3)

2010 中村町遺跡第10次調査 (NMM-10)

所在地	南区野間3丁目179番の一部
調査原因	宅地造成
調査期間	20200601～20200626
調査面積	110.44㎡
担当者	久住猛雄
処置	記録保存

調査の概要

1. 調査に至る経緯

1. 位置と環境

中村町遺跡の位置と環境については、前項の「2009中村町遺跡第9次調査」を参照されたい。中村町第10次調査は、第9次調査と同じ敷地内の南側隣地にあたる(中村町9次報告Fig.3)。調査区は、廃土処理の都合上、北側で9次調査と重複する部分が生じている。9次調査と同様に、西側に高さ1.5m前後のブロック塀があり西側が高く、原地形からかなり造成され、調査区側が削平されていることが予想される。調査区西側の現地表面の標高は9.25m(南西)～9.0m(北西)前後、東側は8.9m前後、西側道路の標高は10.5～10.7m前後である。

2. 調査の概要

調査は、9次調査と同様に予定される盛土造成が試掘調査により確認された遺構検出面から2m以上となるため、調査当時の同一敷地のうち南西約1/4の盛土造成予定範囲を対象として行われた。ただし実際には隣地境界との安全確保のため、敷地境界から若干引きを取った範囲を掘削して発掘調査を行った(中村町9次報告Fig.3)。また先に実施した9次調査とは、遺構面における実質調査範囲の確保のため、やむを得ず調査区上端に若干の重複を生じている。調査区の座標は任意座標であるが、付近の国土地標基準点から国土地標(世界測地系)を移動して調査区的位置を求めている。また標高は、国土地標基準点の標高を移動して用いている

遺構は現況地地表下120cm前後の黄褐色粘質シルトないし砂層の上面で検出した(本報告Fig.3)。基本土層は9次調査とほぼ同じである。検出遺構は、溝状遺構2、土坑2、その他柱穴になる可能性があるピットである。

3. 検出遺構 (Fig.2)

SK201は調査区南西側で検出した長軸144cm、短軸最大幅(中央やや東側)92cm～中央85cm前後の不整楕円形、深さ45cm、断面U字状の土坑(Fig.4, Ph.6～10)。長軸方位はN-75°-E。中央やや西側上層下部に土器が一括して出土した(Ph.6～8)。調査途中で豪雨があり、雨水で上部の壁が流失し完掘時には一回り大きくなってしまったが(Ph.10)、図面上では当初検出の上端ラインで修正している。土層を見ると(Fig.4右)、33～35層の存在から、掘り返しもしくは木枠ないし側板のようなものがあつた可能性もある。底面は湧水がみられ、底面に中央に凹みがあることも考慮すると、「井戸」であつた可能性もある。出土遺物(Fig.8-3～9)は、上層・下層ともに古墳時代後期前葉(須恵器のMT15型式期)の幅におさまり、遺構の時期も同様だろう。SK202は調査区南西側、SK201の北西1.1mで検出した東西78cm×南北70cm、深さ12cmの略円形土坑(Fig.5, Ph.11・12)。浅い土坑だが、土器片が若干出土した。中央には弥生土器片(Fig.8-1)、中央やや西側検出面直下には土師器片(Fig.8-2)が出土した。時代の異なる遺物であるのは明らかで、弥生土器片は表面の摩滅度が大きく混入であろう。遺構の時期は土師器片(古墳時代後期)が示している。ただし、削平された遺構に弥生時代後期前葉頃のものがあつたことが示唆される。SD208は調査区北東で検出した長さ2.95m(北端の小ピットは除き、南端のピットは含める)、最大幅67cm、深さ15cm以内の溝状遺構(Fig.2)。方位はN-7°-W。底面に凹凸とピットの重複があるが(断面は



1. 調査地点の位置 (51 高宮 0167 S=8,000)



Ph.1 中村町遺跡10次調査状況全景(東から)

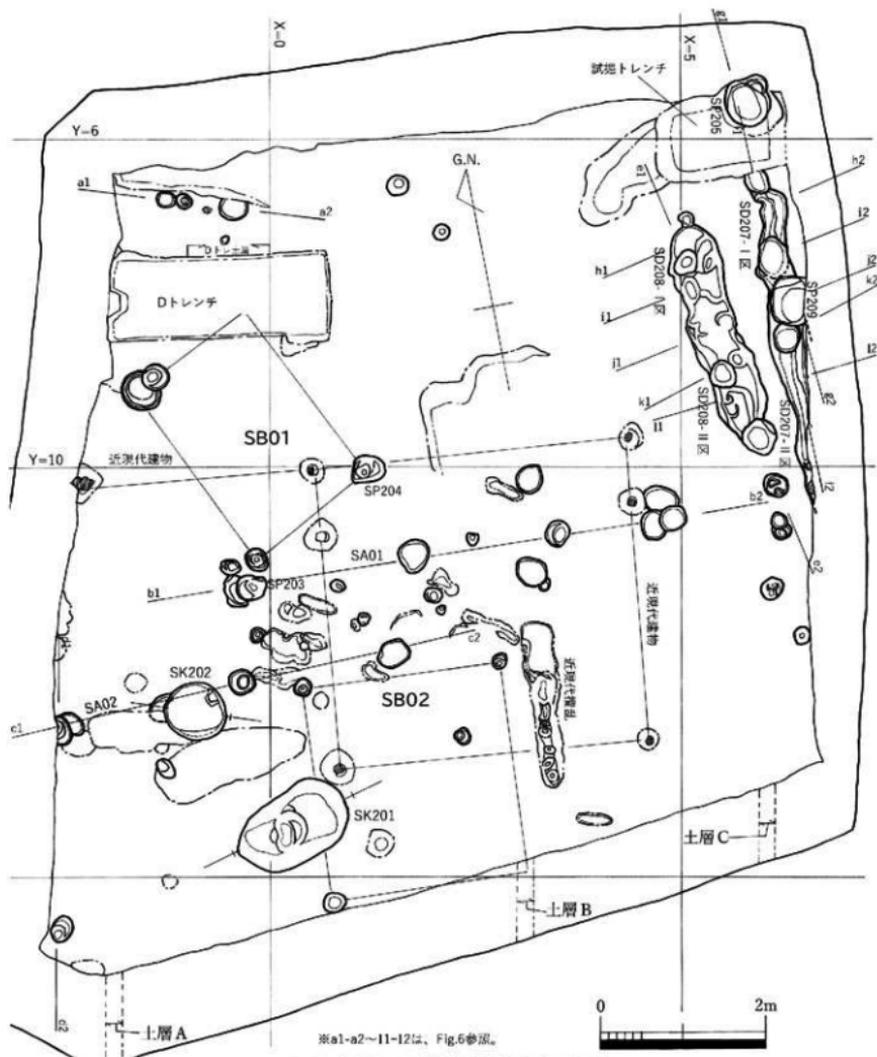


Fig.2 中村町10次調査区全体図 (S=1/60)

Fig.6「e1-e2」「h1-h2」～「l1-l2」)、重複するピットはあるいは同時存在の可能性もある。おそらくなんらかの区画溝だろう。遺物は僅かに出土したが、図示できるものに須恵器片があり (Fig.8-11)、古墳時代後期前葉 (MT15期) 頃である。SD207はSD208の東側でおよそ平行して検出した溝状遺構 (Fig.2)。南側は調査区外に延び、北側はピットに切られる。長さ3.9m以上、幅50cm以内 (東側が調査区外になる部分が多く推定)、深さは最深12cmだがそれは重複ピットの箇所では6cm前後と浅い (断面はFig.6「f1-f2」～「l1-l2」)。重複ピット部分を除くとSD208と異なり底面の凹凸は少なく、幅も狭いので、竪穴住居の壁周溝の残存の可能性もある。その場合遺構

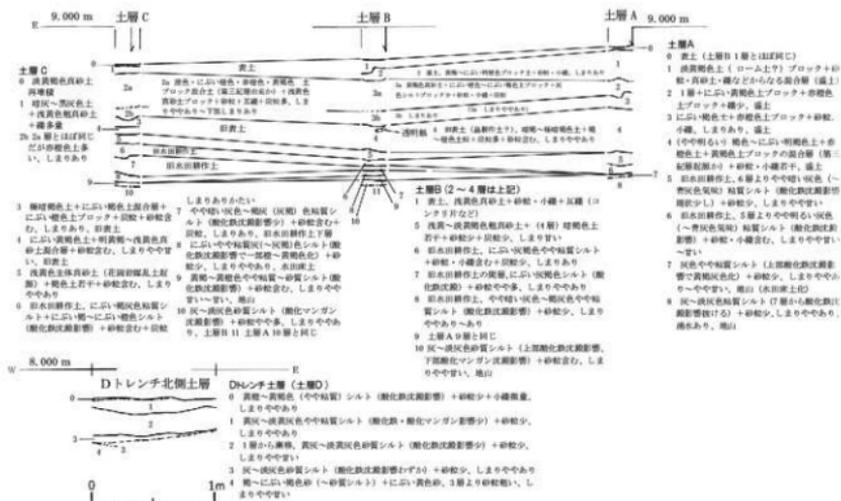
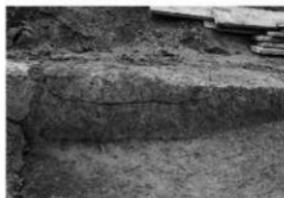


Fig.3 中村町 10 次調査区南壁土層図および D トレンチ土層図 (S=1/40)

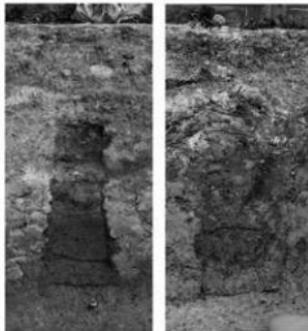


Ph.2 中村町遺跡 10 次調査状況全景 (北から)

は東側に広がる。方位は N-1°-E で、SB02 に近い。遺物の出土は少ないが、須恵器片があり (Fig.8-10)、古墳時代後期後葉 (TK43 期=Ⅲ B 期) 頃と考えられる。SB01 は調査区中央西側で推定した 1 × 1 間の掘立柱建物 (Fig.7 上)。1.7m × 2.54m、方位は N-26°-W。強いて言えば SK201 の長軸方位の直交に近い。遺物はほとんどないが、おそらく古墳時代後期。SB02 は調査区中央南側で推定した 1 × 1 間の掘立柱建物 (Fig.7 下)。2.42m × 2.66m、方位は N-2.7°-E。SD207 の方位に近い。遺物はほとんどないが、古墳時代後期か。SA01 は調査区中央で東西に並ぶ、4 柱穴 3 間のピット列 (断面は Fig.6「b1-b2」)。長さ 5.2 ~ 5.4m 前後。N-87.5°-W の方位で、Ph.5 南壁土層 C SD207 の直交方位に近い。SA02 は SA01 の南側にある、3 柱穴 2 間のピット列 (断面は Fig.6「c1-c2」)。長さ 4.3m 前後、方位は N-87°-E で、SD208 の直交方位に近い。SP205 は 9 次調査 SPO05 と同一のやや大型の柱穴だが、10 次調査側で完掘したもの (Fig.2, Ph.16)。試掘トレンチにかかっているのが浅くなっているが、本来の遺構検出面からの深さは 51cm で (断面は Fig.6「g1-g2」)、平面規模も径 70cm 前後での検出だが、本来は一回り大きく



Ph.3 D トレンチ北側土層状況 (南から)



Ph.4 南壁土層 A

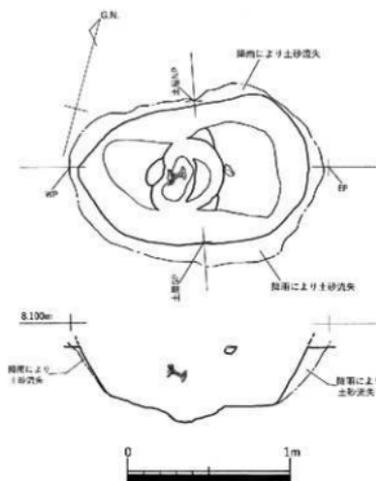


Fig.4 SK201 実測図および土層断面図 (S=1/30)

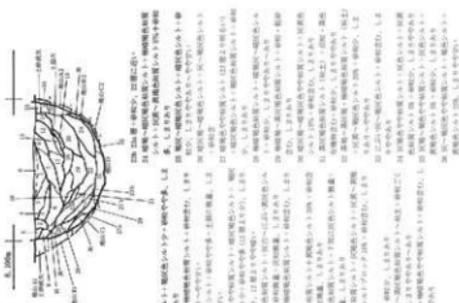


図5 SK201 土層断面図

SK201 土層断面図
 1. 表層 (Surface layer)
 2. 表層 (Surface layer)
 3. 表層 (Surface layer)
 4. 表層 (Surface layer)
 5. 表層 (Surface layer)
 6. 表層 (Surface layer)
 7. 表層 (Surface layer)
 8. 表層 (Surface layer)
 9. 表層 (Surface layer)
 10. 表層 (Surface layer)
 11. 表層 (Surface layer)
 12. 表層 (Surface layer)
 13. 表層 (Surface layer)
 14. 表層 (Surface layer)
 15. 表層 (Surface layer)



Ph.6 SK201 遺物出土状況 (北西から)



Ph.9 SK201 ベルト土層状況 (北東から)



Ph.7・8 SK201 遺物出土状況近影 (南東から / 北東から)



Ph.10 SK201 掘削状況・高坪出土状況 (南東から)

※雨天時に上部流出し拡張

なるものである。SP209はSD207を切ると思われるやや大型の柱穴(Ph.15)。径60cm前後、深さ46cm(断面はFig.6「f1-f2」「g1-g2」「j1-j2」)。土層を観察すると廃絶時に柱を抜いた可能性が高い。SP205とSP209は似た雰囲気(の柱穴)であり、この両者で組み合せて削平された竪穴住居の支柱穴または掘立柱建物の一部になる可能性もあろう(2柱穴の断面はFig.6「g1-g2」)。なおこの2柱穴を結んだラインの方位はN-2.5°-Wで、SA02に近い。

4. 出土遺物 (Fig.8)

本調査では、パンケースにして総量2箱程度の遺物が出土した。弥生土器、土師器、須恵器の破片があるが、

古墳時代後期から飛鳥時代の土師器、須恵器が主体である。そのうちいくつかを Fig.8 に示した。1 は SK202 出土の弥生土器だが、形態からみて弥生時代後期前葉の壺である。器表面は全体的に摩滅している。また図示していないが焼成剥離痕とみられる部分がある。2 は SK202 出土の土師器の甕。器面が摩滅気味で内外の調整が不明確だが、外面はおそらくタテハケ、内面はヘラケズリか。外面にわずかに煤痕跡がある。3～9 は SK201 出土の須恵器と土師器。上下層に出土は分かれるが、須恵器は型式的に上下層ともに MT15 期。3 は MT15 の典型的な長脚一段透かしの高坏。青灰色気味の暗灰色。5 は小型だが、おそらく高坏形器台の脚台部分で、裾部に丁寧な櫛波状文がある。明灰色で 3 の高坏とは生産者が異なるか。4 は甕の可能性も考えたが、想定法量などから壺とした。8 は土師器の小型甕としたが、鉢の可能性もある。9 は比較的精製の土師器椀状坏。6,7,11 (11 は SD208) は微妙に形態の差異があるが MT15 期の坏蓋のパラエティでよいだろう。10 (SD207) はそれらより明らかに後出する型式の坏蓋で、TK43 期 (Ⅲ B 期)。

5. まとめ

遺構の遺存状況は良くなかったが、北側 9 次調査と同様に、主に古墳時代後期の遺構と遺物を検出した。西側丘陵頂部の 1 次調査付近から、丘陵西側斜面には古墳時代後期前後の集落が広がっていることが明らかになった。

6年心土層 1 "須恵器" 6年心土層 2 "須恵器" 6年心土層 3 "須恵器" 6年心土層 4 "須恵器" 6年心土層 5 "須恵器" 6年心土層 6 "須恵器" 6年心土層 7 "須恵器" 6年心土層 8 "須恵器" 6年心土層 9 "須恵器" 6年心土層 10 "須恵器" 6年心土層 11 "須恵器" 6年心土層 12 "須恵器" 6年心土層 13 "須恵器" 6年心土層 14 "須恵器" 6年心土層 15 "須恵器" 6年心土層 16 "須恵器" 6年心土層 17 "須恵器" 6年心土層 18 "須恵器" 6年心土層 19 "須恵器" 6年心土層 20 "須恵器" 6年心土層 21 "須恵器" 6年心土層 22 "須恵器" 6年心土層 23 "須恵器" 6年心土層 24 "須恵器" 6年心土層 25 "須恵器" 6年心土層 26 "須恵器" 6年心土層 27 "須恵器" 6年心土層 28 "須恵器" 6年心土層 29 "須恵器" 6年心土層 30 "須恵器" 6年心土層 31 "須恵器" 6年心土層 32 "須恵器" 6年心土層 33 "須恵器" 6年心土層 34 "須恵器" 6年心土層 35 "須恵器" 6年心土層 36 "須恵器" 6年心土層 37 "須恵器" 6年心土層 38 "須恵器" 6年心土層 39 "須恵器" 6年心土層 40 "須恵器" 6年心土層 41 "須恵器" 6年心土層 42 "須恵器" 6年心土層 43 "須恵器" 6年心土層 44 "須恵器" 6年心土層 45 "須恵器" 6年心土層 46 "須恵器" 6年心土層 47 "須恵器" 6年心土層 48 "須恵器" 6年心土層 49 "須恵器" 6年心土層 50 "須恵器" 6年心土層 51 "須恵器" 6年心土層 52 "須恵器" 6年心土層 53 "須恵器" 6年心土層 54 "須恵器" 6年心土層 55 "須恵器" 6年心土層 56 "須恵器" 6年心土層 57 "須恵器" 6年心土層 58 "須恵器" 6年心土層 59 "須恵器" 6年心土層 60 "須恵器" 6年心土層 61 "須恵器" 6年心土層 62 "須恵器" 6年心土層 63 "須恵器" 6年心土層 64 "須恵器" 6年心土層 65 "須恵器" 6年心土層 66 "須恵器" 6年心土層 67 "須恵器" 6年心土層 68 "須恵器" 6年心土層 69 "須恵器" 6年心土層 70 "須恵器" 6年心土層 71 "須恵器" 6年心土層 72 "須恵器" 6年心土層 73 "須恵器" 6年心土層 74 "須恵器" 6年心土層 75 "須恵器" 6年心土層 76 "須恵器" 6年心土層 77 "須恵器" 6年心土層 78 "須恵器" 6年心土層 79 "須恵器" 6年心土層 80 "須恵器" 6年心土層 81 "須恵器" 6年心土層 82 "須恵器" 6年心土層 83 "須恵器" 6年心土層 84 "須恵器" 6年心土層 85 "須恵器" 6年心土層 86 "須恵器" 6年心土層 87 "須恵器" 6年心土層 88 "須恵器" 6年心土層 89 "須恵器" 6年心土層 90 "須恵器" 6年心土層 91 "須恵器" 6年心土層 92 "須恵器" 6年心土層 93 "須恵器" 6年心土層 94 "須恵器" 6年心土層 95 "須恵器" 6年心土層 96 "須恵器" 6年心土層 97 "須恵器" 6年心土層 98 "須恵器" 6年心土層 99 "須恵器" 6年心土層 100 "須恵器"

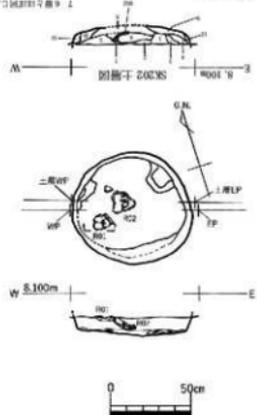
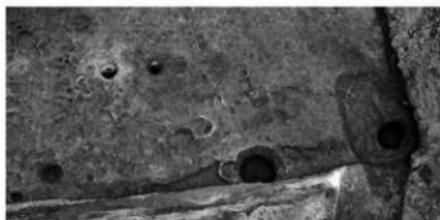


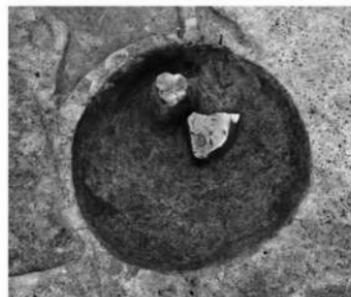
Fig.5 SK202 実測図および土層断面図 (S=1/30)



Ph.11 SK202 ベルト土層状況 (北から)



Ph.13 調査区北東側 SD207・SD208 ほかに掘削状況 (東から)



Ph.12 SK202 遺物出土状況 (南から)



Ph.14 調査区北東部 SD207・SD208 ほかに掘削状況 (南西から)

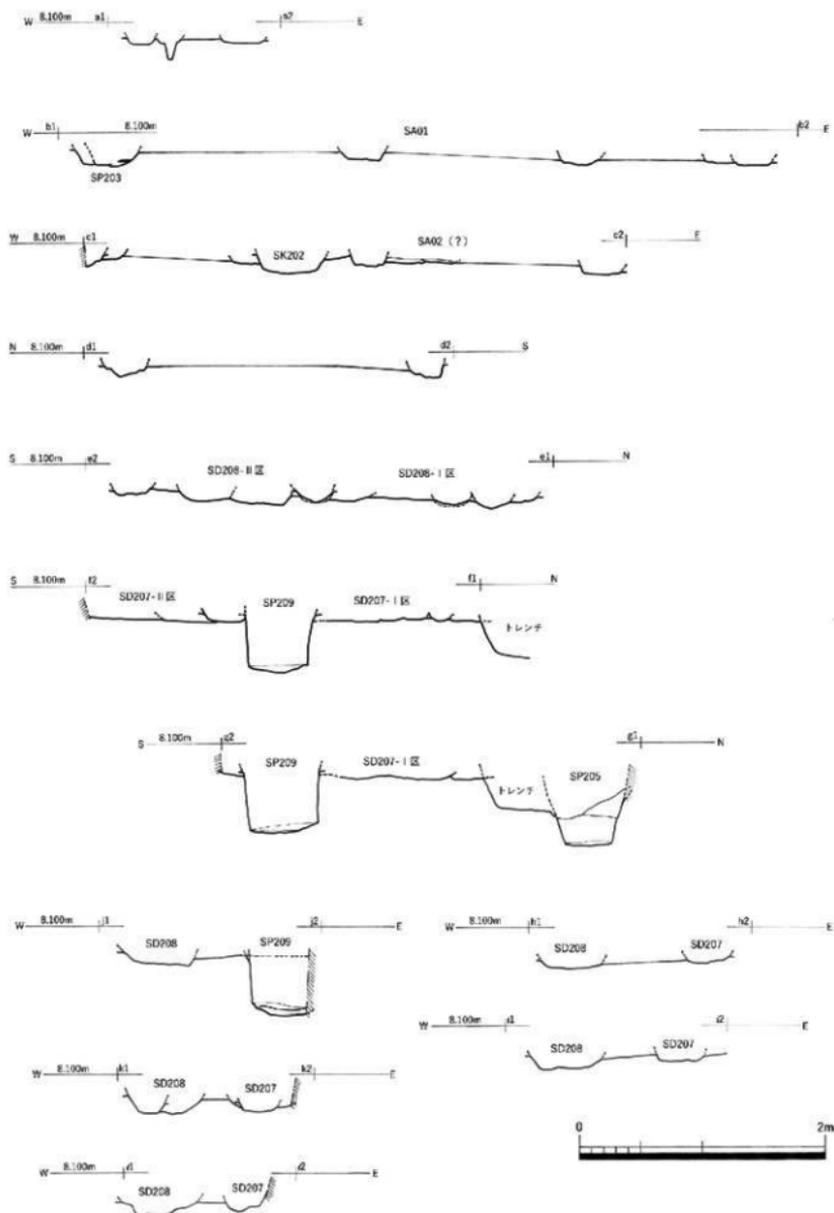


Fig.6 遺構断面図 (S=1/40) ※ A1 - A2 ~ L1 - L2 の位置は Fig.2 参照

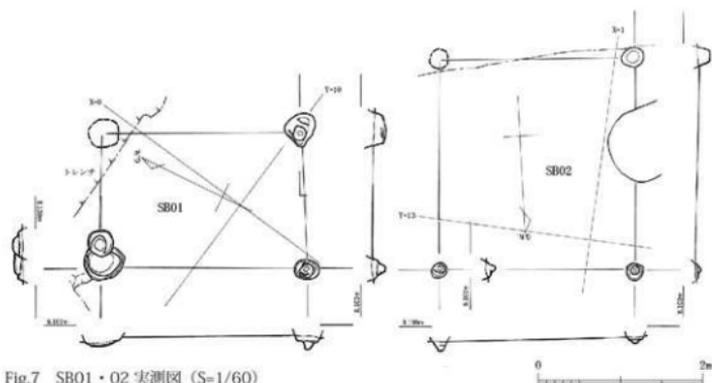
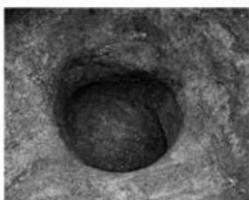


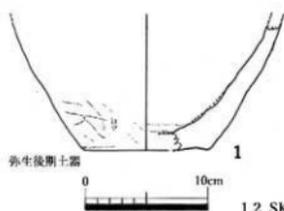
Fig.7 SB01・02 実測図 (S=1/60)



Ph.15 SP209 土層状況(西から)



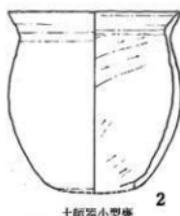
Ph.16 SP205 完掘状況(南西から)



孫生後期土器

1

1,2 SK202



土師器小型甕

2



須恵器坏蓋

10

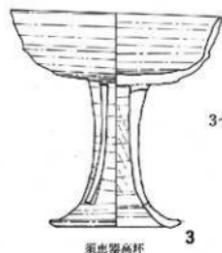
SD207上層



須恵器坏蓋

11

SD208-1区上層



須恵器高坏

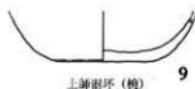
3

3~5,9 SK201上層



須恵器壺

4



土師器坏(横)

9



須恵器坏蓋

6

6~8 SK201下層



須恵器坏蓋

7



土師器小型甕?

8



須恵器器台

5

Fig.8 中村町10次調査出土遺物 (S=1/3)

2012 博多遺跡群 241 次 (HKT-241)

所在地	博多区祇園町 326-1
調査原因	ホテル建設
調査期間	2020.6.1 ~ 2020.9.4
調査面積	197㎡
担当者	佐藤一郎
処置	記録保存

調査の概要

博多遺跡群は福岡平野の中央、那珂川河口部右岸に位置し、博多湾岸に沿って形成された古砂丘上に立地している。調査地は博多遺跡群中央の南寄りに位置する。

近世以降の堆積直下、標高 4m 前後の砂丘砂上面で、12 世紀前半～13c 後半の井戸を 9 基、土坑を 8 基、ビット状遺構 40 基を検出した。調査区北東部では 8 世紀以前の遺物包含層が残り、掘り下げていく過程で、4 世紀代の竪穴住居跡・土坑、8 世紀代の土坑・ビット状遺構数個を検出したが、4 世紀代の住居跡や土坑は後世の遺構や攪乱に切られ断片的に残るのみであった。

検出された遺構は中世前半、12 世紀後半を主とし、12 世紀前半・13 世紀後半がそれに次ぐ。古墳時代から古代にかけての遺構も検出したが、後世の遺構に切られて残りはよくない。



1. 調査地点の位置 (49 天神 0121 S = 8,000)



2. 調査区全景 (東から)

2013 藤崎遺跡 40 次 (FUA-40)

所在地	早良区高取 2 丁目 154 番 2
調査原因	個人住宅建設
調査期間	2020.6.1 ~ 2020.6.30
調査面積	36㎡
担当者	荒牧宏行
処置	記録保存

調査の概要

博多湾に沿って延びる砂丘に立地した藤崎遺跡の南西部に位置する。砂丘の最も高い部分は明治通りから商店街へと続き、弥生時代の甕棺墓が集中している。今回の調査地点は浜堤列の後背部に位置し、南側に下降していく地形である。地山の明黄褐色砂の標高は 2.9 ~ 2.5m を測り、南西部は粗い海浜砂となる。

検出した遺構は 7 世紀後半～8 世紀前半代と 12 世紀代の柱穴、土坑、溝などの集落に関係したものである。この成果は隣接した第 20 次調査成果に近い。

7 世紀後半～8 世紀前半代の須恵器や 12 世紀代の中国陶磁器のほか漁業に関連して土製の鎌や鉄製の釣り針などが出土した。

区画溝が検出されたことから、集落の地割、範囲等に関して具体的な様相を知るうえで新たな資料となった。



1. 調査地点の位置 (81 室見 0307 S = 8,000)



2. 調査区南側全景 (北から)

2014 有田遺跡群 271 次 (ART-271)

所在地 早良区有田 2 丁目 11 番 2
 調査原因 戸建住宅建設
 調査期間 2020.6.15 ~ 2020.7.9
 調査面積 148.29㎡
 担当者 三浦萌
 処置 記録保存

調査の概要

1. 調査にいたる経緯

令和元年 12 月 17 日付けで、当該地における埋蔵文化財の有無についての照会文書が提出された（事前審査番号 2019-2-998）。申請地が周知の埋蔵文化財包蔵地である有田遺跡群に含まれていることから、令和 2 年 1 月 8 日に申請地で確認調査を実施した。その結果、現地表下 70cm の橙褐色粘質土層上において柱穴等の遺構が検出された。協議の結果、個人住宅建築に際し現況面から切り下げを行うことから、埋蔵文化財への影響は免れないため、発掘調査による記録保存を行うこととなった。調査は令和 2 年 6 月 15 日から開始し、同年 7 月 9 日に終了している。

2. 調査の概要

有田遺跡群は早良平野の北側中央部に位置する独立中位段丘上に存在する。今回の調査地はその有田遺跡群の南東部、ゆるやかな斜面上に位置する。廃土置き場の都合上、重機による遺構面までの掘り下げを 3 回にわけて行った。現地表下約 50 ~ 70cm で遺構面を検出したが、調査区全体で既に削平をうけており、重機による攪乱等で遺構の残存状況は良いものではなかった。発見された遺構は調査区をほぼ中央で東西に横断する溝 1 条とピット複数である。遺物は小片が多く、図示できるものは少ない。

3. 遺構と遺物

溝が 1 条とピットが複数検出されている。

SD-001 (図 2、3)

調査区のほぼ中央で東西に横断する形で発見された溝である。幅 90cm、深さ 1m で断面 V 字形をとる。板付式土器が出土していることから、時期は弥生時代前期である。遺物は主に 1 層と 2 層から出土している。

1 ~ 3 は弥生土器である。1・2 は甕である。同一個体であると思われる。1 層と 2 層から出土している。板付 II 式土器か？

3. SD001 土層断面
 3 はおそらく甕の底部である。底径 6.5cm。内面の底部に指ナゲが残っているものの、内外面ともに風化によって調整は不明瞭である。2 層からの出土。4 は土錘である。長さ 4.3cm、幅 3.4cm、孔径 1cm で、指圧痕がわずかに残るものの丁寧なナゲ調整が施されている。黒色を呈す。2 層からの出土。



1. 調査地点の位置 (82 原 0309 S = 8,000)



2. SD001 (東から)

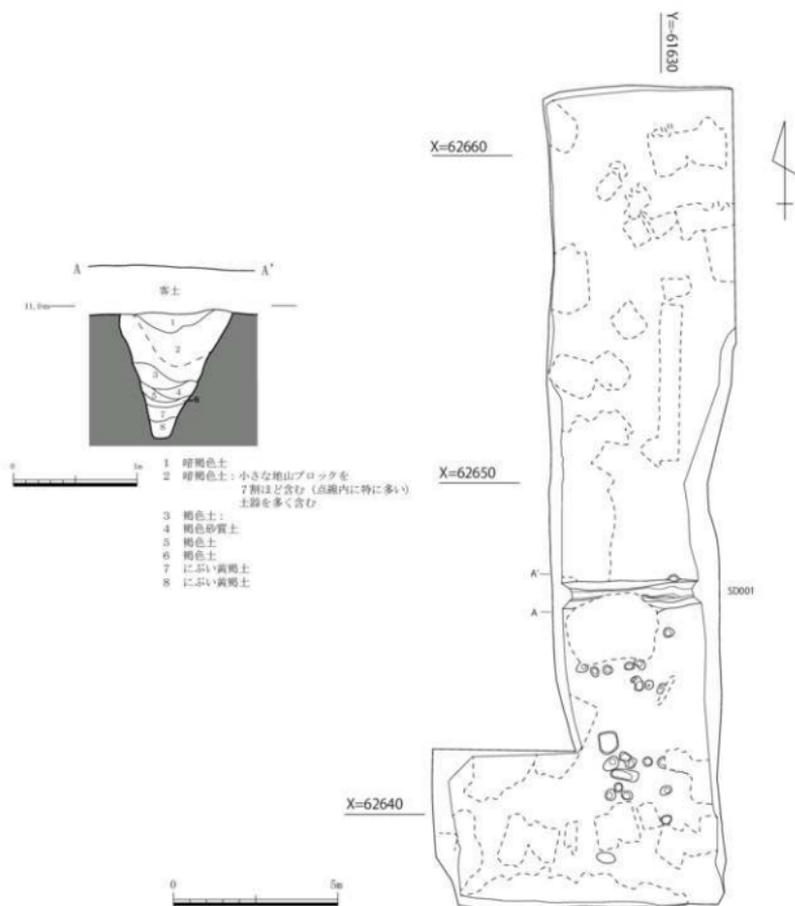




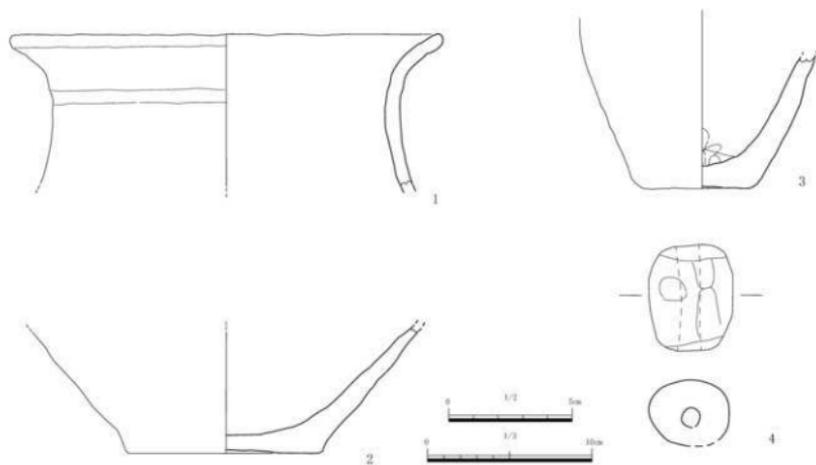
4. 調査区位置図 (S=1/500)

4. まとめ

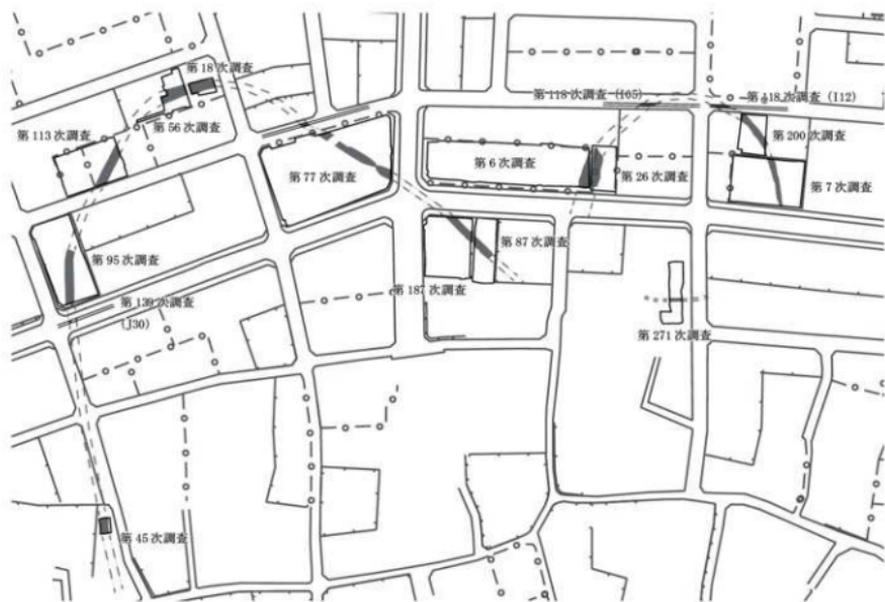
今回発見された遺構は断面V字形の弥生時代前期の溝である。これまでの調査によって、有田遺跡群では周溝が発見されている。1つは遺跡東側にある断面V字形をとるものであり、もう1つは西側にある断面台形をとるものである。今回発見された溝は断面形態と時期等から第7次調査と第28次調査において発見された東側の溝とつながるものであると考えられ、このことからこの東側の周溝は比較的小規模な範囲をめぐっていることがわかった。



5. 調査区全体図 (1/150) とSD001土層図 (1/40)



6. SD001 出土遺物 (1~3: 1/3 4: 1/2)



7. 有田遺跡群環濠復元図 (1/2000)

2015 箱崎遺跡 109次 (HKZ-109)

所在地	東区箱崎6丁目10-1 (記録資料館2次)
調査原因	学術研究 (記録保存・HKZ2003)
調査期間	2020.6.22 ~ 2020.10.10
調査面積	530㎡
担当者	九州大学理蔵文化財調査室
処置	記録保存

調査の概要

今回実施した HKZ2003 地点 (記録資料館地点2次) は、九州大学箱崎キャンパス南東端に位置する。目的は、中世都市箱崎の北端エリアの性格解明である。

遺構は236基発見された。土坑・柱穴 (礎石を検出したものを含む)・溝・井戸に加え方形の粘土遺構や、土師器の坏皿を一斉に投棄した土坑がみとめられた。特筆されるのは、調査区の全域からかなりの量の瓦 (鬼瓦、軒丸瓦、軒平瓦含む) が出土した点である。土坑のほか、廃絶した井戸跡からも多数の出土が確認された。年代の検討はこれからだが、瓦は丸瓦・平瓦に縄目のつく例があり、また瓦当の巴文の特徴から、鎌倉期のなかでも古手に属するものとみられる。板碑の残欠も2点出土した。これらは14世紀以降の例と考えられ、長期に及ぶ土地利用の推移について復原することが今後の課題である。



1. 調査地点の位置 (34 箱崎 2639 S = 8,000)



2. 発掘区全景 (東から)

2016 山王遺跡 16次 (SNN-16)

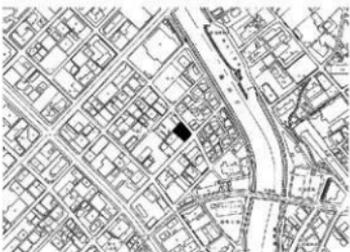
所在地	博多区山王2丁目32-1
調査原因	共同住宅建設
調査期間	2020.7.27 ~ 2020.10.14
調査面積	214㎡
担当者	今井隆博
処置	記録保存

調査の概要

山王遺跡は御笠川の西岸にあり、弥生時代から古墳時代の大集落である比恵遺跡群の東側に隣接している。今回の調査地点は山王遺跡の南端付近にあたり、周辺では弥生時代から中世の集落が確認されている。地表から約70cmで遺構検出面であるローム面となる。ローム面の標高は約5.8mで、南から北に向かって低くなっている。

検出した遺構は弥生時代から中世の竪穴建物・溝・土坑・井戸・ピットである。調査区内は以前の建物によって大きく破壊されている。竪穴建物の遺存状況は悪く、いずれもコーナーや壁溝など部分的にしか残っていない。弥生時代の土坑・井戸、古墳後期頃の溝、中世の井戸等を検出した。

弥生時代後期の井戸の底からは小型仿製鏡 (内行花文鏡) が出土した。井戸の祭祀に伴うものと思われる。



1. 調査地点の位置 (37 東光寺 2379 S = 8,000)



2. 調査区北半全景 (西から)

2017 博多遺跡群 242 次 (HKT-242)

所在地	博多区冷泉町 414 番
調査原因	ホテル建設
調査期間	2020.7.1 ~ 2020.8.31
調査面積	116㎡
担当者	神啓崇
処置	現状保存

調査の概要

博多遺跡群は、玄界灘に面する博多湾岸の砂丘上にあり、弥生時代から近世まで連続と続く複合遺跡である。とくに中世が濃密である。土師器や陶磁器が多く出土するが、中国をはじめとする外国との貿易で入手した陶磁器は日本国内でも屈指の出土量を誇る。

本調査地点は博多浜中央西寄りに位置する。3面（一部2面）の調査を実施し、奈良時代から中世前半を主とする井戸、土坑、柱穴を検出した。そのほか、古墳時代前期の土坑を検出し、古墳時代集落の広がりを確認できた。

出土した陶磁器や土師器はコンテナケース 35 箱分。陶磁器では、中世博多で活躍した中国商人を示す「綱」を墨書した磁器碗が目される。また、古墳時代前期（3世紀～4世紀）の土坑からは壺が出ており、古墳時代集落の広がりを考えるうえで重要な成果を得た。



1. 調査地点の位置 (49 天神 0121 S = 8,000)



2. 1区砂丘面全景 (南東から)

2018 博多遺跡群 243 次 (HKT-243)

所在地	博多区店屋町 27-1、27-2
調査原因	ホテル建設
調査期間	2020.7.13 ~ 2020.12.11
調査面積	336.31㎡
担当者	木下博文
処置	記録保存

調査の概要

博多遺跡群は、博多湾岸に沿った3列の砂丘上に立地する複合遺跡である。今回の調査地点は呉服町交差点の南東に位置し、中世に敷設された博多の基幹街路の推定線上に当たる。

計3面の調査を行い、東西に分けた調査区のうち、東半の1区では第2面、標高3.1～3.3mで幅4.7～5.2mを測る中世の道路面を検出した。道路の側溝は第3面、標高2.5～2.8mの砂丘面で確認された。砂丘面では平安時代末期を中心とする土坑・井戸・ピットが多数検出された。全体で120箱分の遺物が出土した。中国産陶磁器のほか、イルカ・猫などの多数の動物骨、近世の蘭形分銅、博多出土銅銭では希少な正隆元宝（金 1158年初鑄）や、古代官人のベルトに使用された石製装飾など特筆すべき遺物が出土している。



1. 調査地点の位置 (49 天神 0121 S = 8,000)



2. 1区2面全景道路検出状況 (北東から)

2019 弥永原遺跡 18次 (YNB-18)

所在地	南区臼佐3丁目42-1
調査原因	学生寮建設
調査期間	2020.8.24～2020.10.29
調査面積	272㎡
担当者	久住 猛雄
処置	記録保存

調査の概要

弥永原遺跡は、福岡平野の南側に位置し、平野を北流する那珂川と御笠川に挟まれた洪積段丘上に立地する。

調査地の標高は、現状では25.6～25.8m前後であるが、遺構の遺存状況などを見ると本来は西側が高かったものが削平されているとみられる。遺構は、主に調査区の東半分で認められた。多くは中小のピット群であり、柱穴が含まれ、図上で20棟前後の掘立柱建物を復元できた。その他、土坑が7基ある。土坑の中には、木棺墓が1基、足元掘込土壇墓の可能性のあるものが2基、土壇墓の可能性のあるものが1基、焼土坑とみられるものが1基あった。いずれの遺構も出土遺物が無いか僅少で、多くの遺構の時期が不明確である。遺物は、コンテナケース1箱のみで、弥生土器（中期～後期）、須恵器、中世土器の破片がある。木棺墓と見られるSK002からは赤色顔料（ベンガラ）粒子を検出した。



1. 調査地点の位置 (26 上臼佐 0105 S=8,000)



2. 調査区東端遺構検出状況（北から）

2020 福岡城跡 82次 (FUE-82)

所在地	中央区城内
調査原因	史跡整備
調査期間	2020.5.25～2021.8.31
調査面積	98.2㎡
担当者	大塚紀宣 史跡整備活用課
処置	現状保存

調査の概要

今回の調査は潮見櫓の復元整備に向けた石垣整備に伴う発掘調査で、石垣の現状確認のため実施した。潮見櫓は福岡城の北西隅に位置する櫓で、明治時代末に櫓建物が崇福寺に払い下げられた後、石垣は完全に埋没していた。

石垣は北面、西面の2面が築かれており、調査の結果、北面で全長14m、西面で全長16.3mを確認した。築石は野面積みで、北面、西面とも4～5段以上の築石を確認した。築石の大きさは40～60cm大のものが多く、城内の他の石垣よりも小型の石材が使用されている。築石の石材は近隣で採取可能な礫岩が主に使用されていた。

出土遺物はコンテナケース15箱で、大半が櫓建物の瓦破片である。調査後、石垣は整備され、石垣築造時の形状に復元している。



1. 調査地点の位置 (60 舞鶴 0193 S=1/8,000)



2. 潮見櫓石垣出土状況（北西から）

2021 那珂遺跡群第183次調査 (NAK-183)

所在地	博多区那珂1丁目392番2
調査原因	共同住宅建設に伴う駐車場造成
調査期間	2020.07.13 ~ 2020.08.04
調査面積	41.32㎡
担当者	久住猛雄
処置	記録保存

調査の概要

調査の概要

1. 位置と環境

那珂遺跡群は、福岡平野の中央やや北部、那珂川と御笠川に挟まれた中段段丘上に立地する。183次調査地点は遺跡が立地する段丘の中央部付近で、現在の標高は西側道路面が8.1m前後、東側が8.8m（調査区北東側）～8.55m（調査区南東側）前後であるが、竪穴住居痕跡の遺存状況などを考慮すると、弥生時代には1m近く高かった可能性がある。なお調査対象地は、西側にある南北の小路に向かって低くなる斜面地であるが、本来の地形を反映しているものかは不明である。周囲の宅地の現況を観察すると、本来の段丘地形の起伏はかなり失われている可能性がある。また調査地点の西方160mには那珂八幡古墳が立地している (Fig.1)。調査地周囲は遺跡範囲中央部であるが、周囲直近での調査事例が少ない場所である。

2. 調査の概要

調査は、調査対象地の敷地のうち、西側の道路面に合わせて駐車場造成の切り下げ行方範囲について実施した (Fig.2)。東側の共同住宅建設部分については基礎工事が遺構面に及ばないとみて慎重工事に対応している。調査区の座標は任意座標である。国土座標については、付近に互いを見通せる二つの基準杭 (釘) が見当たらなかったため座標を入れられず、調査区の位置は敷地周囲を測量して福岡市の都市計画図に入れ込んでいる。また標高は、以前に埋蔵文化財課が那珂遺跡群内に設置した基準杭から移動して用いた。

遺構は表土直下のG L-10～30cmで鳥朽ローム地山上面となり、そこで検出している。なお遺構検出面の標高は、調査区北東で8.44m、東辺中央で8.29m、南東で8.16m、北辺中央で8.39m、中央部で8.22m、南辺中央で8.20m、南西で7.87mである (西縁は近代以降の攪乱の落ち込みがありさらに下がる)。検出遺構は、①黒褐色土～極暗褐色土、②極暗褐色土～暗褐色土、③褐色土のものがある。周辺の調査や出土物からみて、①は弥生時代～古墳時代、②は飛鳥時代～奈良時代、③は中世のものと考えられるが、後世遺構に①や②の覆土が二次的に堆積する場合もあるので注意を要する。現に、SK001は遺物から中世遺構と判明したが、当初は土色から飛鳥～奈良時代の井戸遺構ではないかと考え掘削し始めていた。



1. 調査地点の位置 (37 東光寺 0085 S=8000)



Fig.2 那珂183次調査地点の位置と周辺街区図 (S=1/500)

3. 検出遺構

検出した遺構は、大型土坑（ないし溝状遺構の一部の可能性）1基（掘り返しがある）、ピット（柱穴はか）30前後、竪穴住居跡の壁周溝痕跡とみられる溝状遺構1条、掘立柱建物の可能性があるもの2棟である（Fig.3）。全体的な削平と多くの近代以降の擾乱により遺構の遺存状況はあまり良好ではない。

SK001は調査区中央東側で検出した大型土坑である（Fig.4）。東側は調査区端の先に延びる。検出できた平面形は、略楕円形状で、東西3.2m以上、東西2.4m、検出面からの深さは65cmである。南北の横断面形は逆台形状だが、西側と北側法面上半は傾斜がやや緩い。土層や覆土の特徴はPh.3と表1に記した。掘削途中の面で、遺構東側に径1.1m弱の略円形の遺構（SK001-a）を

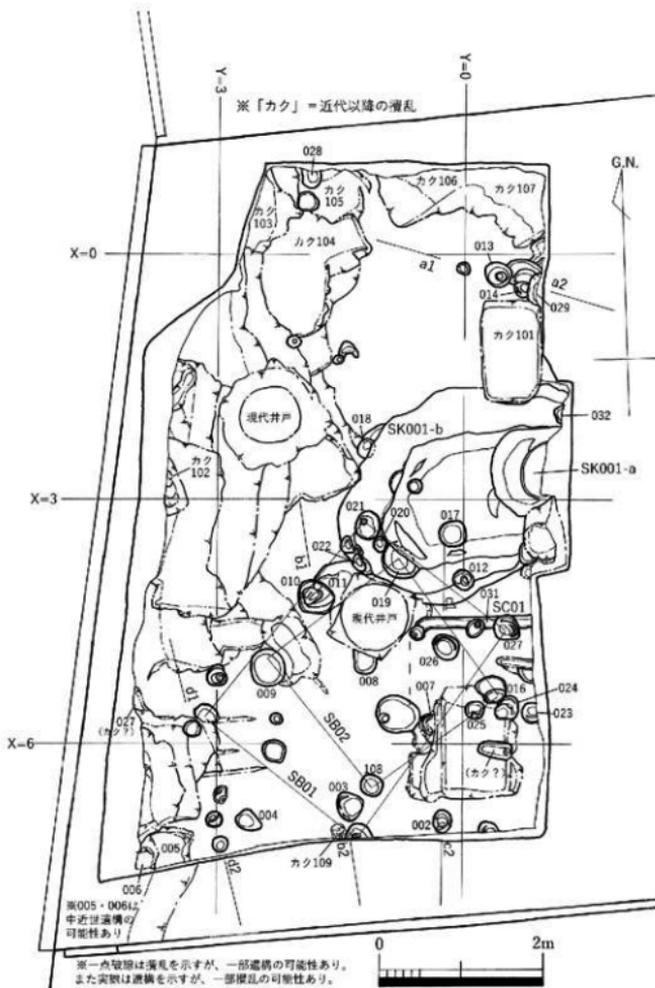


Fig.3 那珂183次調査全体図 (S-1/60)

検出した（Ph.4）。上面では検出できなかったが、掘り返し（再掘削）の痕跡と思われる。再掘削前の掘方下層をSK001-bとした（Ph.5）。当初は「井戸」の可能性を考え掘削し始めたが深くならず「土坑」としたが、横断面形が左右非対称な逆台形であること（区画溝などにこのような場合が多い）、掘り返しがあること、遺構がさらに東側に続くことなどから、「溝状遺構」とした方がいいかもしれない。遺物は、全体的に散漫に出土したが、下層床面近くいくつかのまとまりがあった。このうち底面南東側の一群（Ph.6）はSK001-bに伴うもので問題なく、また漆製品の痕跡などもあったが、底面南西側の一群は、位置的に見て、覆土途中で検出したSPO17の下部掘り残してあった可能性が残る（Fig.3）。出土遺物（Fig.8）には、古墳時代後期、飛鳥～奈良時代の遺物も少なくないが、中世の糸切底の土師器環・小皿や土師器鍋・捏鉢片なども含み、13～14世紀前後の遺構であろうと考えられる。

調査区南西側で検出した SC001 は、その北辺を画すであろう SD031 (Ph.7) を竪穴住居跡の壁溝溝と推定したものである (Fig.5)。ただし SD031 が南に屈曲する西側の延長の西辺壁溝溝は検出できなかった。削平されたか。遺構の規模は、東西 1.5m 以上、南北 2.7 m 以上で、東側と南側に遺構は延びると思われる。方位はほぼ正方位をなす。中央に攪乱があり分りにくいが、貼床土は削平されているものの、攪乱の東辺で緩い段差があり、あるいは北側にベッド状遺構などがあったものの痕跡である可能性がある。主柱穴は不明確だが、SP023, SP024, SP025 のいずれかが候補になるが、比較的深い SP025 の可能性が最も高い。SD031 や上記 3 柱穴の覆土は暗褐色であり、飛鳥～奈良時代の可能性があるが、遺物がほとんど無く厳密には不明である。

SB01 と SB02 は調査区南半で検出したいずれも 1×1 間の掘立柱建物 (Fig.6)。ただし調査中は気づかず、図上復元である。SB01 は 1.95m × 2.0m、方位は N-36.5°-W である (北は都市計画図上での方位北)。柱穴のうち、SP009, SP016, SP019 は極暗褐色土覆土であったが、SP108 は調査時は暗褐色土+ロームブロックでしまりがやや甘く、攪乱の疑いありとしていたが、位置関係と SB02 と SB01 が方位は少し違うがおそらく連続的に重複した建物だろうと考えたことから、SP108 を生かした。SK001 に切られ、SC001 と重複関係にあるが前後不明である。ただし SP024 が SC001 に伴うとすると、SP016 が SP024 を切るると判断したので、SC001 を切る可能性がある。一方、極暗褐色土覆土が多いことから、古墳時代前後の可能性もある。SB02 は、2.15 ~ 2.35m × 3.05m、方位は N-40°-E である。柱穴のうち、SP027 は暗褐色土、SP021 は褐色土、西側柱穴は暗褐色土+ロームブロック、南側柱穴は褐色土の覆土である。このうち南側柱穴から近世の瓦質土器小片が出土しているが、上層 (上面) 出土であり、混入の可能性が高い。SP021 が SK001 に切られることからすると中世以前であるが、SP027 が SD031 (SC001) を切るので、SC001 の時期は不明確だが、それ以降となり、確率的には SB02 は古代前後の蓋然性が高い。しかしながらいずれの柱穴も遺物がほとんど無いので時期限定は難しい。

調査区南西端斜面で検出した SD005, SD006 は、SD005 が同一溝の上層で褐色覆土、SD005 が同一溝の下層



Ph.1 那珂遺跡群第 183 次調査状況全景 (南から)



Ph.2 那珂遺跡群第 183 次調査状況全景 (東から)



Ph.3 SK001 東側調査区壁面土層状況 (西から) ※土層番号あり (注記次項)

表1 SK001 調査区東壁面土層 (Ph.3) 注記

0-1 赤土、黄土、交代円筒瓦	ムブツク 2% + 黄土砂子 + 土層片少, しまりあり	2% + 黄土砂少量, しまりあり	色土 7%、しまりややあり〜あり
2 一定厚積層上段(約1層)の互層小があり、褐色土 + 暗褐色土、黄土 + ロームブロック少, しまりやや多い	9 10% 層 (〜短期) 色土 + 緑褐色〜黒褐色土ブロック 40% + ロームブロック 2% + 八友粘土ブロック	10% 褐色土 25% + 暗褐色土 3% + ロームブロック 1% + 黄土砂少量, しまりあり	22 黄〜暗褐色やや粘質土 + ロームブロック + 砂子 2%, しまりややあり
3 褐色土 + 暗褐色土 3% + 緑褐色土 2% + ロームブロック少 + 土層片少, しまりやや多い、気泡形状	10 暗褐色土 + 黄土砂 2% + 八友粘土ブロック 2% + 黄土砂	15 暗褐色土やや粘質土 + ロームブロック + 砂子少 + 八友粘土ブロック少 + 土層片少, しまりあり	23 褐色土 20% + 暗褐色土 3% + ロームブロック 2%, しまりややあり
4 暗褐色土、しまりややあり、ピント	11 褐色土 + 暗褐色土 20% + ロームブロック 2% + 黄土砂	16 褐色土 + 暗褐色土 30% + ロームブロック + 砂子 30%, しまりあり	24 暗褐色土やや粘質土 + 褐色土 20% + ロームブロック + 砂子 2%, しまりやや多い
5 暗褐色土 + 褐色土 20% + 緑褐色土 2% + ロームブロック 2% + 黄土砂 + 土層片少, しまりややあり	12 暗褐色土 + 褐色土 20% + ロームブロック + 砂子 15 層 (3000a)	17 暗褐色土 + 褐色土 20% + 砂少量, しまりややあり	ロームA、緑褐色〜暗褐色粘質土、上部明しく下部暗い
6 褐色土 20% + 暗褐色土 40% + 緑褐色土 20% + ローム砂子 + 黄土砂、しまりやや多い	13 暗褐色土 + 褐色土 20% + ロームブロック 2% + 黄土砂	18 褐色土 + 暗褐色土 20% + 黄土砂 + 土層片少, しまりあり	ロームB、黄褐色に白い〜褐色土白〜白〜褐色の粘質土、八友粘土への層、薄層、全体に暗い、黄色やくさい
7 10% 褐色土 20% + 暗褐色土 30% + 緑褐色土 2% + ロームブロック 2%, しまりあり	14 暗褐色土 + 褐色土 20% + ロームブロック 2% + 黄土砂	19 暗褐色土 + 褐色土 20% + 砂少量, しまりあり	
8 10% 褐色土 + 暗褐色土 30% + 緑褐色土 2% + ローム	15 暗褐色土 20% + 褐色土 30% + ロームブロック 17% + 八友粘土ブロック 2%, しまりややあり	20 暗褐色粘質土 + ローム砂子少, しまりやや多い	
	16 褐色土 + 暗褐色土 20% + ロームブロック + 砂子	21 暗褐色土やや粘土 + ロームブロック 7% + 緑褐色	

で暗褐色覆土とみられるが、遺物が無く時期不明である。覆土の特徴からは古代から中世の溝の可能性はある。

その他、調査区北東 (Fig.3) のピット (柱穴) SP013, SP014, SP029 は極暗褐色土覆土 (SP029 は極暗褐色土〜暗褐色土) で、弥生時代〜古墳時代の可能性がある (断面図は Fig.7 a1-a2)。調査区中央から南側の SP010, SP003 は特徴的に対になるかと考えた柱穴だが、SP010 は暗褐色土、SP003 は極暗褐色土覆土である (断面図は Fig.7 b1-b2)。SK001 の範囲の北西にある SP026 は深いしっかりした柱穴で (断面図は Fig.7 c1-c2)、暗褐色土覆土。また調査区南西部に小ピットだが対になると考えた深さの近い2柱穴があり (断面図は Fig.7 d1-d2)、北ピットは暗褐色土、南ピットは褐色土覆土である。

また攪乱であるが、調査区北東部、SK001 北側のカクラン 101 からは、弥生時代

終末期の大型甕形土器片が出土し (Fig.8-23,24)、内面赤彩があり、甕棺墓であった可能性が高く、カクラン 101 の覆土にも黒褐色〜極暗褐色土が混入しているので、この攪乱の位置に甕棺 (小児甕棺) が本来あった可能性がある。

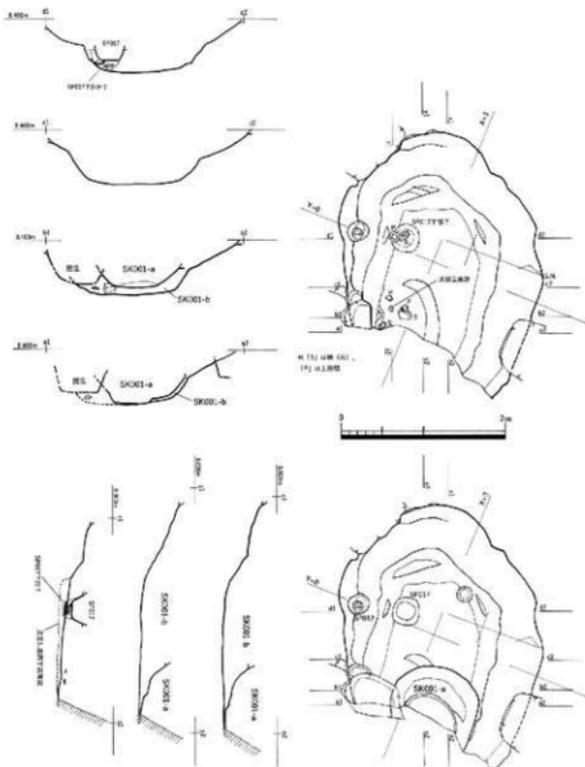


Fig.4 SK001a・b実測図 (S=1/60)

4. 出土遺物

本調査では、総量にしてパンケース3箱ほどの遺物が出土した。出土遺物には、弥生土器、古墳時代～中世の土師器、須恵器、中世の輸入陶磁器、近世の瓦質土器、各時代の石器・石製品がある。図化可能なものに関しては実測して掲載した (Fig.8)。1～19,24,25はSX001出土 (出土層位などはFig.8参照)。1,3,8,7,11,12,18は奈良時代、4,7,13は古墳時代後期末 (ⅢB期)、19は飛鳥時代前期 (Ⅳ期)、2,15は弥生時代中期、5,6,9,10,12,14,16,17は中世前期後半 (13～14世紀前半)で、中世遺物が遺構の年代となる。24は敲打痕などから台石としたが鍛冶具の鉄床石の可能性があ

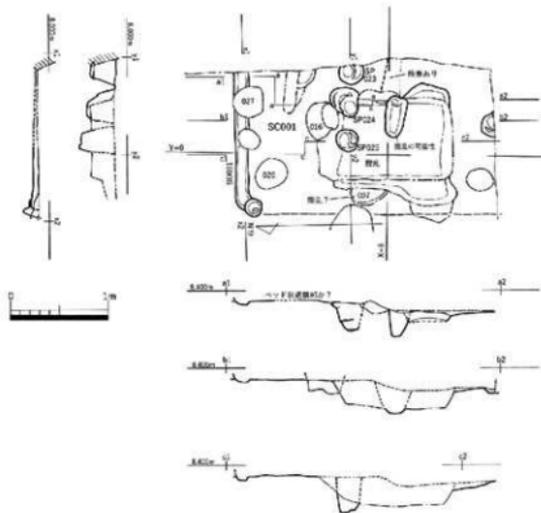


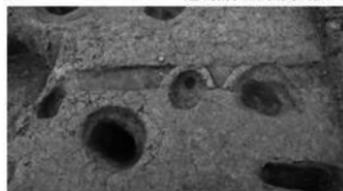
Fig.5 SC001実測図 (S=1/50)



Ph.4 SK001a 掘削状況 (東から)

Ph.6 SK001b 南東下層漆器痕跡など
遺物群出土状況(北から)

Ph.5 SK001b 下層遺物出土状況 (ほぼ完掘、西から)



Ph.7 SC001 北側壁溝掘削状況 (南から)

る。25はおそらく弥生時代前中期。20は奈良時代。21は14世紀前後か。22は頸部に突帯があったものが剥離したらしい(23の口縁部)。弥生時代終末期。23の内面は赤彩痕跡が残るが、埋蔵文化財センターでの分析の結果、酸化鉄 (ベンガラ) の可能性が高いとの結果が出た。遺構の項で述べたように小児塚棺墓であった可能性が高い。以上のように那珂183次調査では、限られた調査範囲であったが、弥生時代中期・終末期、古墳時代後期、飛鳥～奈良時代、中世 (13～14世紀) の遺構と遺物を検出した。調査事例が少ない地区での貴重な調査成果となった。

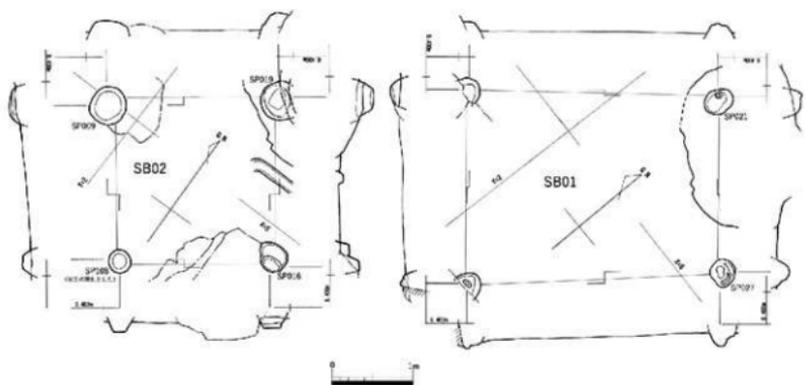


Fig.6 SB01・SB02 実測図 (S=1/60)

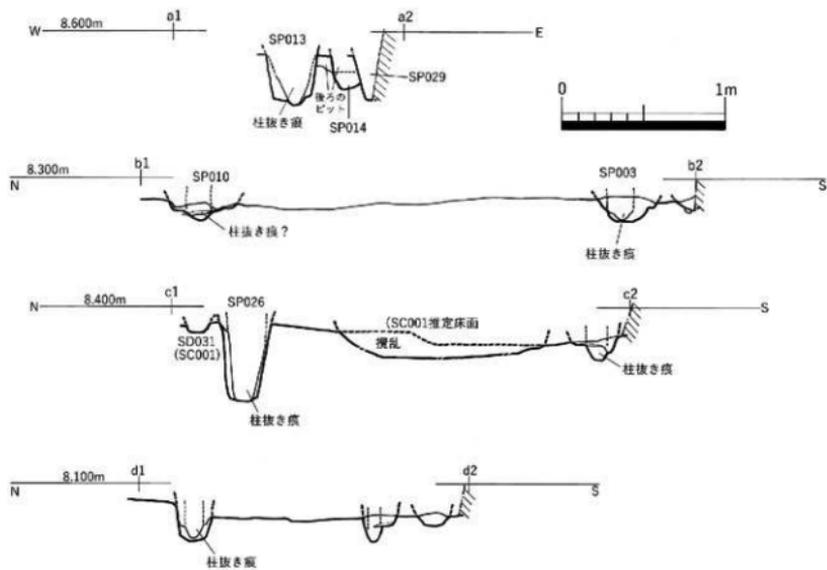


Fig.7 遺構断面図 (S=1/30) ※断面位置A1 - A2 ~ D1 - D2はFig.3参照

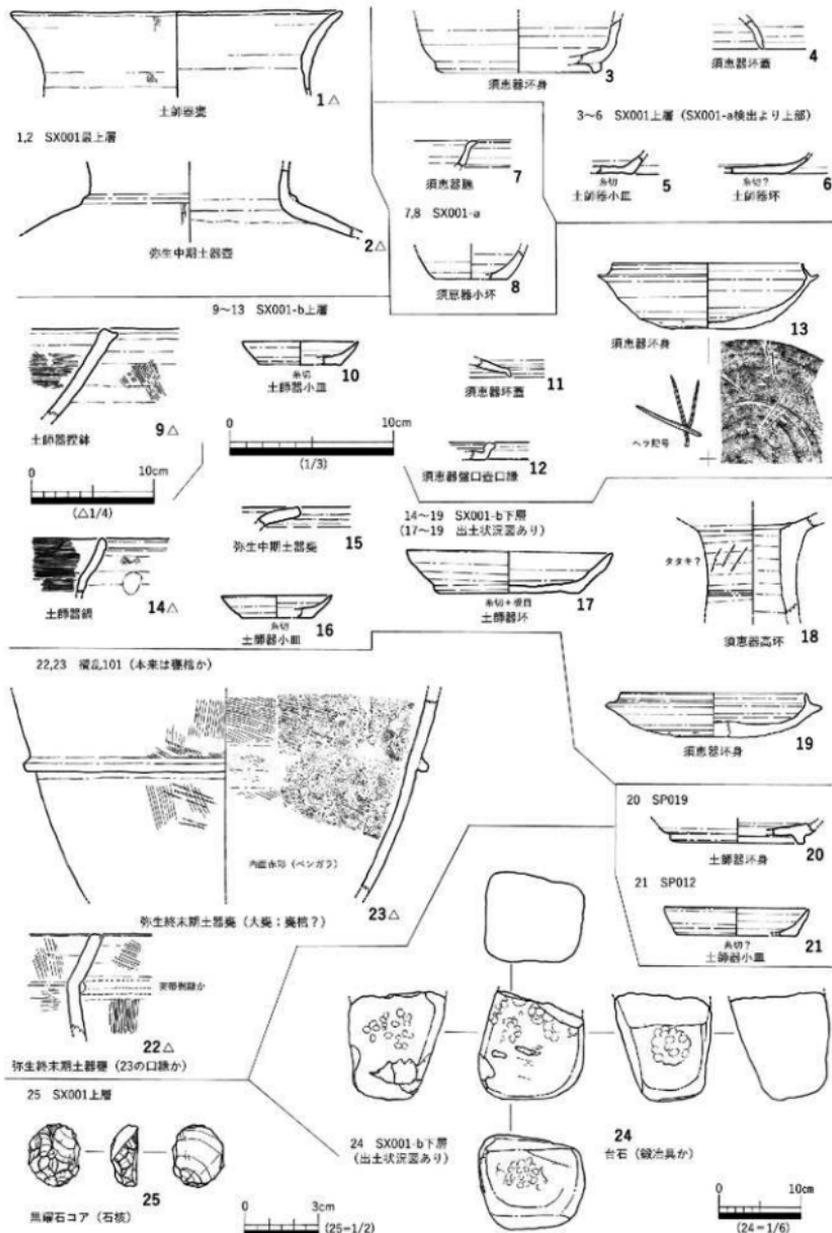


Fig.8 那珂 183 次出土遺物実測図 (S=1/3、△は S=1/4、24 は S=1/6、25 は S=1/2)

2022 麦野B遺跡群7次 (MGB-7)

所在地	博多区三ツ丁2丁目11番2外
調査原因	保育所建設
調査期間	2020.7.20～2020.9.3
調査面積	981.39㎡
担当者	三浦萌
処置	記録保存

調査の概要

1. 調査に至る経緯

令和2年6月3日付けで、当当地における埋蔵文化財の有無についての照会文書が提出された(事前審査番号2020-2-167・175)。申請地が周知の埋蔵文化財包蔵地である麦野B遺跡に含まれていることから、令和2年6月23日に申請地で確認調査を実施した。その結果、現地表下30cmの橙色ローム上に遺構が検出された。協議の結果、工事によって埋蔵文化財への影響が避けられないことから、建造物が建築される範囲において発掘調査を行うことで合意した。

発掘調査は令和2年7月20日から開始し、令和2年9月3日までに終了している。

2. 調査の概要

麦野B遺跡は福岡平野を流れる御笠川と那珂川にはさまれた中位段丘上に位置している。周辺は開析谷が入り込む複雑な地形をなしており、開析によって北にむかって三つに段丘がわかれている。

本調査地は麦野B遺跡の末端部にあたる。北に向かって緩やかに傾斜する南西では第6次調査が行われており、縄文時代以降の落と穴状の遺構が2基発見されている。本調査における調査区は道路を挟んでⅠ区とⅡ区にわかれている。Ⅰ区Ⅱ区ともに遺構検出面の上には黒色土(黒ボク土)が約20～30cmほど堆積している。Ⅰ区はゆるやかに傾斜しており、一番高い場所ではほぼ表土直下で遺構面が検出された。調査前は木が生い茂っていたとのことから、その伐根のためか攪乱が多い。土坑が4基発見されている。Ⅱ区は道路を挟んで東側に位置している。ピットが多数発見された。

3. 遺構と遺物(図5～11)

Ⅰ区で土坑を4基発見した。遺物の出土は極めて少なく、またいずれも小片であるため図示できるものは少ない。いずれも埋土はしまりが弱く、植物根を多く含んでいた。SK-002、003は調査区内では標高が高く比較的平坦な面で発見されたことに対し、SK-001、004は斜面上で発見されている。いずれからも遺物は出土していない。なおSK-001、002、004は底面を一部掘りすぎている。

SK-001(図6・10)

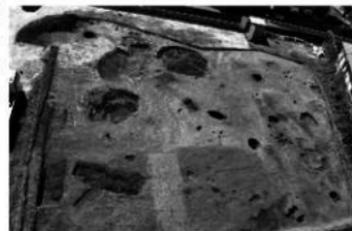
Ⅰ区北西部で発見された長軸1.12m、短軸1m、深さ86cmの土坑である。SK-002、003と比べ標高が低い位置で発見された。

SK-002(図7・10)

Ⅰ区南部で発見された長軸1.2m、短軸1.08m、深さ1.25mの土坑である。底面に径18cm、深さ20cmのピッ



1. 調査地点の位置(25井尻 0049 S=8,000)



2. Ⅰ区全景(北から)



3. Ⅱ区全景(西から)

トがみられる。標高 15 m 以下の埋土には地山ブロックが含まれている。

SK-003 (図8・10)

I区南東部で発見された長軸 1.5 m、短軸 1.14 m、深さ 1.06 m の土坑である。標高 15 m 以下の埋土には地山ブロックが含まれている。

SK-004 (図9・10・11)

I区北西部で発見された長軸 1.7 m、短軸 0.8 m、深さ 0.92 m の楕円形をした土坑である。SK-002、003 と比べ標高が低い位置で発見された。底面に径 12 cm、深さ 10 cm のビットが見られる。

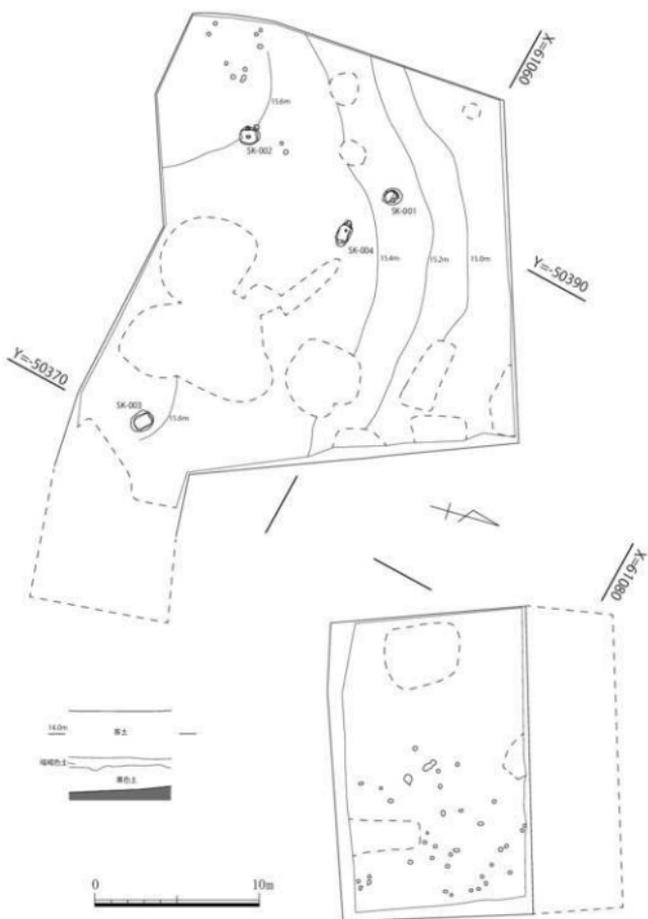
IはII区清掃中に発見した須恵器の坏身である。復元高台径 9.4 cm、残存高 1.5 cm。内外面ともにナデ調整が施されており、内面の一部に回転ヨコナデが残っている。

4. まとめ

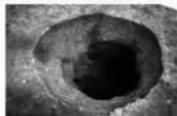
今回の調査で発見された遺構は土坑が 4 基とビットが複数である。遺物が少なく時期を判断することは難しいが、確認できた遺構の特徴から南部で行われた 6 次調査で発見された土坑 2 基と同時期のものではないかと考えられる。また第 3 次調査では落とし穴状遺構が 4 基みつっており(市報 568)、6 次調査でも 2 基確認されている(年報 Vol.32 p.31-34)。SK-002 と SK-003 はその形態や長軸がおおよそ傾斜方向に向いていることから、これらと同様落とし穴である可能性も考えられる。



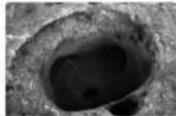
4. 調査区位置図 (1/1000)



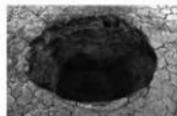
5. 調査区全体図 (1/300)、1区北壁土層柱状図



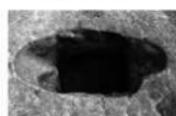
6. SK-001 (西から)



7. SK-002 (西から)



8. SK-003 (東から)

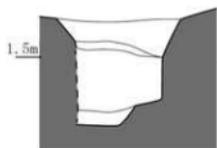
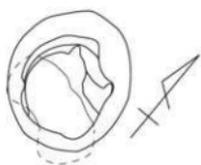


9. SK-004 (北から)

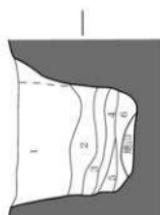
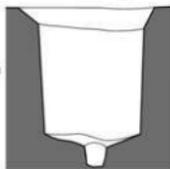
SK-001



1 黒褐色土
2 黒褐色土
3 黒褐色土
黒色ゾロツクを多く含む

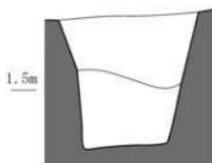


SK-002



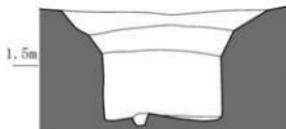
1 黒色土 黒色ゾロツクを多く含む
2 黒褐色土 黒色ゾロツクを多く含む
3 黒褐色土 黒色ゾロツクを多く含む
4 黒褐色土 黒色ゾロツクを多く含む
5 黒褐色土 黒色ゾロツクを多く含む
6 黒褐色土 黒色ゾロツクを多く含む

SK-003

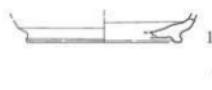


1 黒色土 少量の黒を含む
2 黒褐色土 少量の黒を含む
3 黒褐色土 黒色ゾロツクを含む
4 黒褐色土 黒色ゾロツクを含む
5 黒褐色土 黒色ゾロツクを含む

SK-004



10. I区検出遺構実測図 (1/40)



11. II区出土遺物 (1/3)

2023 箱崎遺跡 113次 (HKZ-113)

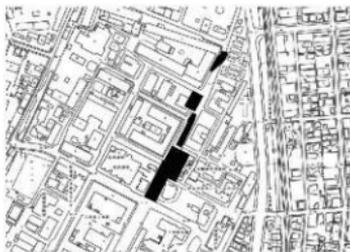
所在地	東区箱崎6丁目10-1
調査原因	都市計画道路建設
調査期間	2020.7.16～2021.2.28
調査面積	6,220㎡
担当者	阿部泰之・今井隆博
処置	記録保存

調査の概要

箱崎遺跡は、西に博多湾を臨み、東を宇美川に限られる砂嘴状の砂丘上に位置する。今回の調査地は遺跡の北端、九州大学旧箱崎キャンパス跡地内である。遺構面は、地点により起伏があるものの、標高2m前後の黄色砂丘砂である。

検出した遺構は、柱穴・土坑・溝・井戸・墓・池状遺構である。井戸は瓦組みで、幕末～近代のものと思われる。墓は12世紀後半頃の木棺墓で、土師皿・龍泉窯青磁碗・白磁皿・湖州鏡・刀子が副葬されていた。擾乱坑からも湖州鏡やほぼ定形の青磁碗が出土しており、付近には同時期の墓の存在が想定される。池状遺構は中世後半～近世のものと思われ、落ち際には多量の礫が散乱していた。礫のなかには板碑が混じっており、板碑を転用して組み合わせた箇所もある。

今回の調査では平安時代～江戸時代の集落・墓を検出した。遺跡北端部の様相を把握することができた。



1. 調査地点の位置 (33 貝塚 2639 S=8,000)



2. 池状遺構 (東から)

2024 箱崎遺跡 110次 (HKZ-110)

所在地	東区馬出1丁目363-1、2、3
調査原因	共同住宅建設
調査期間	2020.8.11～2020.9.17
調査面積	99㎡
担当者	荒牧宏行
処置	記録保存

調査の概要

箱崎遺跡の南西端に位置する。地山の明黄褐色砂は3.8～3.6mを測り、西側へ下降する。調査区西端付近では明黄褐色砂の包含層が堆積し、その下層である地山の明黄白色砂は標高3.2mまで急下降する。

検出された遺構は柱穴を主に木棺墓3基である。柱穴を含め、地形が落ちていく西側では遺構密度が疎となっている。木棺墓の1基からは土師器碗、鉄刀、刀子が出土した。全体からの出土遺物中には古代～中世瓦片が比較的多く含まれ、周辺の調査と合わせ、寺院が近辺に建立されていたとみられる。

出土遺物の時期は古墳時代初頭、古代～中世前半期がみられ、12世紀中頃が比較的多い。



1. 調査地点の位置 (35 吉塚 2639 S=8,000)



2. 調査区南半部 (西から)

2025 箱崎遺跡 111 次 (HKZ-111)

所在地	東区箱崎 6 丁目 10-1 (五十周年記念講堂南)
調査原因	学術研究 (記録保存・HKZ2004)
調査期間	2020.8.24 ~ 2020.10.8
調査面積	400㎡
担当者	九州大学埋蔵文化財調査室
処置	記録保存

調査の概要

本調査地点は、九州大学箱崎キャンパスの南部、五十周年記念講堂の南側道路部分にあたる。元寇防塁推定ライン上に位置しており、当該地における元寇防塁とその関連遺構・遺物の把握を目的として調査を行った。

検出遺構は溝 2 条、土坑 2 基、ピット 3 基。近現代の攪乱層から中世の陶磁器・土器などが一定数出土することから、近現代の整備の際に遺跡が壊されてしまった可能性が高い。元寇防塁の石積み遺構は確認できなかったものの、近現代の攪乱層の下部から、防塁に伴うと考えられる大溝を検出した。本調査地点の北側に位置する HZK1805 地点、また南側に位置する HZK1901 地点でも、同様の遺構が見つかっており、検出位置や掘り込みの形状、大溝内の埋土の状況など類似性から、本調査地点で検出した大溝も元寇防塁に伴うものである可能性が極めて高いと判断した。



1. 調査地点の位置 (34 箱崎 2639 S = 8,000)



2. 発掘区全景 (南西から)

2026 箱崎遺跡 112 次 (HKZ-112)

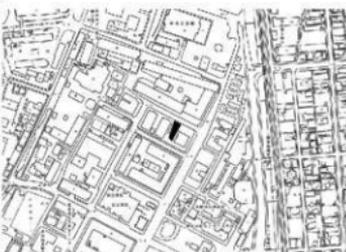
所在地	東区箱崎 6 丁目 10-1 (理学部二号館前南地点 4 次)
調査原因	学術研究 (記録保存・HKZ2005)
調査期間	2019.8.20 ~ 2019.9.25
調査面積	40.0㎡
担当者	今井隆博
処置	記録保存

調査の概要

今回実施した HZK2005 地点(理学部二号館前南地点 4 次)は、2018 年度に元寇防塁関係遺構が検出された HZK1802 地点および同 1805 地点の東隣に位置する。目的は、13 世紀末ないし 14 世紀前半代における防衛施設内部の様相を把握することである。

周辺建物の基礎の撤去が大がかりに行ったらしく、調査地の状態は決して良いものではなかった。調査地の 50% 以上で、攪乱が自然堆積層(縮状堆積)まで達している。

遺構は 7 基発見された。ほとんどが小ピットで、土坑と不明遺構がそれぞれ 1 基ずつある。出土遺物も少ない。隣接する HZK1805 地点の遺物の多さが、より際立つ結果となった。



1. 調査地点の位置 (33 貝塚 2639 S = 8,000)



2. 発掘区全景 (南西から)

2027 山王遺跡 17次 (SNS-17)

所在地 博多区山王2丁目18-14
 調査原因 戸建住宅
 調査期間 2020.9.14～2020.10.28
 調査面積 88㎡
 担当者 佐藤一郎
 処置 記録保存

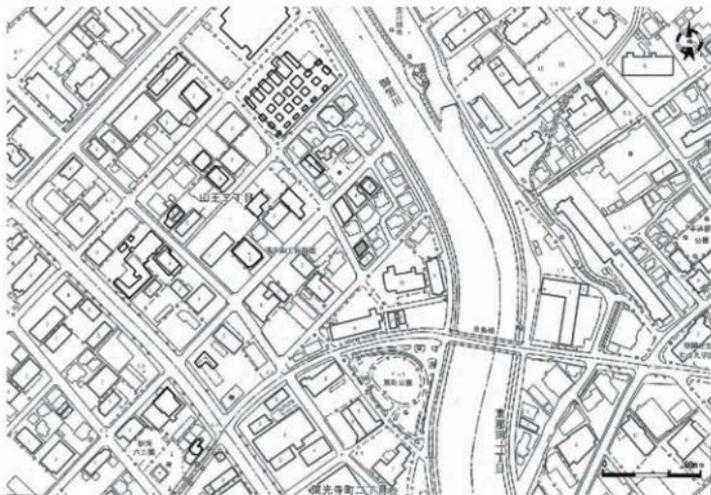


1. 調査地点の位置 (37 東光寺 2379 S=8,000)

調査の概要

1. 調査に至る経緯

2020 (令和2) 年1月22日と3月25日に、九州八重洲株式会社から本市に対して博多区山王2丁目18-14における戸建住宅2棟の建設に伴う埋蔵文化財の有無についての照会文書(2019-2-1085・1331)が申請された。申請地は周知の埋蔵文化財である山王遺跡の東南端に位置する。埋蔵文化財課は2019年12月5日に設計未定の段階で別申請を受け当該地の確認調査を行っており、現地表から100cm以下で遺構を確認している。申請面積165.10㎡の内、基礎杭打設による破壊が及ぶ98.56㎡を対象にやむを得ず記録保存のための発掘調査を行うこととなった。調査は同年9月14日から10月28日まで行われた。



2. 山王遺跡第17次調査地位置図 (S=1/4,000)

2. 位置と周辺状況

山王遺跡は福岡平野のほぼ中央を流れる御笠川下流域左岸に立地する。調査地は山王遺跡の東南端に位置する。現況は耕作地を盛土して造成した宅地で、遺構は耕作土直下、標高5m前後のローム上面で確認され、標高4.4m前後で八女粘土層に達する。

3. 遺構と遺物

調査対象区域は狭陰で遺構面まで厚く盛土されおり、3区分して行った。溝1、土坑15、柱穴・ピット状遺構60余を検出した。遺構からコンテナ12箱の土器が出土した。そのほとんどは弥生時代中期後半のものであが、土坑SK13から須恵器破片が出土した他、中世前半の遺物もわずかにみられた。



3. I区全景 (南西から)



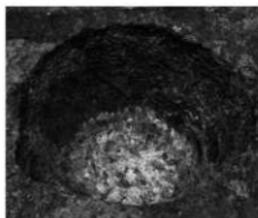
4. II区全景 (南西から)



5. III区全景 (南西から)



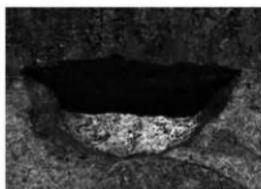
6. 山王遺跡第17次調査遺構配置図 (S=1/100)



7. SK10 (南から)



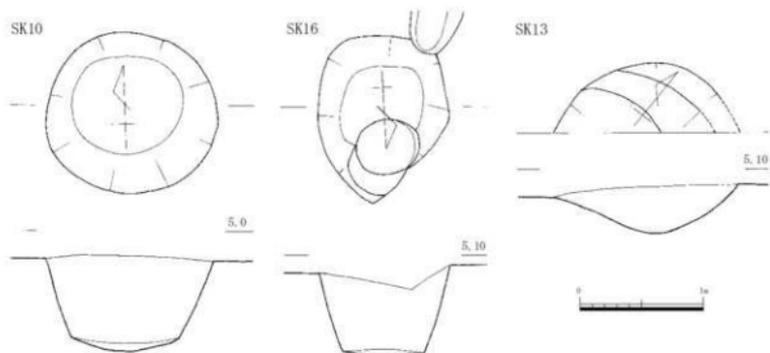
8. SK13 (北から)



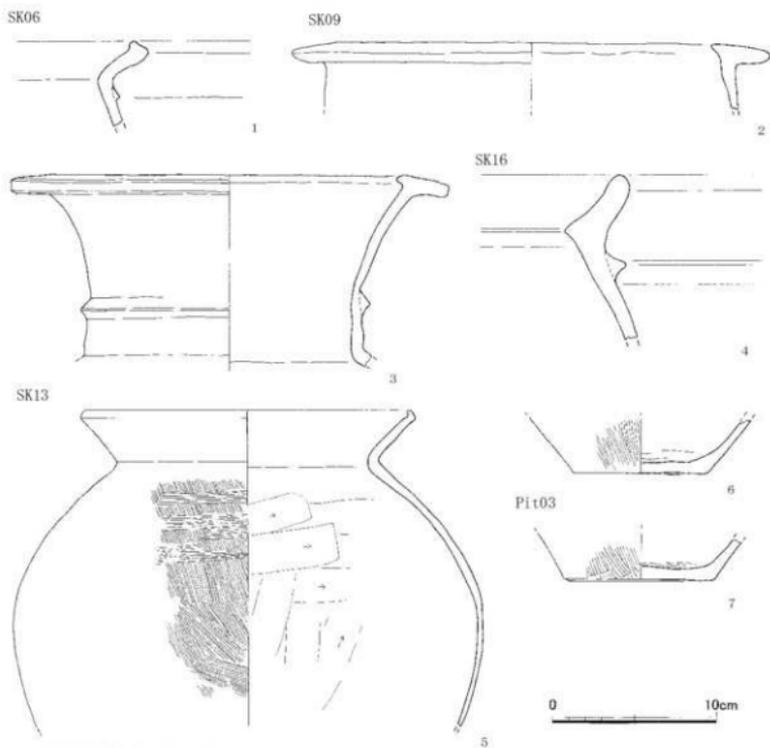
9. SK16 (北から)

検出遺構 土坑 SK10 調査区の東側で検出、円形を呈し、径 1.4m、深さ 0.8m を測る。SK13 南東端で検出、遺構の南東は調査区外に延びる。SK16 南で検出、一辺 1.2m の隅丸方形、深さ 0.8m を測る。

出土遺物 弥生土器 1 は端部が跳ね上がった甕の口縁部片で、屈曲部外面下に断面三角形の突帯が付く。2 は甕、3 は壺の鑷先状口縁部片で、3 の頸部外面には断面三角形の突帯がめぐる。4 は内湾する口縁部外面下に断面三角



10. 土坑実側図 (S=1/40)

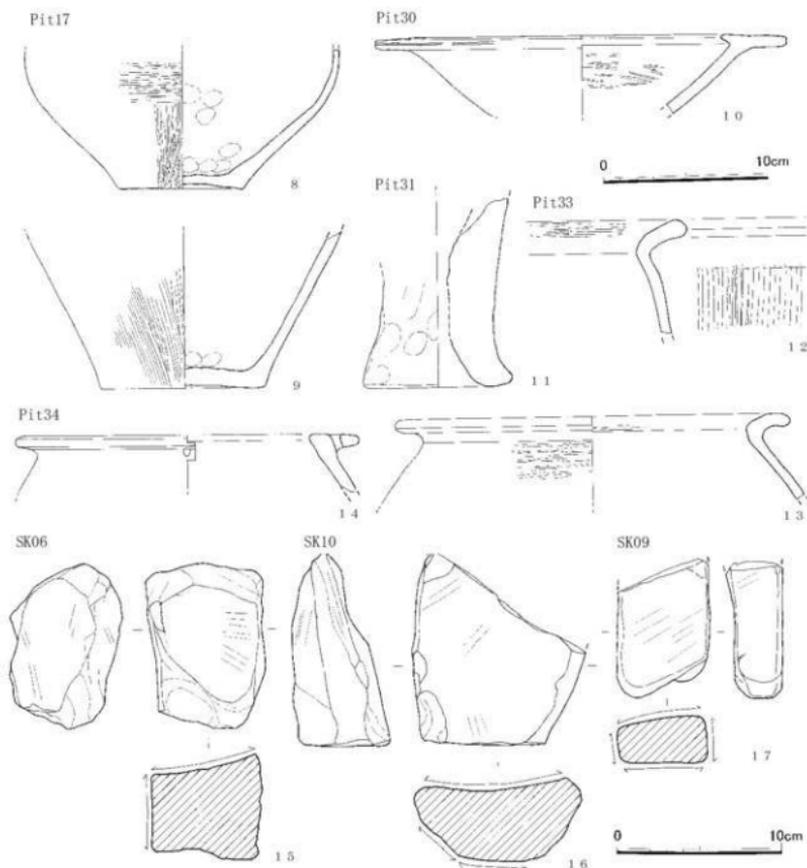


11. 出土遺物実測図 (S=1/3)

形の特帯が付く。6・7は底部片、8は壺の体部で、外面中位に横方向、下位には縦方向のヘラ磨きを施す。9は壺の体部下半、10は鋤先状口縁の高杯の杯部で内面にヘラ磨き痕が残る。11は器台、12は甕口縁部、13・14は甕口縁部片で、14には蓋を固定するために孔を穿つ。

土師器 5は甕、口縁部が直線的に外上方に開き、端部は内に突出している。口縁部は内外面とも横ナデ、体部外面上位は縦方向のハケ目の後、横方向のハケ目、中位以下は縦方向のハケ目、内面上位は横方向、中位以下は縦方向のヘラ削りを施す。

石製品 15～17は砥石で、2～4面を砥ぎ面とする。石材は15・16が砂岩、17は玄武岩である。



12. 出土遺物実測図 (S-1/3)

2028 久保園遺跡 5次 (KBZ-5)

所在地	博多区東平尾2丁目541-1
調査原因	個人住宅建設
調査期間	2020.9.23～2020.11.20
調査面積	343.12㎡
担当者	三浦萌
処置	記録保存

調査の概要

久保園遺跡は天王山の南西部の緩やかな斜面一帯に位置する弥生から中世にわたる遺跡である。1次調査では弥生時代中期後半ごろの掘立柱建物が2棟発見されている。今回の調査区は天王山の西側裾野に位置し、久保園遺跡の北端にあたる。

今回確認できた遺構は主に弥生時代中期の溝1条、弥生末～古墳初の方形（隅丸方形）周溝状遺構1基（1号方形周溝状遺構）である。他には中世の土坑、近世の溝などがある。1号方形周溝状遺構は約8m×8m（台地部約6m×6m）の規模である。当調査区の南西で行われた第1次調査で発見された掘立柱建物の時期よりも後出する。また住居址なども確認できていないことから当調査区は集落の端に位置しているものと考えられる。



1. 調査地点の位置 (22 上臼井 0083 S=8,000)



2. II区全景 (北から)

2029 麦野C遺跡 19次 (MGC-19)

所在地	博多区麦野6丁目12番12
調査原因	共同住宅建設
調査期間	2020.10.12～2020.12.18
調査面積	296㎡
担当者	赤坂亨
処置	記録保存

調査の概要

本調査区は麦野C遺跡の北側中央に位置し、現況は北西方向緩斜面である。調査区北側では幅約4m深1.2mで底面が平らな大溝SD-1、幅1.6m深0.8mで断面逆三角形のSD-2が北東-南西の区画整理以前の旧道方向で検出された。またほぼ直交するように溝SD-3・4も検出された。これらの溝の時期は室町時代から戦国時代頃とみられる。また調査区南側では竪穴式住居跡1棟と、住宅以前の畑の畝の方向に伸びる底面が平らな幅2.6m深1.2mの溝SD-6を検出した。それぞれの溝は調査区外に向かってさらに延長する。溝より中世後半の土器および陶磁器が出土した。本調査区で検出された溝と類似する溝は隣接する麦野A遺跡でも検出され、天正9年(1581)戸次鑑連が麦野村に軍勢を置いたとする古記録から、戦国時代の城館を囲む堀と推定されており、本調査区も同様に戦国時代の城館の堀の可能性が考えられる。



1. 調査地点の位置 (12 麦野 0050 S=8,000)



2. I区全景 (北東から)

2030 野芥遺跡 20次 (NKE-20)

所在地	早良区野芥5丁目378番1
調査原因	宅地造成
調査期間	2020.10.12～2020.11.11
調査面積	211.5㎡
担当者	池田祐司
処置	記録保存

調査の概要

油山山塊が平野に接する扇状地状の緩斜面に位置する。黄褐色粘質土および灰白色砂質土上で古墳時代後期の古墳、集落遺構（下面）を確認した。遺構面は南端部で南へ下がる。遺構は竪穴建物5基+α、土坑、ピットである。竪穴建物は残りの良いSC007で一辺4.3mの方形で4基の柱穴を確認した。SC009は一辺2.6mほどで北隅にカマドを持つ。出土土物が少なく時期は決めがたいが、6紀末から7世紀初めを想定している。南側は谷へと低くなっていると考えられるが、端部でも竪穴建物と考えられる遺構を確認した。また2間×2間の孤立柱建物を1棟確認している。南側では1～2m大の礫が遺構面に突出し、竪穴も規制を受けている。水田耕作時にも障害になったと考えられ、礫を割って埋めた痕跡を確認した。遺構埋土からは、石籾、松浦産の黒曜石原石など縄文時代の遺物も出土している。



1. 調査地点の位置 (84 重留 0319 S=8,000)



2. 調査区全景 (北から)

2031 弥永原遺跡 19次 (YNB-19)

所在地	南区日佐3丁目42-1
調査原因	体育館建設
調査期間	2020.10.15～2021.3.16
調査面積	1776.47㎡
担当者	清金良太
処置	記録保存

調査の概要

対象地は弥永原遺跡の南側、福岡女学院の校内に位置する。調査区の南側では18次、北西側では15次、北東側では6次調査が行われている。弥生時代の喪棺、土坑墓、区画溝が検出されている。

喪棺は18基確認でき、そのうち成人棺が11基、小児棺が7基検出された。北東、北西側の6、15次調査は、墓域であり、19次調査では北側に喪棺等の墓が確認されたことから、19次調査地点から北側に墓域が広がっていることが確認された。土坑墓は3基あり、そのうちの1基から朱が発掘された。土坑墓は底部のみの検出であり、土器が無く時期は不明である。区画溝は墓域を区画するように検出された。この溝のみ、深いピットがみられることから柵であろうと判断した。土器の破片が数点柱穴からみつき、古墳時代初めの時期と判明した。



1. 調査地点の位置 (26 上日佐 0105 S=8,000)



2. 喪棺墓検出状況 (上が北)

2032 博多遺跡群 244 次 (HKT-244)

所在地	博多区祇園町 2-1、2-2、59、4、5
調査原因	ホテル建設
調査期間	2020.11.9 ~ 2021.1.7
調査面積	145㎡
担当者	佐藤一郎
処置	記録保存

調査の概要

博多遺跡群は福岡平野の中央、那珂川河口部右岸に位置し、博多湾岸に沿って形成された古砂丘上に立地している。調査地は博多遺跡群の南東寄りに位置する。

隣地調査の実績 (GL-0.8m 以下で遺構面を確認) から GL-1.3m の包含層 (暗褐色砂、8 世紀頃) 上面と下面の砂丘砂で遺構検出を行った。包含層上面では、溝 1 条、12 世紀後半 ~ 13 世紀前半の井戸 5 基、土坑 10 基、柱穴・ピット状遺構を検出した。溝は調査区東で南側の肩と底面の一部を検出、33 次調査で検出された 16 世紀の大溝 SDO04 の延長とみられる。また、上面では断片的ではあるが、黒色砂 (1 層、平安中期の風成砂) 層が確認された。包含層下面では 10 世紀後半の土壌墓、その上面で土師器杯 5 点・小椀 1 点、須恵器壺 1 点が出土した他、8 世紀代の柱穴・ピット状遺構 4 を検出した。



1. 調査地点の位置 (49 天神 0121 S=8,000)



2. 土器埋納遺構 (南から)

2033 井尻B遺跡 47 次 (IGB-47)

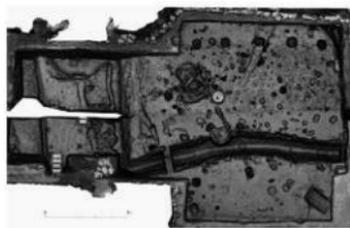
所在地	南区井尻 1 丁目 735 番 9
調査原因	戸建住宅建設
調査期間	2020.11.10 ~ 2021.1.15
調査面積	200.93㎡
担当者	久住猛雄
処置	記録保存

調査の概要

47 次調査地点は、井尻 B 遺跡の北端近くに位置し、周囲の標高は 11.2 ~ 11.3 m で、南側隣地は 22 次調査地点である。遺構は、鳥栖ローム上面で検出された。溝 9、落込み遺構 1、掘立柱建物 3、炉跡遺構 2、ピット (柱穴など) 多数である。比較的大きな溝が 4 条ある。調査区西端南北溝 SDO3 は、中世以降と思われ、22 次 SDO1 の続きとみられる。切通しの道路遺構の可能性がある。その東側の南北溝 SDO1 は、下層の一定の高さに環状遺構 SX01 がみられた。中世後半である。SDO2 は東西溝で、弥生時代終末期の掘削だが、飛鳥時代に再掘削されている。SDO4 は調査区東端の南北溝で、古代の溝である。掘立柱建物はいずれも弥生時代である。炉跡遺構は、削平された弥生時代の竪穴住居に伴うものであろう。井尻 B 47 次調査では、遺跡の北端付近にも関わらず、弥生時代から中世までの遺構が比較的多く検出された。



1. 調査地点の位置 (24 板付 0090 S=8,000)



2. 調査区合 3D 俯瞰写真 (上から)

2034 箱崎遺跡 114次 (HKZ-114)

所在地	東区箱崎6丁目10-1(本部第二庁舎)
調査原因	学術研究(記録保存・HKZ2006)
調査期間	2020.12.1～2021.3.31
調査面積	1,000㎡
担当者	九州大学埋蔵文化財調査室
処置	記録保存

調査の概要

HKZ2006地点(本部第二庁舎地点)は、第二庁舎の基礎撤去に先立ち実施した発掘調査である。第二庁舎建物の北側および東側の1000㎡を調査した。建物北側をA区、東側をG区と呼んで記録を行っている。A区では、土坑、土坑墓、火葬土坑など59遺構が、G区では溝、土坑墓、火葬土坑など20基が検出された。2018年度に本地点の近傍で実施した立会調査で、すでに中世前半代の土坑墓を発見していたが、今回の調査でも同種の遺構群が数多く検出され、この一帯が葬俗に関わるエリアであったことが明らかにされた。

土坑墓からは副葬された龍泉窯青磁や土師皿が出土した。また、棺の存在を示す釘類も多く見つかった。火葬土坑からは、火葬骨や置き台として用いられた板磚などが見つかった。また、攪乱坑の中からも石塔類が5例検出されており、今後年代等の検討を進める予定である。



1. 調査地点の位置 (34 箱崎 2639 S=8,000)



2. 発掘区全景(北東から)

2035 比恵遺跡群 157次 (HIE-157)

所在地	博多区博多駅南5丁目3-1
調査原因	校舎建て替え
調査期間	2020.11.16～2021.3.31
調査面積	910.12㎡
担当者	三浦萌・中尾祐太・中国将祥
処置	記録保存

調査の概要

比恵遺跡群は福岡平野の中央を流れる那珂川と御笠川に挟まれた丘陵上に立地する縄文時代から中世にわたる遺跡である。当調査区の西隣で行われた第8次・72次調査では、6世紀後半から7世紀後半の3間×3間の総柱建物が10棟と3本一組の柵状遺構が確認されており、那津官家に関連する遺跡として、国史跡に指定されている。

今回調査したのは、福岡市立春住小学校の校庭の一部である。調査の結果、弥生時代の土坑2基、古墳時代初頭の井戸1基、その他に時期不明(弥生?)のピット複数と近代の溝4条を確認した。三本柵列等のミヤケ関連遺構は確認できなかった。よって三本柵列は8次・72次調査区と当調査区の間にある道路付近をめぐっている可能性が高まった。調査区の北東部分は湿地堆積がみられる。また調査区の大半分は削平されている。



1. 調査地点の位置 (37 東光寺 0127 S=8,000)



2. II区全景(東から)

2036 西新町遺跡 23次 (NSJ-23)

所在地	早良区西新3丁目204番3
調査原因	土地売却
調査期間	2020.12.14～2021.1.7
調査面積	90㎡
担当者	常松幹雄
処置	記録保存

調査の概要

西新町遺跡は博多湾岸に形成された砂丘遺跡である。調査地は、砂丘の東部に位置している。

地表から0.8m下で黄白色の風成砂の層となる。風成砂を0.3mほど掘り下げた面で4基の土坑が検出され、うち2基の隅丸方形プランの土坑から土器がまとめて出土した。土坑は調査地の東側でも確認されたことから、集落はさらに東側に広がると推定される。土坑からは3世紀頃の西新式段階の台付甕や壺などが出土した。風成砂の遺物包含層では漁労に使われた石器なども検出された。

調査区は、これまでの調査で砂丘の最も東に位置している。検出された土坑の分布は、3世紀代の集落の広がりを示している。今回の調査は小面積ではあったが、弥生時代終末から古墳時代にかけての湾岸部の様相を知るうえで貴重な所見を得ることができた。



1. 調査地点の位置 (71 西新 0240 S=8,000)



2. 調査区全景 (南から)

2037 高畑遺跡 22次 (TKB-22)

所在地	博多区板付6丁目10-5
調査原因	共同住宅建設
調査期間	2021.1.5～2021.3.24
調査面積	240㎡
担当者	池田祐司
処置	記録保存

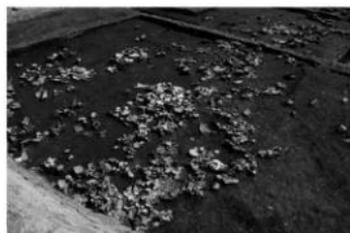
調査の概要

調査地点は高畑遺跡が広がる丘陵の南東裾部に位置する。調査区北西側に八女ロームの斜面がみられ、東側に広がる堆積中で古墳時代後期、弥生前期から後期の遺物が出土した。まず70cmほどの水田土壌を除去した面で土器細片が広がり、密度が高い東側7mほどでは、細片の下に土師器を中心とした土器が据えたような状態で出土した。高坏、小壺が目立つ。5世紀を中心とした土器群と考えられる。

さらに下層には弥生時代の遺物包含層が50cmほど堆積し、前期から後期の遺物が破片で出土する。丘陵斜面と八女ロームに接する包含層最下部ではほぼ前期の遺物のみが出土する。ただし、一区画で後期の土器が包含層最下部まで出土する範囲があり、建築材、鋤などの木製品が出土した。このほかに、縄文時代の磨製石斧、石磯、旧石器時代の台形石器、細石刃が上記包含層中より出土した。



1. 調査地点の位置 (24 板付 0095 S=8,000)



2. 土器集中部 (北西から)

2038 博多遺跡群 245 次 (HKT-245)

所在地	博多区須崎町 5-16
調査原因	テナント付き共同住宅建設
調査期間	2021.1.5 ~ 2021.5.7
調査面積	226.56㎡
担当者	中尾祐太・野村俊之
処置	記録保存

調査の概要

博多遺跡群は福岡平野の中央、那珂川河口右岸に位置し、博多湾岸に沿って形成された古砂丘上に立地する。調査地は遺跡南端に位置し、房州堀推定ラインに近接する。今回の調査では現地地表 0.9 から 1.8m まで礫混じりの粗砂（近世の遺物を含む）、2.0m まで褐色土（近世の遺物を含む）が堆積し、2m 以下で 15 世紀中頃までに埋没した河川堆積、もしくは堀の落ち SD01 を検出した。深さ 0.5 ~ 0.6m（標高 1.4m 前後）で地山の灰白色砂となり、岸、立ち上がりを検出することはできなかった。

検出した遺構を河川とした場合、御笠川旧河道の一部とみられる。堀とした場合、埋土から出土した遺物は、大内氏の博多支配の時期に相当し、『筑前国続風土記』にある大内氏によって築造された堀の一部となる可能性がある。



1. 調査地点の位置 (49 天神 0121 S = 8.000)



2. 調査区全景 (南東から)

2039 別府遺跡 2 次 (BEF-2)

所在地	城南区別府 5 丁目 198 番
調査原因	共同住宅建設
調査期間	2021.1.25 ~ 2021.3.4
調査面積	400㎡
担当者	常松幹雄
処置	記録保存

調査の概要

別府遺跡は、茶山方面からのびる丘陵の北側に位置している。調査地は標高 4 m ほどの丘陵の先端にあたる。

今回の調査では、弥生時代の竪穴住居跡と土坑 2 基が明らかとなった。住居跡は円形プランで直径 5.6 m、約 17 畳の広さとなる。中央には炉跡があり、炉跡を囲むように 4 本の柱穴が見つかった。土坑 SK02 は弥生後期、土坑 SK03 は中期後半に比定される。住居跡床面で弥生中期後半の土器が出土した。炉の西に近接する中央土坑では柱状片刃石斧の破片 1 点、作業用の台石が出土した。土坑 SK03 では弥生中期後半の土器のほか大型石鍾が出土した。住居跡に置かれた扁平な灰色の石（火成岩か）は、東の土坑 SK03 の石と色調がよく似ている。土坑の石は、両端を打ち欠かき、大型の鍾に加工されている。土坑中央では短軸に 2 つの柱穴が検出されたことから、作業場的な施設だった可能性がある。



1. 調査地点の位置 (72 飛江 0244 S = 8.000)



2. 調査区全景 (西から)

2041 麦野A遺跡第31次 (MGA-31)

所在地 博多区麦野3丁目11-3、11-99
 調査原因 戸建住宅建設
 調査期間 2020.1.18～2020.3.6
 調査面積 176.0㎡
 担当者 中園将洋 野村俊之
 処置 記録保存



1. 調査地点の位置 (12 麦野 0048 S=8,000)

調査の概要

1 調査に至る経緯

平成30年8月17日付けで当該地における埋蔵文化財の有無についての照会文章が提出された(事前審査番号30-2-476)。これを受けて埋蔵文化財課事前調査係は平成30年9月6日に試掘調査を行い、地表面下約20～40cmでピット状遺構・溝状遺構などの遺構を検出した。遺構の保全等に関して申請者と協議を行い、遺構が影響を受ける範囲について記録保存のための発掘調査を実施した。調査は対象地が狭いため、2区画に分けての調査となった。

2 位置と環境

麦野A遺跡は、福岡平野を流れる御笠川とその支流である諸岡川に挟まれた標高12～17m、南北約1200m、東西約400mの広さを持つ洪積台地上に立地し、弥生時代から中世にかけての遺構が主体となる遺跡である。今回の第31次調査地点は遺跡の東縁に位置し、標高13.9メートル前後が遺構検出面である。



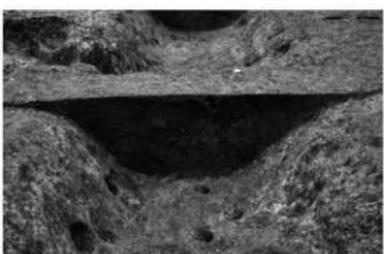
2. I区全景(北西から)



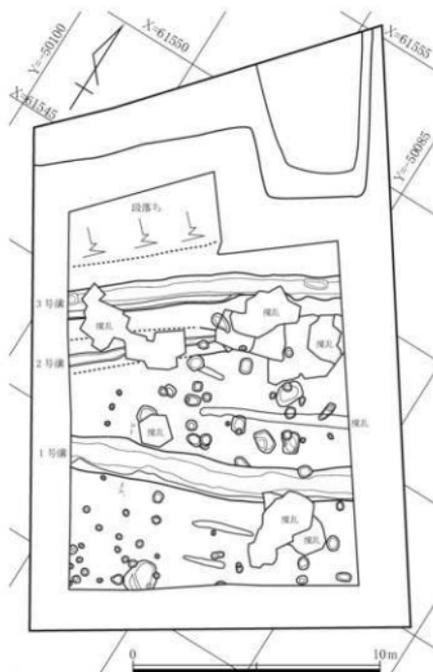
3. II区全景(北西から)



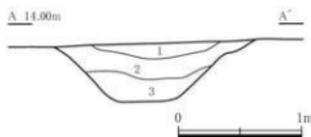
4. I区1号溝(南西から)



5. I区1号溝断面(南西から)

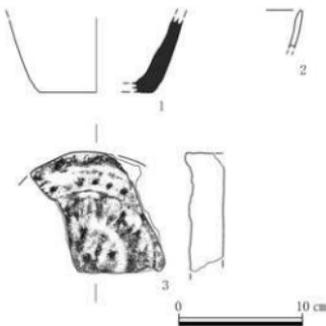


6. 遺構平面図 (S=1/200)



- 1 7.5YR1/1 黒褐色土 1～3mm大の橙色粒と
1～3mm大の炭化物を微量含む。
しまり強い 粘性普通
- 2 7.5YR4/3 褐色土 1～3mm大の橙色粒中量含む。
しまり普通 粘性普通
- 3 7.5YR3/3 暗褐色土 1～3mm大の橙色粒少量含む。
しまり普通 粘性強い

7. 1号溝断面図 (S=1/40)



8. 出土遺物実測図 (S=1/4)

3 遺構と遺物

今回の調査では、溝3条、ピット状遺構65基を検出した。溝は北東-南西方向に延びる溝で、両端は調査区外に延びる。1号溝は幅150cm深さ50cm、2号溝は北東部や西部に攪乱を受けているが幅110cm深さ20cm、3号溝は幅120cm深さ20cmを測る。ピット状遺構の多くは植栽痕(根穴)と思われる掘り込みであり、掘立柱建物跡になりうるピット列は確認できなかった。出土遺物の多くは、須恵器・土師器・磁器の破片であったが、調査区北西部の段落ちの覆土中からは古代瓦(軒丸瓦)の一部が出土した。出土遺物1は1号溝出土の須恵器の壺の底部。復元底径9.2cm、残存高6.2cm。内外面ナデ調整。2は1号溝出土の磁器の口縁部。残存高3.0cm。灰緑色の釉がかかる。時期は15～16世紀と考えられる。3は古代瓦(軒丸瓦)。胎土は黄白色を呈し、軟質である。

4 まとめ

今回検出された3条の北東-南西方向に延びる溝は、当調査地点の南側に位置する第6、18、20、23次調査で検出された戦国期の南北約120m、東西約160mを測る城館を取り囲む溝と同じ軸である。また出土遺物からも15～16世紀の溝と考えられ、城館の防御を目的とした掘り込み、溝であった可能性もあり、当遺跡周辺の中世の環境を考える上で重要な調査となった。

2040 原遺跡 37次 (HAA-37)

所在地	早良区原5丁目1333番3、1330番7
調査原因	共同住宅建設
調査期間	2021.1.21～2021.3.17
調査面積	555.6㎡
担当者	木下博文
処置	記録保存

調査の概要

原遺跡は早良平野の中央、金屑川右岸の微高地上に展開する弥生時代から中世にわたる複合遺跡である。

今回の調査地点は、遺跡の北西端に位置し、敷地の西側隣接道路が遺跡の西縁ラインとなっている。現地表面の標高は5.5～5.9mである。

遺構は現地表面下110～120cmの青灰色ないし黄褐色シルトの上で、旧河川跡2条、古代～中世とみられる溝6条、ピットを検出した。出土遺物は旧河川跡から弥生時代末期の土器、古代とみられる溝から須恵器甕片、遺物包含層から中国産白磁片など、コンテナ1箱が出土している。

今回の調査地は遺跡の周縁部に当たり、検出した遺構や出土遺物は少なかったものの、自然環境復元に必要な旧河川跡やその埋没時期がわかる土器、古代とみられる溝が検出されており、貴重な成果を取ることができた。



1. 調査地点の位置 (82 原 0311 S=8,000)



2. 2区全景 (西から)

2042 博多遺跡群 246次 (HKT-246)

所在地	博多区綱場町9、10、11、12、13、14他12筆
調査原因	事務所ビル建設
調査期間	2021.2.1～2021.8.6
調査面積	269.1㎡
担当者	赤坂亨
処置	記録保存

調査の概要

調査地点は博多浜と息浜が接続する西側部分から、低湿地帯沿いに息浜側に入った砂丘縁辺に位置する。4調査区を設定し調査を行った。1区では標高1.0～1.4mで黄灰色粗砂を基盤とする遺構面(砂丘)を確認した。2区は上層が毀損されていたが、標高1.1mで黄褐色砂と黒褐色粘質土が輪状に堆積した地山砂丘面を検出した。3区では標高2.0mで第1面、標高1.6mで第2面、標高1.3m砂丘面で第3面を確認し、土坑、礎石、石積土坑の一部、西町筋方向の溝、桶枠の井戸底などを確認した。4区は全面的に毀損されており、発掘調査は行わなかった。遺物は中世後半の糸切底土師皿や陶磁器・近世瓦等が出土した。1・2区は中世前半頃に新たに形成された息浜の砂丘上に中世後半以後集落が形成されたとみられる。3区では現在の町割りに沿った溝や遺構が検出され、中世後半～近世に至る都市博多の息浜側の様相が確認できた。



1. 調査地点の位置 (48 千代・博多 0121 S=8,000)



2. 第3区北東半第3面全景 (南東から)

2043 井尻B遺跡 48次 (IGB-48)

所在地	南区井尻1丁目704番の一部、705番の一部
調査原因	戸建住宅建設
調査期間	2021.2.15～2021.3.13
調査面積	120㎡
担当者	久住猛雄
処置	記録保存

調査の概要

48次調査地点は、井尻B遺跡の東側縁辺部の中央やや北側に位置する。周囲の標高は11.1～12.5mで、西に傾斜する。鳥栖ローム上面で遺構が検出された。遺構は全体的に削平され、竪穴住居の痕跡とみられる箇所があったが壁は遺存していない。ピット状遺構が分布するが、確実な柱穴から根穴とみられるものまであり、どちらか不明確なものもある。ただし掘立柱建物が確実なものが2棟、あるいは最大10棟復元できた。竪穴住居の痕跡も、弥生時代の円形住居と思われるものを含めて数棟あった。また弥生時代中期の不整形円形土坑が3基検出された。出土遺物から、主に弥生時代中期の遺構が多く、一部が弥生時代後期、また一部が中世とであろう。調査区北東側に向かって遺構が濃密になる傾向がある。今回の調査では、主に井尻B遺跡東側縁辺部における弥生時代集落の展開の様相を確認することができた。



1. 調査地点の位置 (25 井尻 0090 S=8,000)



2. 調査区南側全景 (東から)

2044 箱崎遺跡 115次 (HKZ-115)

所在地	東区箱崎6丁目10-1 (船舶海洋工学実験室)
調査原因	学術研究 (記録保存・HKZ2007)
調査期間	2021.2.15～継続中
調査面積	3,200㎡
担当者	九州大学埋蔵文化財調査室
処置	記録保存

調査の概要

HKZ2007地点は、多数の近世墓が検出されたHKZ1801地点の南隣に位置する。近世における墓域の範囲・構造・性格の究明を目的として調査を実施した。発掘調査は継続中であり、遺跡の全貌を把握するには至っていない。

HKZ1801地点に近い調査区北側を中心に、現状で33基の近世喪葬墓を検出しているが、まだ増加しそうである。喪棺の多くは近現代の改葬を受けているが、人骨が良好に残っているものもある。特筆される点として、調査区南側で茶毘の場と考えられる火葬土坑を10基前後検出した。これらの遺構からは、比較的大型の炭化材と焼骨小片が出土し、遺物は基本的に出土しない。焼骨片で部位同定ができるものは少なく、解剖学的位置を保って出土した例はない。遺物が出土しないため、遺構の時期比定が困難である。今後、出土炭化材の年代測定を実施するなどして、所属時期の検討が必要である。



1. 調査地点の位置 (33 貝塚 2639 S=8,000)



2. 発掘区全景 (南西から)

2045 箱崎遺跡 116 次 (HKZ-116)

所在地	東区箱崎3丁目3263番2
調査原因	共同住宅建設
調査期間	2021.2.19～2021.4.9
調査面積	96㎡
担当者	今井隆博・野村俊之
処置	記録保存

調査の概要

本地点では2面の調査を行った。GL-170cm付近で基盤の黄色砂があり、その上面20cm程の遺物包含層・整地層を第1面とした。検出した遺構は、柱穴・土坑・溝である。溝は近世～近代のものと思われる。柱穴はまとめて掘立柱建物を構成するようであるが、規模・時期は不明である。2面では2.7m×2.2mの方形竪穴土坑を検出し、多量の遺物が出土した。黄色砂の上には竊伏の整地層が堆積し、一部焼土を含んでいる。付近の調査で確認されている焼土層と一連のものか。出土遺物は土師器・中国製陶磁器等で、コンテナケース25箱分。方形竪穴遺構からは遺存状態良好な足鍋も出土した。今回の調査では中世～近世の集落を検出した。近世以降の遺構も多く、第1面の時期は判断し難いが、周囲の調査成果も勘案して14世紀頃であろうか。第2面では方形土坑や円形土坑が検出されており、12～13世紀頃の所産と思われる。



1. 調査地点の位置 (34 箱崎 2639 S=8,000)



2. 1区全景 (南から)

2046 大平寺古墳群 1 次 (THK-1)

所在地	南区大平寺1丁目93番1外
調査原因	学術研究
調査期間	2021.3.8～2021.8.31
調査面積	8,000㎡
担当者	福岡大学考古学研究室
処置	現状保存

調査の概要

大平寺古墳群は油山山塊の東北方に派生する丘陵尾根上、大平寺緑地内に所在し、標高40～50mの尾根線上に4基が現存する。5・6・7号墳の墳丘測量を行った。5号墳は径約20mの円墳で、埋葬施設は南北主軸・南面の横穴式石室墳であったと見られるが、盗石で石材が抜かれ陥没墳となっている。墳丘斜面は円墳の旧状をとどめる。6号墳は5号墳東側に隣接し、ほぼ完存する径約20mの円墳である。花崗岩構築の東西軸をとる単室両袖横穴式石室は羨道部に矢穴・積直し痕が認められる。7号墳は、6号墳の東約100m、緑地内東端に位置し、後世の改変で墳形は不明であるものの、径約20～25mの古墳であることが明らかになった。埋葬施設は東西主軸・西向き開口の横穴式石室と推定されるが、盗石で石材が抜き取られ、墳丘中央から西側に開く陥没墳が残る。陥没墳北西で須臾器片の散布を多数確認した。



1. 調査地点の位置 (53 屋形原 0180 S=8,000)



2. 6号墳 (西から)

2047 鳥飼遺跡第1次 (TOR-1)

所在地	福岡市中央区今川2丁目2番1
調査原因	納骨堂建設
調査期間	2020.07.21
調査面積	18.6㎡
担当者	田上勇一郎 山本晃平
処置	記録保存

調査の概要

1、はじめに

鳥飼八幡宮の境内地において、納骨堂建設に伴う確認調査（事前審査番号2020-2-282）で、弥生土器が出土した。これまで鳥飼遺跡内において、明確な遺構や遺物は全く確認されていないことから、この場を借りて資料紹介を行いたい。

鳥飼遺跡は早良平野の東側に立地しており、鳥飼八幡宮を中心として包蔵地が設定されている遺跡である。これまで14か所において確認調査を行ってきたが、いずれも遺跡を確認するに至っていない。そのため詳細が不明な遺跡である。

調査地点は鳥飼八幡宮内の西側に位置し、前面道路から約3m以上高まった土地であった。しかし業者の運搬の行き違いから93条の届出前に解体業者によって道路面と同レベルまで切り下げられてしまっていた。そのため93条の届出をすぐに行ってもらい、確認調査を行った。



1. 調査地点の位置 (71 西新 2435 S=1/8,000)



2. 調査地点全景 (北から)

2、確認調査の成果と出土遺物

1) 確認調査の成果

トレンチは切り下げられた納骨堂建設予定地のおよそ中央に南東-北西方向に設定した。長さは12m、幅0.8mの範囲を掘削した。表面は切り下げ工事のガラなどで荒れており、GL-35cmで黄褐色砂に、GL-75cmで黄白色砂を確認した。これら砂層上で遺構検出を行ったが、遺構及び遺物は確認できなかった。そしてトレンチ内などの記録を取り、埋め戻しを行っている中で設定したトレンチの東側で暗褐色砂を見つけた。当初は切り下げ工事に際しての攪乱かとも考えたが、確認のために一部を掘削することにした。すると一段掘り下げたところで弥生土器数点が出土した。そのためこの暗褐色砂が遺構なのかを確認するために周辺の遺構検出を行ったが、遺構として明確なプランを確認することができなかった。時間的制約のため、遺物の出土状況まで抑えることはできなかったが、暗褐色砂の概ねの範囲は抑えることができた。遺物に関しては確認できたものはすべて回収した。ただ他にもないかを確認するために工事に際して立会を行ったが、確認調査で見つかったもの以外の遺物は確認できなかった。

2) 出土した遺物

今回確認調査で出土した遺物はコンテナケース1箱弱であった。

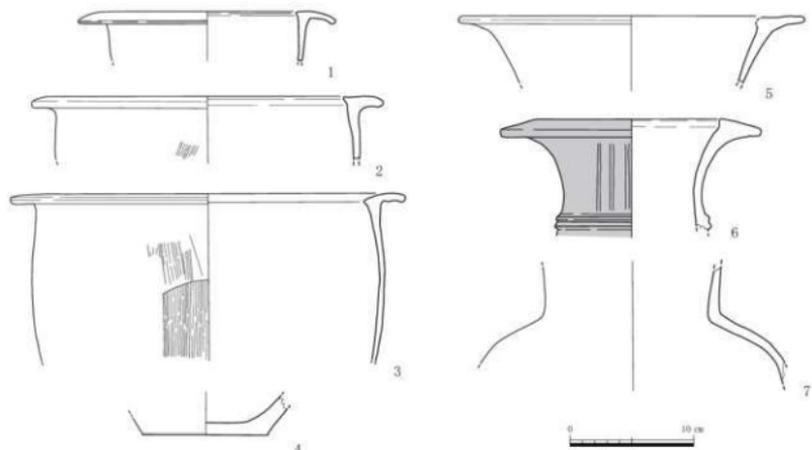
遺物はすべて弥生土器である。1は甕である。復元口径20.8cm、残存高4.5cmをはかる。口縁部に一部ヨコナデが見えるが、全体的に器壁が摩耗しており、調整は不明瞭である。焼成は良好である。胎土は1mm程の小石を含んでいる。色調は褐色を呈する。2は甕である。復元口径28.5cm、残存高5cmをはかる。口縁部にはナデ調整、内面はヨコナデ、外面体部にはハケ目調整である。焼成は良好である。胎土は1mm程の小石を含んでいる。色調は暗灰色を呈する。3は甕である。復元口径32cm、残存高13.5cmをはかる。口縁部から内面体部にかけてはナデ調整、外面体部はナメハケ〜タテハケ調整である。焼成は良好である。胎土は1mm程の小石を含んでいる。色調は褐色を呈する。4は甕の底部である。平底である。底径10.2cm、残存器高3.2cmをはかる。外面内面ともにナデ調整である。焼成は良好である。底部は黒色でそれ以外は褐色を呈する。5は甕である。復元口径28cm、残存高5.5cm

をはかる。全体的器壁が摩耗しているが、外面にミガキが施されているか。内面はヨコナデである。焼成は良好である。色調は褐色を呈する。6は丹塗の壺である。口径は21cm、残存高9.2cmをはかる。体部にM字突帯がある。口縁部から突帯まではヨコナデののちに暗文が施されている。口縁部はナデ調整である。内面は器壁がはがれており、調整不明である。7は壺である。体部のみ残存している。頸部径14.2cmをはかる。調整は全体的にヨコナデである。焼成は良好である。色調は褐色を呈する。

3、まとめ

今回の確認調査によって、鳥飼遺跡内で初めて土器の出土を確認できた。出土状況から明確な遺構からというわけではなく、おそらく地形の窪みに入ったものと考えられる。もともとの現地形は道路面より3m程高く、もし現地形のまま確認調査を行っていても、届かなかったと考えられる。また表土直下で黄褐色砂を検出しており、出土土器の検出面までほぼ同一の黄褐色砂（風成砂）が堆積しており、地山と勘違いをしてそこで掘削を止めてしまう可能性が高い。そういった意味では今回、道路面まで切り下げられたことによってこれらの土器は発見できたといえる。

これまで鳥飼遺跡は中世の集落と考えられてきた。ただ今回の発見によって、弥生時代中期～後期の集落が存在する可能性が高くなった。今後は周辺の確認調査にはさらに注意が必要である。



3. 鳥飼遺跡第1次調査出土遺物（1/4）

1805 博多遺跡群 221 次 (HKT-221)

所在地	博多区上川端町 6-38
調査原因	跡地活用事業
調査期間	2018.4.26～継続中
調査面積	Ⅲ区 300㎡ IV区 476㎡ V区 630㎡ VI区 340㎡
担当者	大庭康時・岩隈拓人
処置	調査中

調査の概要

令和2年度に引き続いてⅣ区の近世大乘寺墓地、調査対象地の南辺部に当たるⅤ区、中世初頭の港湾遺構と考えられた石積み遺構の延長部分を含むⅢ区からⅥ区の調査を実施した。

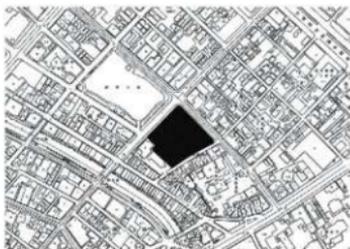
前年度までに出土した石積み遺構は調査対象地をほぼ南北に縦断していることが明らかになった。全長は 67 m 以上、幅 1.4 ~ 1.8 m で、その総延長はおそらく 100 m に及ぶものと思われる。石積み遺構の前面は、後背湿地から博多湾に流れ込む旧河川に面し、60 ~ 80cm の石垣状に積み上げていた。上面は石を敷き詰め、背面は盛土で平坦に整地していることが判明した。Ⅴ区とⅥ区は、石積み遺構の背面にあたり、その南側の一部において、海浜砂による砂丘砂層が検出された。すなわち、調査区の南側では、砂丘が東から伸びてきて、石積み遺構の背面に迫っていた。この部分では、石積み遺構の背面は、急にせり上がった砂丘斜面であった。また、石積み遺構上面の幅は狭く、石積み石垣も一段程度と低く造られていた。

石積み遺構の中ほどにおいて、石積みの欠損部分が確認できた。石積みの軸線は、欠損部分の左右で微妙にずれており、連続していたものが破壊され、中断したものではないことがわかる。この部分は、水際と陸側を結ぶ出入口と推測される。

石積み石垣は、自然石を使用しながらも、横に目地が通り、同時に、石垣面が垂直に立つように石の背後に小石をはさんで前面の角度を調節するなど、熟練した技術が用いられていた。

Ⅴ区では、青磁碗を副葬した 12 世紀後半の土壇墓が出土した。石積み遺構は、12 世紀中頃過ぎに起こった洪水で埋没し放棄された。これによって、港湾は本調査地点から移転し、12 世紀後半にはすでに屋敷墓を営むような生活域になっていたと言える。

Ⅵ区では、砂丘部分を中心に古代から近世に及ぶ遺構を検出することができた。石積み遺構の時期に当たる 12 世紀前半の井戸は、石積み遺構の背後に関連施設があったことを想起させるが、室町時代後半に大規模な掘削を受けており、港湾施設の構造を解明する手掛かりを得るには至らなかった。



1. 調査地点の位置 (49 天神 0121 S=8,000)



2. 石積み遺構 (西から)



3. Ⅴ区井戸 (西から)



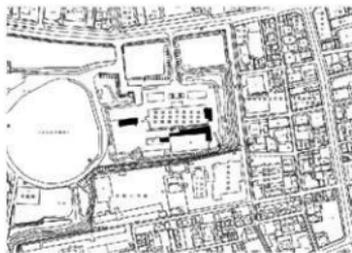
4. Ⅵ区埋葬遺構副葬品 (北西から)

1959 福岡城跡 80次 (FUE-80)

所在地	中央区城内
調査原因	史跡整備
調査期間	2020.1.10～継続中
調査面積	1,218㎡
担当者	阿部泰之・吉田大輔 史跡整備活用課
処置	現状保存

調査の概要

鴻臚館跡第VI期調査として、福岡城三の丸の東側、福岡高等裁判所跡地を対象に調査を実施している（鴻臚館跡としては32次調査）。近代以降の削平・攪乱が大きく、遺構の残存状態は不良で、これまでに鴻臚館に関連する遺構は検出されていない。検出遺構は、福岡城関連の石組溝、石敷基礎、礎石据付穴、瓦組井戸、瓦溜り等があり、旧陸軍関連の遺構も確認した。土師器、須恵器、輸入陶磁器、近世陶磁器、近世瓦等コンテナ60箱分が出土しているが、古代の遺物はごくわずかである。また、調査地東部で地形の変換点（東への斜面）を確認した。この斜面は、福岡城築城時に埋め立てられ、近世まで造成されていないことが判明した。今後も調査を継続し、鴻臚館関連遺構の検出と地形の復元に努めていく。



1. 調査地点の位置 (60 舞鶴 0193 S=8,000)



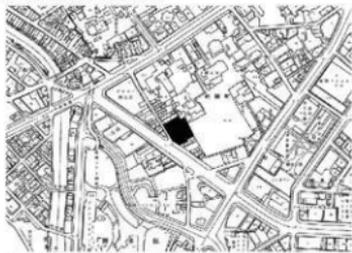
2. トレンチ6 地形変換点と築城時の盛土(北西から)

1960 博多遺跡群 239次 (HKT-239)

所在地	博多区祖國町 417番、418番、419番、420番、421番、422番、425番、426番、427番
調査原因	ホテル建設
調査期間	2020.2.17～2021.4.23
調査面積	1012.47㎡
担当者	屋山洋
処置	記録保存

調査の概要

239次調査区は博多遺跡群の南西の隅、砂丘の尾根頂部近くに位置する。調査区内で検出した最も古い遺構は弥生時代中期の甕棺墓である。弥生後期から古墳時代前期には調査区全面に竪穴式住居が分布するが、前期中頃に方形周溝墓が築かれると、その後は8世紀まで見られない。8世紀代になると少数の土坑と墓の他、竪穴式住居が作られるようになる。11世紀中頃から12世紀前半には遺構が全体に広がり、多数の土坑、溝、柱穴状遺構が分布する。特に多量の白磁や土師環・皿が出土する廃棄土坑は11世紀後半に集中している。12世紀後半になると、集落が北に移動したものと考えられる。近世になると井戸や廃棄土坑が見られるようになり、特に近世末から近代にかけては多数の井戸とともに廃棄土坑が出土した。特に竪穴式では多量に出土し、1基の土坑から100点以上が出土した。また窯道具も多少出土している。



1. 調査地点の位置 (49 天神 0121 S=8,000)



2. 1区1面全景(南から)

1963 井相田 E 遺跡第 2 次調査 (ISE-2)

所在地	博多区井相田 3 丁目 8-3
調査原因	土地造成
調査期間	2020.3.5 ~ 2020.3.31
調査面積	661.6㎡
担当者	三浦萌
処置	記録保存

調査の概要

1. 調査に至る経緯

令和元年 11 月 8 日付けで、当該地における埋蔵文化財の有無についての照会文書が提出された（事前審査番号 2019-2-861）。申請地が周知の埋蔵文化財包蔵地である井相田 E 遺跡に含まれていることから、令和元年 12 月 5 日に申請地で確認調査を実施した。その結果、現地表下 45cm の黄褐色粘質シルト層上において溝 2 状とピット 2 基が検出された。協議の結果、建物が建築される範囲において記録保存のための発掘調査を行うことで合意した。

発掘調査は令和 2 年 3 月 5 日に着手し、同年 3 月 31 日に終了している。

2. 調査の概要

井相田 E 遺跡は御笠川と那珂川の間にある段丘上に位置している。今回の調査地点は第 1 次調査地点の南東側に隣接する。1 次調査は官道東門ルートの推定線付近に位置しており、官道に関連すると推測される溝が 2 条発見されている。

調査区の現況は田畑であり、標高は約 12.5 m である。耕作土や床土はほぼ水平に堆積しており、1 次調査区同様、開墾時に大きな地形改変を受けたと思われる。検出した主な遺構は溝 4 条である。

3. 遺構と遺物 (図 4 ~ 7)

溝が 5 条発見されている。このうち調査区南西壁沿いに検出された溝 (SD-014) は未完掘である。発見された溝 (SD-001, 002, 005, 013, 014) はいずれも調査区を南東から北西に縦断しており、1 次調査で発見された溝とほぼ平行する。遺物は須恵器や土師器、青磁などがコンテナケース 1 箱分発見されているが、いずれも小片であり、図示できる資料は少ない。

SD-001 (図 4, 6)

幅 1.2 m、深さ 40cm の溝であり、SD-014 をきっている。一部、溝の西端を明確には検出できていない。

SD-002 (図 4)

調査区西側を南北に走る幅約 1.1 m、深さ 10cm 前後の浅い溝である。SD-001 をきっている。埋土は褐色砂質土。

SD-005 (図 4, 6 遺物: 図 5)

調査区西側を南北に走る幅 1.4m、深さ 10cm ほどの浅い溝である。SD-001 をきっており、SD-014 とほぼ平行する。埋土は暗褐色砂質土。白磁 V 類が出土したことから時期は 11 世紀後半 ~ 12 世紀頃である。

1 は SD-005 から発見された白磁碗の底部である。残存高 2.8cm、高台径 6.1cm。櫛描文がみられ、灰白色の釉が高台上部まで施されている。白磁 V 類。

SD-013 (図 4, 7 遺物: 図 5)

調査区東部で検出された幅 1.2 m、深さ 30cm の溝である。調査区を南東から北西に縦断している。出土した遺物から時期は 12 世紀である。

2 は SD-013 から発見された瓦器である。残存高 1cm、高台径 5.8cm。内面はナデ調整である。



1. 調査地点の位置 (12 麦野 2881 S = 8000)



2. 調査区全景 (北から)

SD-014 (図4、6)

調査区西部で発見された幅4.5m、深さ0.85～1mの溝である。完掘はしておらず、トレンチをいれ土層を確認している。トレンチ2、3では標高11.3mあたりで湧水した。下面(トレンチ3の4～6層)の堆積状況から水路(河川?)が埋没した後に溝を掘削したものと思われる。同安楽系の青磁皿と思われる破片が出土していることから、時期は12世紀である。

4. まとめ

今回発見された溝は1次調査で発見された溝とほぼ並行しており、官道推定ラインとも平行する。遺構の切りあい関係から、SD-001、002の時期とSD-005、013、014の2つの時期があったと考えられる。発見された資料から後者の時期は12世紀代であるといえる。SD-014は調査区西部をやや南東から北西にむかって縦断しており、溝の北西端は第1次調査区のほうへはしている。しかし第1次調査区内においてはSD-014の続きらしき溝が見当たらない。そのためSD-014はSD-008から派生した溝、もしくは第1次調査区へ行かずに本調査区の北西端から北東方向へのびる形をとるなどといった別の溝である可能性がある。今後の周辺の調査に期待したい。またSD-013からはその時期から、12世紀代になって官道が再整備・使用された時期に掘削されたものと推測されるが、それが官道に伴うものであるかは不明である。

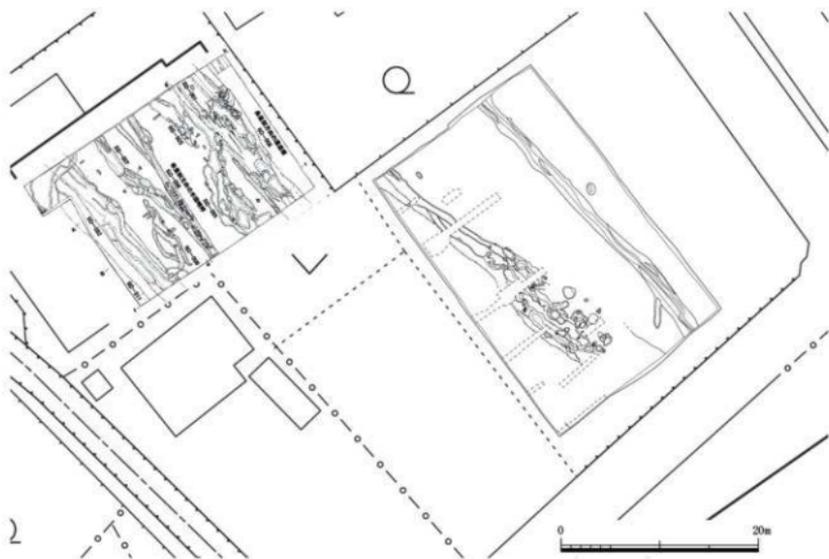


図3 調査区位置図(1/500)

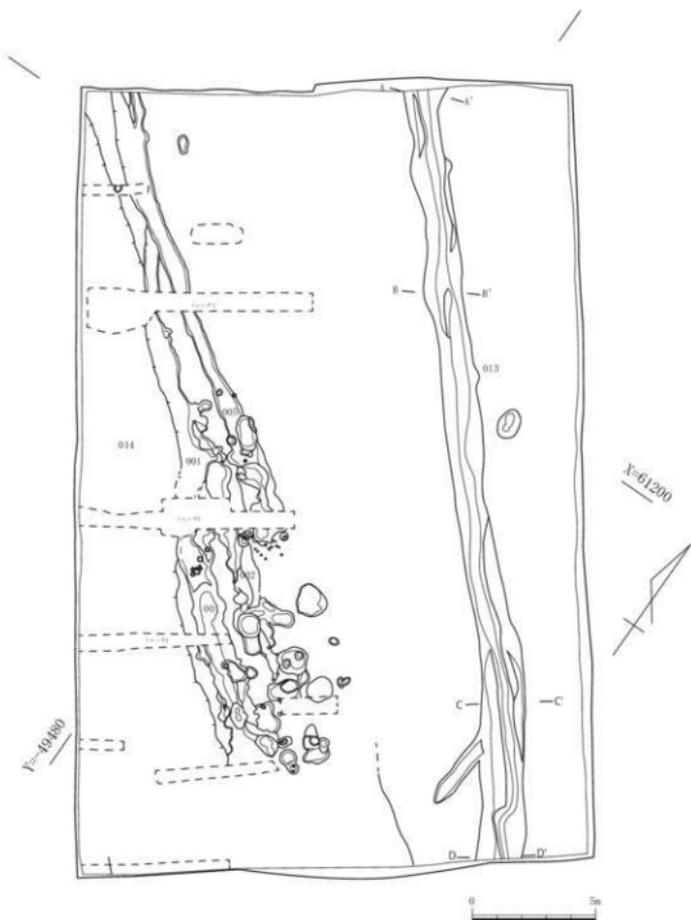


图4 调查区全体图 (1/200)

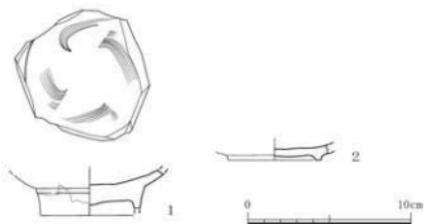


图5 出土遺物実測図 (1/3)

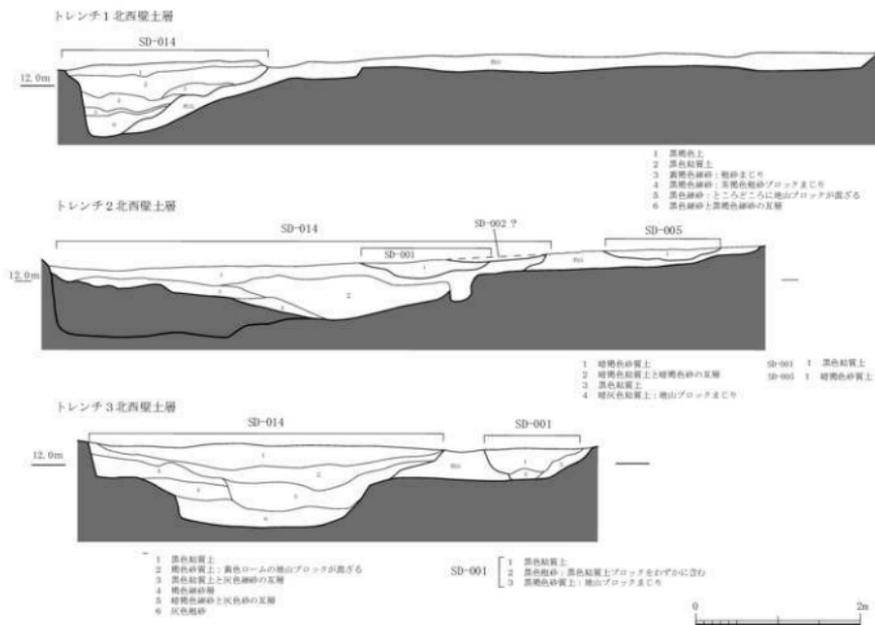


図6 SD-014、SD-005、SD-001 土層図 (1/60)

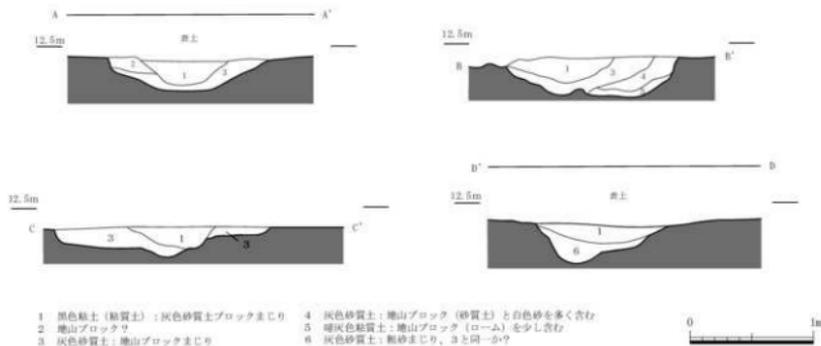
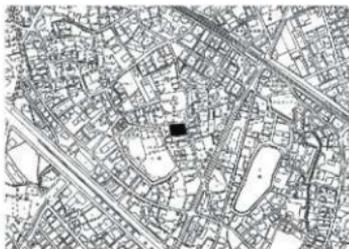


図7 SD-013 土層図 (1/40)

1966 井尻B遺跡第46次 (IGB-46)

所在地 南区井尻5丁目24-1
 調査原因 共同住宅建設
 調査期間 2020.3.16～2020.4.13
 調査面積 150㎡
 担当者 今井隆博
 処置 記録保存



1. 調査地点の位置 (25 井尻 0090 S=8,000)

調査の概要

1. 調査に至る経緯

福岡市教育委員会は、上記地における共同住宅建設に伴う埋蔵文化財の有無についての照会（事前審査番号 2019-2-239）を令和元年6月4日付で受理した。これを受けて埋蔵文化財課事前審査係は、申請地が周知の埋蔵文化財包蔵地である井尻B遺跡に含まれていることから同年6月12日に確認調査を実施し、現地表下90cm付近で遺構を確認した。この結果を踏まえ、遺構の保全等に関して申請者と協議を行ったが、埋蔵文化財への影響が回避できないことから、共同住宅が建設される範囲について記録保存のための発掘調査を実施することで合意した。発掘調査は令和2年3月16日に着手し、同年4月13日に終了した。



2. 調査前現況（南東から）

2. 立地と環境

井尻B遺跡は那珂川と御空川の間に形成された洪積中段丘面上に立地する。今回の調査地点は井尻B遺跡の南部にあたり、地祿社の南側に位置する。道路を挟んで東側の23次・24次地点では土坑・溝・ピット等が検出されているが、遺構密度はうすく、出土遺物もごくわずかである。南東約20mに位置する2次調査地点では、旧石器、弥生～古墳時代の集落と墓、井尻B1号墳、古代の竪穴住居等が確認されている。



3. 調査区周辺図 (S=1/1,000)



4. 調査区位置図 (S=1/300)



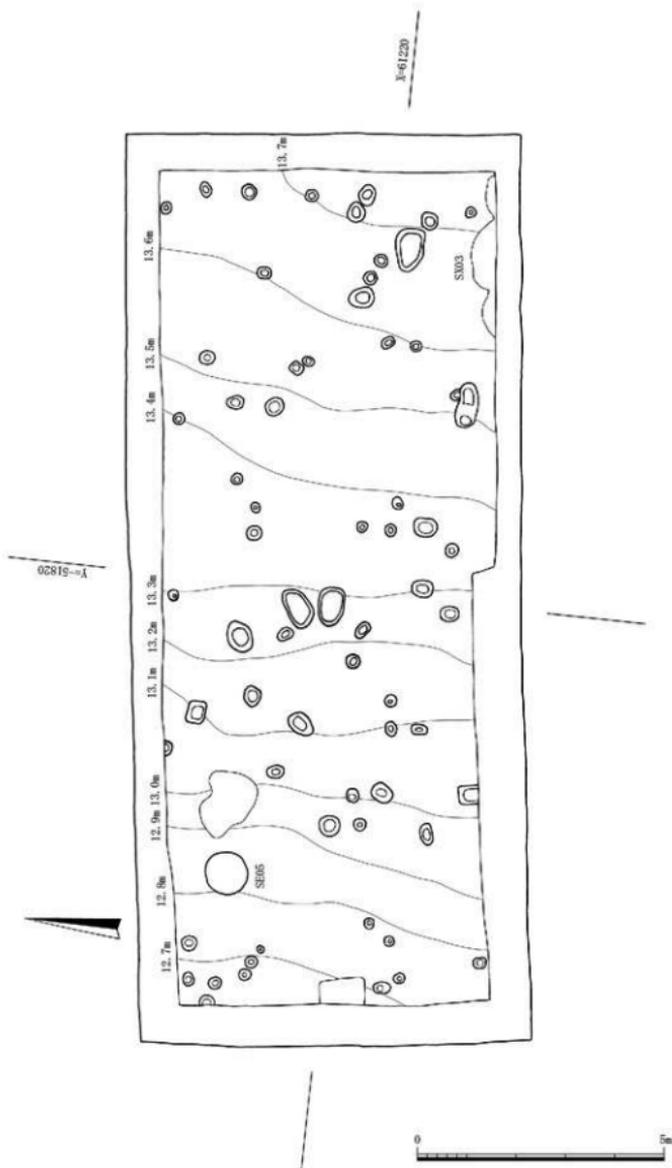
5. 1区全景 (東より)



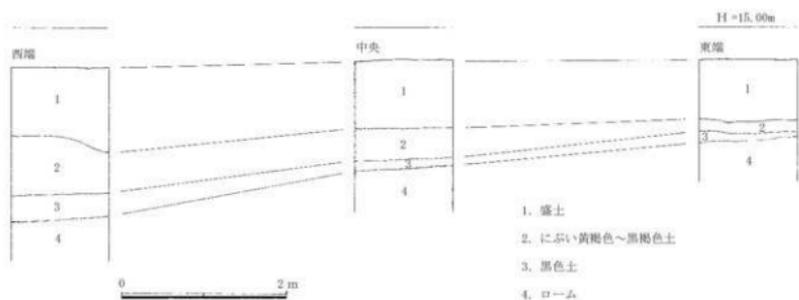
6. 2区全景 (東より)

3. 調査の記録

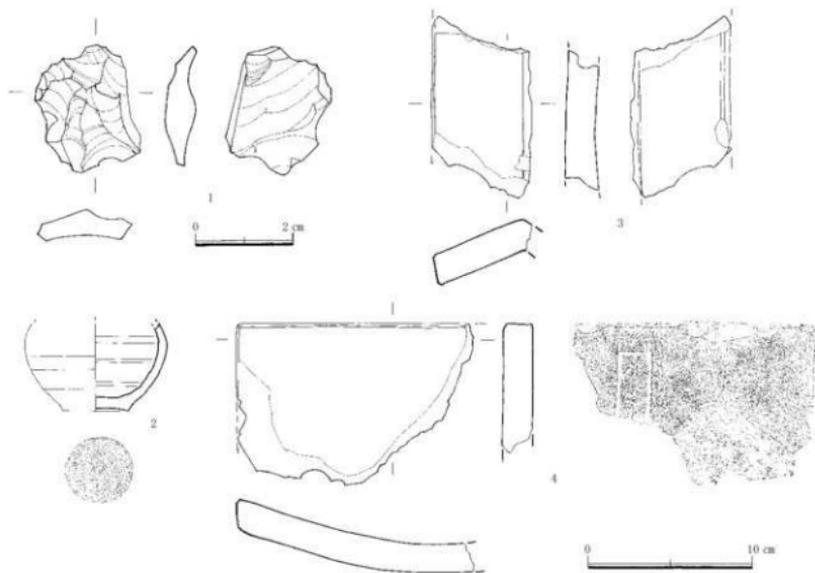
申請地には以前は共同住宅が建っていた。調査前は更地で標高約 14.6 m、北側道路と西側民地より 50cm程高くなっている。調査区東端における基本層序は、真砂土等の現代盛土の下、GL-70cmでにぶい黄褐色～黒褐色土、-90cmで黒色土、-100cmで地山である鳥栖ロームに達する。遺構検出面であるローム面の標高は、調査区東端で 13.7 m、西端で 12.7 mで、西に向かって下がる地形である。検出した遺構はピット・土坑・井戸で、密度は散漫である。遺構覆土は黒色・褐色・灰褐色等であるが、木根も多いと思われる。ピットの時期は判然としないが、弥生時代～中世のものと思われる。建物としてまとまるものはない。出土遺物は弥生時代～近世の土器・陶磁器・瓦等で、コンテナケース 1箱分である。



7. 調査区全体図 (S=1/100)



8. 北壁土層略図 (S=1/60)



9. 出土遺物実測図 (S=1/1、1/3)

出土遺物 1・2は攪乱であるSX03より出土した。1は黒曜石剥片、2は素焼きの小壺である。底部には回転糸切痕が残る。3・4は近世以降の井戸SE05から出土した瓦片である。3は棧瓦の破片。4には刻印が施されているが、不明瞭で判読できない。

4. まとめ

今回の調査により、井尻B遺跡の縁辺部における遺構の広がり地形を把握することができた。攪乱より黒曜石剥片が1点出土したためロームの掘り下げも行ったが、旧石器を含むローム層は確認されなかった。

1969 麦野 A 遺跡第 30 次調査 (MGA-30)

所在地	博多区麦野 6丁目 5 番 1
調査原因	共同住宅建設
調査期間	2019.3.23 ~ 2019.4.3
調査面積	71㎡
担当者	吉田大輔
処置	記録保存

調査の概要

調査に至る経緯

令和元(2019)年12月9日付で、上記地内における共同住宅建設工事に伴う埋蔵文化財の有無についての照会が、福岡市経済観光文化局文化財活用部埋蔵文化財課宛になされた(事前審査番号:2019-2-964)。照会地は周知の埋蔵文化財包蔵地である麦野 A 遺跡に含まれること、また、当該地が周辺道路よりも1m程高く、旧地形が残っていることが予想されることから、令和元(2019)年12月25日に確認調査を実施し、その結果、現地表面下0.65mで烏桕ローム層の地山に達し、その上面で柱穴・小穴等の遺構が確認された。

これを受け、遺跡の保全等について申請者と協議を行った結果、事業対象地のうち、工事により埋蔵文化財への影響が回避できない範囲100㎡を対象として記録保存のための発掘調査を実施することで合意した。その後、令和2年(2020)年3月16日付で事業主体者である株式会社カミケンを委託者、福岡市長を受託者として埋蔵文化財調査業務委託契約を締結し、令和2年(2020)年3月17日より発掘調査を、翌令和3年度に資料整理・報告書作成を行うこととなった。

立地と環境

麦野 A 遺跡は、春日丘陵の東辺にほぼ平行して南北に延びる台地上に立地している。この台地は南北約1.2km東西約0.4kmで、北西方向から多くの谷により開析され数条の舌状台地を形成している。現況の地表面の標高は約12~16.5mを測る。この舌状台地上には麦野 A~C 遺跡・南八幡遺跡・雑隈隈遺跡などの遺跡群が展開している。これまでの調査成果から、本遺跡では、縄文時代と推定される落とし穴状土坑も少数ながら検出されているが、弥生時代から中世後半までの遺構が主体を占める。主たる時期は古代で、周辺の南八幡遺跡・雑隈隈遺跡も含め、大規模な集落が存在していたことが知られており、柵列や溝、門等で構成される官衙的な遺構も検出されている。

調査の経過

調査地の標高は、現況で14.8m程を測り、周辺の道路より1.05m程度高く、確認調査時には現地表面から約0.65m掘り下げたところで遺構が確認された。調査の対象は、敷地全体187.45㎡のうち100㎡としたが、敷地の外周部分は既に削平を受けている部分が多く、その部分は調査対象から除外し、また排土処理と周辺への安全対策を考慮した結果、実際の調査面積は71㎡となった(Fig. 2)。

発掘調査は、令和2(2020)年3月23日に開始した。まず、地表面から0.6~0.7m程表土を重機により掘取った。烏桕ローム層の地山が露出した部分については、遺構検出を行った。また、調査区の東半はローム層が露出せず、黒褐色粘質土の遺物包含層が堆積している状況であったため、4本のトレンチを入れ、堆積状況等を確認した。これと並行して、遺構の掘削や精査、写真撮影や実測図等の記録類を作成し、その後、人力による埋め戻しと整地を行い、機材等を撤収して同年4月3日に調査を終了した。



1. 調査地点の位置 (12 麦野 0048 S=8,000)

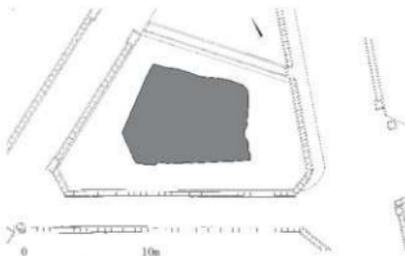


Fig.2 調査区位置図 (1/400)

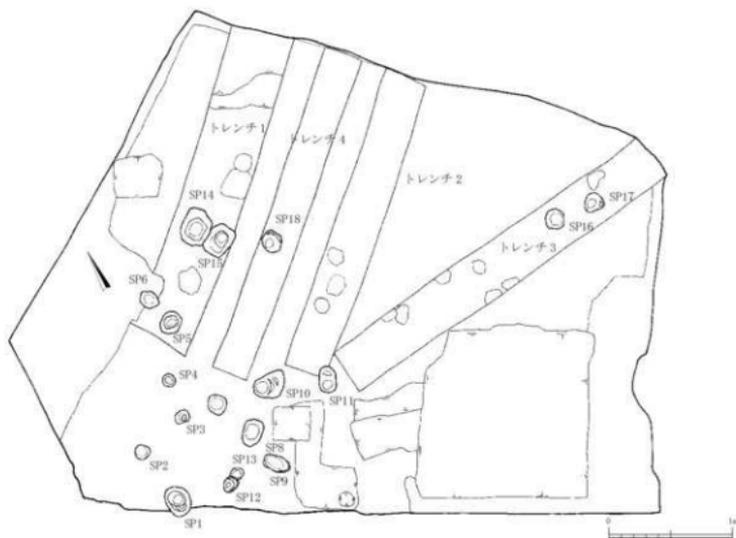


Fig.3 遺構配置図 (1/40)

遺構

本調査で検出した遺構は、小穴 18 基である。遺構は、表土剥ぎの時点で鳥橋ローム層が露出した調査区北西部で多く確認し、上述したトレンチ底面でも少数ながら検出できた。調査区には近現代の住宅に関わる構築物や工事等により攪乱を受けている部分も多く、また、小穴状の落ち込みも確認されたが、輪郭が不明瞭で、底面に凹凸が多いため、これらは木の根であると考えられる。遺構の一部を図示したが、規模等は遺構一覧表を参照されたい(Fig. 4・Tab. 1)。これらの中には柱穴とみられるものもあるが、その並びから建物等を復元することはできなかった。遺構からは、8世紀前半頃の土師器杯・甕や須恵器杯・甕・壺片がわずかに出土した。トレンチによる黒褐色粘質土の遺物包含層の調査では、この包含層が西から東に向かって傾斜した斜面上に堆積する状況を確認し、8世紀代の土師器・須恵器片が出土した。

出土遺物

出土遺物の一部を Fig.5 に示した。1・2 は、S P 10 出土。1 は須恵器杯蓋で、天井部には極端に扁平なつまみが付く。つまみの径は 3.6cm を測る。外面は回転ヘラケズリ、内面は丁寧にナデ調整される。2 は土師器杯蓋で、全体に摩滅する。器形は扁平で、須恵器を模倣したものか。胎土には雲母・白色微砂粒が多く含まれる。3 は、S P 15 出土の須恵器鉢か壺の底部か。高台が付くが、その大部分が欠損する。4・5・7 は、それぞれトレンチ 1、トレンチ 2、トレンチ 4 出土の須恵器杯身底部で、低い高台が貼付される。胴部内面底部ナデ、胴部内面は回転ヨコナデ調整される。6 は、トレンチ 2 出土の須恵器杯蓋で、つまみの有無は不明だが、天井部外面は回転ヘラケズリ、内面はナデで、そのほかは回転ヨコナデ調整される。8 は、移動式竈の基部と考えられる。底部は平坦にし、底部の内側に張り出すように粘土帯を貼り付け、断面三角形に成形される。底部外面や上には横方向のハケメが残る。9～11 は、検出面出土。9 は須恵器壺か鉢の底部か。底面はヘラケズリ、内外面はナデ調整される。10 は同安窯系白磁碗の底部で、高台は露胎で、内面は施釉される。11 は近世陶器碗の底部で、高台豊付から高台内は露胎である。外面には灰釉が施され、灰白色を呈する。

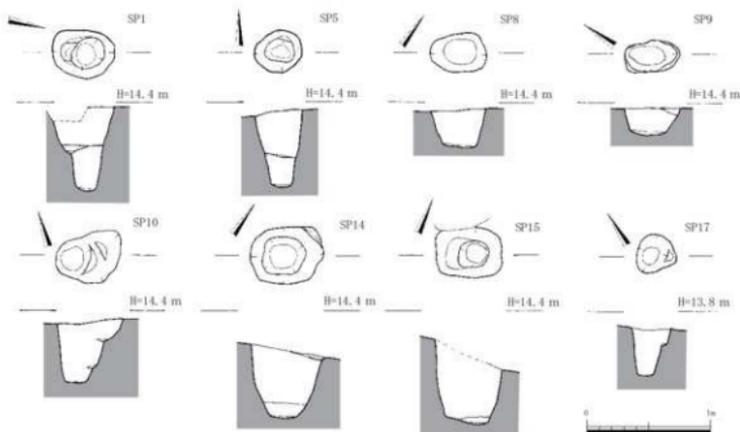


Fig.4 遺構実測図 (1/40)

Tab.1 検出遺構一覧表

遺構番号	平面形	規模(m)	出土遺物	遺構番号	平面形	規模(m)	出土遺物
SP 1	楕円形	長軸:0.5 短軸:0.4 深さ:0.79	土師器蓋片、土師器皿片、須恵器杯片	SP10	不整形円形	長軸:0.58 短軸:0.42 深さ:0.5	土師器杯蓋片、須恵器高台付杯片
SP 2	不整形円形	径:0.25 深さ:0.15		SP11	長楕円形	長軸:0.45 短軸:0.26 深さ:0.2	
SP 3	隅丸方形	長軸:0.25 短軸:0.2 深さ:0.4	土師器鉢口縁部片	SP12		径:0.25 深さ:0.2	
SP 4	円形	径:0.2 深さ:0.1		SP13	楕円形方	長軸:0.2 短軸:0.18 深さ:0.1	
SP 5	不整形円形	径:0.35~0.4 深さ:0.62		SP14	不整形円形	長軸:0.6 短軸:0.45 深さ:0.6	土師器皿底部片
SP 6	不整形円形	径:0.27~0.3 深さ:0.2		SP15	隅丸長方形	長軸:0.52 短軸:0.42 深さ:0.68	土師器鉢片(厚付蓋)、須恵器巻方鉢底部
SP 7	不整形円形	径:0.3~0.35 深さ:0.21~0.23		SP16	不整形円形	径:0.3 深さ:0.16	
SP 8	楕円形	長軸:0.45 短軸:0.3 深さ:0.3	土師器皿口縁部片、土師器片	SP17	不整形円形	径:0.32 深さ:0.36	土師器片
SP 9	長楕円形	長軸:0.45 短軸:0.25 深さ:0.22	土師器皿片、須恵器杯蓋	SP18	不整形円形	径:0.35 深さ:0.27	

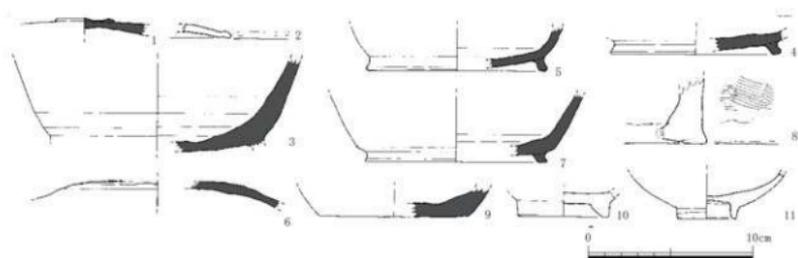


Fig.5 出土遺物実測図 (1/3)

まとめ

調査では小穴 18 基を確認し、これらは出土遺物から概ね 8 世紀前半頃の遺構とみられる。調査範囲は狭いが、検出された遺構は疎らである。遺構の並びから掘立柱建物等を復元することはできなかった。遺構検出を行ったローム層の標高は、高いところで 14.3 m、低いところで 13.6 m を測り、調査地の地形は北西～西側から南東～東側に向かって緩やかに傾斜していることが分かる。黒褐色粘質土の遺物包含層もこの傾斜に沿って堆積していた。

この遺物包含層からは、少量の遺物が出土したが、古墳時代の古式土師器がわずかに含まれるものの、遺物の多くは、古代に位置付けられるものである。調査区の清掃および遺構の検出時には、中世～近世にかけての遺物も出土したが、量はわずかである。

周辺の地形や過去の調査等を合わせて考えると、調査地の東から南側は谷となっており、調査地は南西から北東方向にのびる細長い丘陵の先端部に近い、東側～南側斜面にあたるものと考えられる。調査によって確認できた遺構の拡がりや地形を考慮すると、集落域の範囲は調査地より北東から東側へは広がらない可能性が高いことが確認でき、現在は改変されてしまった旧地形の様相も窺い知ることができた。



写真1 調査区全景 東から



写真2 調査区全景 南東から



写真3 調査区全景 西から



写真4 遺構検出状況 北から

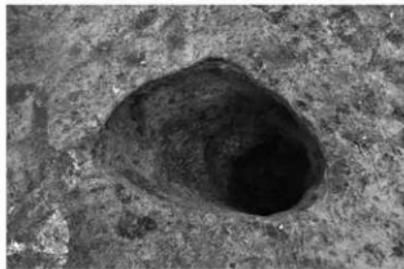


写真5 SP10 完掘状況 北から

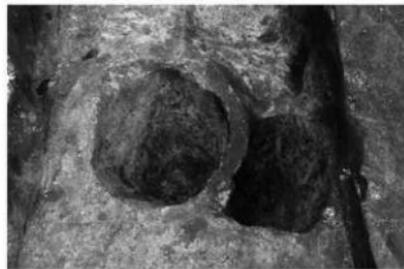


写真6 SP14・SP15 検出状況 南西から



写真7 トレンチ1 北壁土層 南から



写真8 トレンチ1・2・4 掘削状況 南から

報告書抄録

所収遺跡名 <small>所在地</small>	年代 <small>調査時期</small>	コード <small>市町村 遺跡番号</small>		北緯	東経	調査開始 <small>調査終了</small>	調査面積 <small>(㎡)</small>	調査原因			
		市町村	遺跡番号								
弥生A遺跡 (2005 17次) <small>福岡市埋蔵文化財年報 令和2 (2020) 年度版 35</small> <small>田上勇一郎 福岡市教育委員会 福岡市中央区天神1丁目8-1 令和3 (2022) 年3月</small>	<small>弥生時代</small> <small>弥生時代</small>	<small>福岡市</small> <small>南区</small>	<small>白佐3丁目88番2</small>	40134	0105	33°32'04"	130°26'21"	2020.4.9	2020.4.28	51.00	個人住宅建設
中村町遺跡 (2009 9次) <small>弥生時代</small>	<small>弥生時代</small>	<small>福岡市</small> <small>南区</small>	<small>野間3丁目179番の一部</small>	40134	0167	33°33'34"	130°24'52"	2020.5.13	2020.5.28	90.65	個人住宅建設
中村町遺跡 (2010 10次) <small>弥生時代</small>	<small>弥生時代</small>	<small>福岡市</small> <small>南区</small>	<small>野間3丁目179番の一部</small>	40134	0167	33°33'34"	130°24'52"	2020.6.1	2020.6.24	110.44	戸建住宅建設
有田遺跡群 (2014 271次) <small>弥生時代</small>	<small>弥生時代</small>	<small>福岡県</small> <small>早良区</small>	<small>有田2丁目11番2</small>	40137	0309	33°33'47"	130°20'10"	2020.6.15	2020.7.9	148.29	戸建住宅建設
那珂遺跡群 (2021 183次) <small>弥生時代</small>	<small>弥生時代</small>	<small>福岡県</small> <small>博多区</small>	<small>那珂1丁目392-2</small>	40132	0085	33°34'14"	130°26'14"	2020.7.13	2020.8.4	41.32	共同住宅建設
差野B遺跡 (2022 7次) <small>弥生時代</small>	<small>弥生時代</small>	<small>福岡県</small> <small>博多区</small>	<small>三筑2丁目11番2外</small>	40132	0049	33°32'58"	130°27'26"	2020.7.20	2020.9.3	881.25	保留所建設
山王遺跡 (2027 17次) <small>弥生時代</small>	<small>弥生時代</small>	<small>福岡県</small> <small>博多区</small>	<small>山王2丁目18-14</small>	40132	2379	33°34'45"	130°26'09"	2020.9.14	2020.10.28	88.00	戸建住宅建設
差野A遺跡 (2041 31次) <small>弥生時代</small>	<small>弥生時代</small>	<small>福岡県</small> <small>博多区</small>	<small>差野3丁目11-3、11-99</small>	40132	0048	33°33'13"	130°27'38"	2021.1.18	2021.2.19	176.00	戸建住宅建設
鳥飼遺跡 (2047 13次) <small>弥生時代</small>	<small>弥生時代</small>	<small>福岡県</small> <small>中央区</small>	<small>今川2丁目22番1</small>	40133	2435	33°35'14"	130°21'56"	2020.7.14	2020.7.14	18.60	確認調査
井相田E遺跡 (1963 23次) <small>弥生時代</small>	<small>弥生時代</small>	<small>福岡県</small> <small>博多区</small>	<small>井相田3丁目8-3</small>	40132	2881	33°33'02"	130°28'02"	2020.3.5	2020.3.31	661.60	掘土
井相田B遺跡 (1966 46次) <small>弥生時代</small>	<small>弥生時代</small>	<small>福岡県</small> <small>南区</small>	<small>井相田5丁目177-1、177-2、177-7</small>	40134	0090	33°33'02"	130°26'31"	2020.3.16	2020.4.13	150.00	共同住宅建設
差野A遺跡 (1969 33次) <small>弥生時代</small>	<small>弥生時代</small>	<small>福岡県</small> <small>博多区</small>	<small>差野6丁目5番1</small>	40132	0048	33°32'59"	130°27'52"	2020.3.23	2020.4.3	71.00	共同住宅建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
弥生A遺跡 (2005 17次)	集落跡	弥生～古墳	竪穴住居・ピット	弥生土器・土師器	
中村町遺跡 (2009 9次)	集落跡	弥生～古代	溝・土坑・ピット	弥生土器・土師器・須恵器	
中村町遺跡 (2010 10次)	集落跡	弥生～古代	溝・土坑・ピット	弥生土器・土師器・須恵器	
有田遺跡群 (2014 271次)	集落跡	弥生時代	溝	弥生土器	
那珂遺跡群 (2021 183次)	集落跡	弥生～中世	土坑・溝・ピット	弥生土器・土師器・須恵器・買期陶磁器	
差野B遺跡 (2022 7次)	集落跡	縄文時代	土坑・ピット	黒曜石片	
山王遺跡 (2027 17次)	集落跡	弥生～中世	溝・土坑・ピット	弥生土器・須恵器	
差野A遺跡 (2041 31次)	集落跡	古代～中世	溝・ピット	土師器・須恵器・買期陶磁器	
鳥飼遺跡 (2047 13次)	集落跡	弥生時代		弥生土器	
井相田E遺跡 (1963 23次)	集落跡	古代～中世	溝	土師器・須恵器・買期陶磁器	
井相田B遺跡 (1966 46次)	集落跡	弥生～中世	土坑・ピット	弥生土器・買期陶磁器	
差野A遺跡 (1969 33次)	集落跡	古代	ピット	土師器・須恵器	

福岡市埋蔵文化財年報
Vol.35
—令和2 (2020) 年度版—

発行日 令和4年3月24日
編集・発行 福岡市教育委員会
〒810-8621 福岡市中央区天神1丁目8-1

印刷 株式会社ソウヤマ印刷
〒812-0041 福岡市博多区吉塚4丁目3番18号

THE ANNUAL REPORT
OF
THE BURIED CULTURAL OF FUKUOKA CITY
VOLUME 35



THE BOARDS OF EDUCATION OF FUKUOKA CITY

DECEMBER 2021

JAPAN